

押 出 遺 跡  
発掘調査報告書  
(本文編)

1990

建設省東北地方建設局山形工事事務所  
山形県教育委員会

<sup>おん</sup> 押 <sup>だし</sup> 出 遺 跡  
発掘調査報告書  
(本文編)

平成2年3月

建設省東北地方建設局山形工事事務所  
山形県教育委員会



彩文土器片出土状況 (RP11)



ST-29彩文土器出土状況 (RP300)



遺跡遠景（北から）



遺跡遠景（東から）



遺跡遠景（南から）



第1次調査 ST-11全景（南から）



第2次調査 ST-18周辺検出作業状況（東から）



第3次調査区 ST-30周辺検出作業状況（南から）



第3次調査南壁土層断面



ST-11土層断面 (南東から)



住居跡根太検出状況 (ST-11)



ST-10土層断面 (南から)



ST-15完掘状況 (東から)



ST-2 全景 (西から)



ST-20空中写真



ST-32全景 (北東から)



ST-32木柱断面



彩文土器出土状況 (RP183)



彩文土器出土状況 (RP239)



彩文土器出土状況 (RP357)



篋状木製品出土状況 (RW76)



有孔木製品出土状況 (RW39)



木胎漆器出土状況 (RW151)



土器出土状況 (RP345)



豎櫛出土状況 (RX 8)



ST-11石器出土状況



クッキー状炭化物出土状況



弓状木製品出土状況



炭化キノコ出土状況 (RN18)



彩文土器 RP1・3・4・22・24・97・102・132・155~157・160



彩文土器 RP300



彩文土器 RP302



彩文土器 RP357



彩文土器 RP301



彩文土器 RP239





RP237



RP200



RP379



RP66-  
68-69



RP345



RP173-  
178-179



RP20



ATP- XII - XIII



RP342



ST-11



RP356



RP363 · 364



RP11



RP16



ST-11



樹皮製品 (RW136a)



有孔木製品 (RW99)



籠状木製品



樹皮巻木製品



樹皮



クッキー状炭化物



漆附着土器



サルノコシカケ (RN2)



ヒシの実



櫛 (RX7)



櫛 (RX6)



編物 (RX1)



管玉出土状況 (RQ2840)



珠状耳飾出土状況 (RQ2692)



珠状耳飾出土状況 (RQ2691・2692)

## 序

本報告書は、山形県教育委員会が昭和60年度から昭和62年度の3カ年に亘り実施した「押出（おんだし）遺跡」の緊急発掘調査の記録をまとめたものです。

押出遺跡は、この地域に広がる大湿地帯「大谷地」にある低湿地性遺跡のため、私たちが今まで想像もできなかった様々なことを明らかにしてくれました。数千本に及ぶ住居跡木柱の遺存、あざやかな漆塗りの彩文土器、精巧な木製品、人々が食したと考えられるクッキー状炭化物、そしてその「文化」を支えた多くの道具類などは、縄文時代に生きた人々の息吹がそのまま伝わってくると申しましても言い過ぎではないでしょう。これらは、今、改めて私たちに、5,000年前の豊かなる生活を思い起こさせます。

近年、埋蔵文化財と諸開発事業のかかわりは増加の傾向にあります。県民福祉の向上を目的とする諸開発事業と、先人の遺産であり、明日の私たちの生きる方向を知るうえでかけがえのない証しである埋蔵文化財の保護、この両者には困難な問題もありますが、状況に応じた適切な対処が望まれています。

このたびの押出遺跡の発掘調査に当たっては、建設省東北地方建設局山形工事事務所や高島町教育委員会から全面的なご協力を得ることができました。山形県教育委員会では、県政指針の一つである「心広くたくましい県民の育成」という立場から一つずつ問題を解決し、今後とも埋蔵文化財の保存と活用のため努力を続けてまいります。

おわりに、本調査にご指導・ご協力を賜りました関係各位ならびに地元の方々に深く感謝申し上げますとともに、本書が、埋蔵文化財に対する理解を深め、その保護と普及の一助となれば幸いです。

平成2年3月

山形県教育委員会

教育長 木場 清 耕

# 例 言

1 本書は、建設省東北地方建設局山形工事事務所の委託を受けて、山形県教育委員会が昭和60年度から昭和62年度の3カ年に亘り実施した国道13号線米沢南陽道路建設工事に係わる「押出遺跡」の緊急発掘調査の報告書である。

2 発掘調査は以下の日程で実施した。

現地調査 第1次調査 昭和60年8月1日～昭和60年11月30日

第2次調査 昭和61年5月22日～昭和61年11月30日

第3次調査 昭和62年5月1日～昭和62年9月30日

整理作業 昭和62年5月6日～平成元年3月25日

平成元年5月14日～平成2年3月23日

3 遺跡の所在地は、山形県東置賜郡高畠町深沼字押出2859-1他で、山形県遺跡地図には、遺跡番号1302として登録されている。遺跡の略号は「DTHOD」とした。

4 調査体制は下記のとおりである。

調査主体 山形県教育委員会

調査担当 山形県埋蔵文化財緊急調査団

調査担当者 主任調査員 佐々木洋治（山形県教育庁文化課 埋蔵文化財主査）

同 佐藤 庄一（同 埋蔵文化財係長）

同 佐藤 正俊（同 主任技師）昭和63・平成元年度

現場主任 同（同 同）昭和60・61年度

同 長橋 至（同 技師）昭和60・61年度

同（同 同）昭和62～平成元年度

調査員 野尻 侃（同 主任技師）昭和60年度

渋谷 孝雄（同 技師）昭和62年度

阿部 明彦（同 同）昭和61年度

安部 実（同 同）昭和60年度

武田 昭子（同 嘱託）昭和60～63年度

太田 優（同 同）昭和60年度

黒坂 雅人（同 同）昭和62年度

軽部 文雄（同 同）昭和63・平成元年度

事務局 事務局長 小関 陽三（同 課長）昭和60年度

同 後藤 茂彌（同 同）昭和61～63年度

同 土門 紹穂（同 同）平成元年度

事務局長補佐 加藤 友信（同 課長補佐）昭和60年度

同 芝野 健三（同 同）昭和61年度

事務局長補佐 土門 紹穂 ( 同 課長補佐) 昭和62・63年度  
同 齊藤 久子 ( 同 同 ) 平成元年度  
事務局員 齊藤世都子 (昭和60年度)・中畷 寛 (昭和60・61年度)・  
氏家 修一 (昭和60~62年度)・長谷部恵子 (昭和61~63年度)・  
菅原 徳喜 (昭和62年度)・佐藤 大治 (昭和62年度)・  
長谷川 浩 (昭和63・平成元年度)・新関 紘子 (平成元年度)

5 調査協力 建設省東北地方建設局山形工事事務所・東南置賜教育事務所・高島町教育委員会・  
屋代郷土地改良区・たいようパン株式会社・羽山総合建設株式会社・不動建設株式会社・パリノ・  
サーヴェイ株式会社

6 本書の作成は、佐々木洋治・佐藤庄一・佐藤正俊・長橋 至・軽部文雄が担当し、執筆も分担  
して行った。編集は長橋 至・佐藤庄一が担当し、全体については佐藤庄一が総括した。

7 調査にあたり、各専門分野から指導を得るため、下記メンバーによる押出遺跡検討会を設置し  
た。(五十音順)

阿子島 功 (山形大学教育学部助教授・地理)

加藤 稔 (山形県立博物館主任研究員・考古)

粉川 昭平 (大阪市立大学理学部教授・植物)

小林 達雄 (國學院大學文学部教授・考古)

肥塚 隆保 (奈良国立文化財研究所主任研究員・保存処理)

沢田 正昭 (奈良国立文化財研究所遺物処理研究室長・保存処理)

中野 益男 (帯広畜産大学助教授・残留脂肪酸分析)

松谷 暁子 (東京大学総合科学研究所研究員・種子)

宮本長二郎 (奈良国立文化財研究所 建造物研究室長・建造物)

8 現地調査・報告書作成にあたっては次の方々からご指導と御助言を賜った。記して感謝申し上げる。田中 琢、佐原 真、柏倉亮吉、加藤晋平、大塚初重、芹沢長介

9 現地調査、報告書作成にあたって次の方々の協力を得た。

高柳圭一 (早稲田大学大学院)、鈴木良仁 (日本大学)、佐藤 啓 (筑波大学)、石橋 丈 (東京大学)、加藤勝仁 (早稲田大学)、松田光太郎 (早稲田大学)、友部輝仁 (文教大学)、風間栄一 (早稲田大学)、伊藤成美 (東北学院大学)、山口博之 (山形市立出羽小学校)、石井浩幸 (尾花沢市立明德小学校)

10 現地調査期間中の昭和61年9月12日~13日の両日、「縄文時代の低湿性遺跡を対象とした古環境変遷の総合的研究(研究代表者 市原壽文 静岡大学)」のプロジェクトチームが来跡、各種データの収集と資料サンプリングを行なった。結果については「研究結果報告書」として昭和63年3月に静岡大学から発行されている。

11 出土遺物については、山形県教育委員会が一括保管している。

# 目 次

I 調査に至る経過 .....	1
II 遺跡の立地と環境 .....	2
III 調査の経過 .....	6
IV 遺跡の概要 .....	10
V 検出された遺構 .....	17
VI 遺物の分析 .....	83
VII 出土した遺物 .....	111
1 土 器 .....	111
2 石 器 .....	201
3 木 製 品 .....	286
4 木 柱 .....	297
5 自然遺物 .....	318
VIII 調査のまとめ .....	351

# 表

表1 周辺の遺跡一覧 .....	5
表2 土器・自然遺物集計表 .....	88
表3 石器群の資料数 .....	201
表4 石器組成比 .....	202
表5 石器類の長幅分布 1 .....	212
表6 石器類の長幅分布 2 .....	213
表7 石器類の重量分布 .....	214
表8 木柱（柱径・樹種）集計表 .....	317

# 挿 図

第1図	米沢盆地地形分類図……………	3	第34図	18号住居跡(2)断面図……………	57
第2図	遺跡位置図……………	4	第35図	19・21号住居跡(1)平面図……………	58
第3図	遺跡全体図……………	8	第36図	19号住居跡(2)断面図……………	59
第4図	第1～3次調査基本層序図……………	11	第37図	20号住居跡(1)平面図……………	60
第5図	調査区全体図……………	13・14	第38図	20号住居跡(2)断面図……………	61
第6図	遺構配置図(住居跡関係遺構)……………	15	第39図	22号住居跡平面図……………	62
第7図	遺構配置図(遺構毎分割)……………	16	第40図	23・24号住居跡平面図……………	63
第8図	1号住居跡平面図・断面図……………	30	第41図	25号住居跡平面図……………	64
第9図	2号住居跡平面図・断面図……………	31	第42図	26号住居跡(1)平面図……………	66
第10図	3・4号住居跡平面図・断面図……………	32	第43図	26号住居跡(2)断面図……………	67
第11図	5号住居跡平面図・断面図……………	33	第44図	27・29号住居跡平面図・断面図……………	68
第12図	6・7号住居跡(1)平面図……………	34	第45図	28号住居跡平面図・断面図……………	69
第13図	6・7号住居跡(2)断面図……………	35	第46図	30号住居跡平面図・断面図……………	70
第14図	8号住居跡平面図……………	36	第47図	31号住居跡(1)平面図……………	72
第15図	9号住居跡平面図・断面図……………	37	第48図	31号住居跡(2)断面図……………	73
第16図	10号住居跡(1)平面図……………	38	第49図	32号住居跡(1)平面図・断面図……………	74
第17図	10号住居跡(2)断面図……………	39	第50図	32号住居跡(2)木柱断面図……………	75
第18図	11号住居跡(1)平面図……………	40	第51図	33・38号住居跡平面図・断面図……………	76
第19図	11号住居跡(2)断面図……………	41	第52図	34・35・36号住居跡平面図・断面図……………	77
第20図	12号住居跡平面図・断面図……………	42	第53図	37・39号住居跡平面図・断面図……………	78
第21図	13号住居跡(1)平面図……………	44	第54図	1号集石(1)平面図……………	80
第22図	13号住居跡(2)断面図……………	45	第55図	1号集石(2)断面図・木柱跡平面図……………	81
第23図	14号住居跡(1)平面図……………	46	第56図	遺物分布図(1) 土器片分布図……………	89
第24図	14号住居跡(2)断面図……………	47	第57図	遺物分布図(2) 彩文土器分布図……………	90
第25図	15号住居跡(1)平面図・断面図……………	48	第58図	遺物分布図(3) 石器剥片分布図……………	91
第26図	15号住居跡(2)……………	49	第59図	遺物分布図(4) 石鏃分布図……………	92
第27図	15号住居跡(3)木柱断面図……………	50	第60図	遺物分布図(5) 石槍分布図……………	93
第28図	15号住居跡(4)木柱断面図……………	51	第61図	遺物分布図(6) 押出型ポイント分布図……………	94
第29図	16号住居跡(1)平面図・断面図……………	52	第62図	遺物分布図(7) 石匙分布図……………	95
第30図	16号住居跡(2)……………	53	第63図	遺物分布図(8) 三角スクレイパー分布図……………	96
第31図	17号住居跡(1)平面図・断面図……………	54	第64図	遺物分布図(9) スクレイパー分布図……………	97
第32図	17号住居跡(2)木柱断面図……………	55	第65図	遺物分布図(10) 石錐分布図……………	98
第33図	18号住居跡(1)平面図……………	56	第66図	遺物分布図(11) 篋状石器分布図……………	99

第67図	遺物分布図(2)	打製石斧分布図…	100	第103図	出土土器(26)	ST16(3)……………	156
第68図	遺物分布図(3)	磨製石斧分布図…	101	第104図	出土土器(27)	ST16(4)・ST17……	157
第69図	遺物分布図(4)	凹石分布図……………	102	第105図	出土土器(28)	ST18(1)……………	158
第70図	遺物分布図(5)	磨石分布図……………	103	第106図	出土土器(29)	ST18(2)・ST19(1)…	159
第71図	遺物分布図(6)	磨凹石分布図………	104	第107図	出土土器(30)	ST19(2)……………	160
第72図	遺物分布図(7)	砥石分布図……………	105	第108図	出土土器(31)	ST20(1)……………	161
第73図	遺物分布図(8)	石皿分布図……………	106	第109図	出土土器(32)	ST20(2)……………	162
第74図	遺物分布図(9)	異形石器分布図…	107	第110図	出土土器(33)	ST20(3)・ST26……	163
第75図	遺物分布図(20)	石製品分布図………	108	第111図	出土土器(34)	ST21～24……………	164
第76図	遺物分布図(21)	クリ分布図……………	109	第112図	出土土器(35)	ST25(1)……………	165
第77図	遺物分布図(22)	クルミ分布図………	110	第113図	出土土器(36)	ST25(2)・ST27～29…	166
第78図	出土土器(1)	ST 1～4……………	131	第114図	出土土器(37)	ST30(1)……………	167
第79図	出土土器(2)	ST 5～8……………	132	第115図	出土土器(38)	ST30(2)……………	168
第80図	出土土器(3)	ST 9……………	133	第116図	出土土器(39)	ST30(3)……………	169
第81図	出土土器(4)	ST10(1)……………	134	第117図	出土土器(40)	ST30(4)……………	170
第82図	出土土器(5)	ST10(2)……………	135	第118図	出土土器(41)	ST31(1)……………	171
第83図	出土土器(6)	ST10(3)……………	136	第119図	出土土器(42)	ST31(2)……………	172
第84図	出土土器(7)	ST10(4)……………	137	第120図	出土土器(43)	ST31(3)……………	173
第85図	出土土器(8)	ST11(1)……………	138	第121図	出土土器(44)	ST31(4)……………	174
第86図	出土土器(9)	ST11(2)……………	139	第122図	出土土器(45)	ST31(5)……………	175
第87図	出土土器(10)	ST11(3)……………	140	第123図	出土土器(46)	ST32(1)……………	176
第88図	出土土器(11)	ST11(4)……………	141	第124図	出土土器(47)	ST32(2)・ST33・38…	177
第89図	出土土器(12)	ST11(5)……………	142	第125図	出土土器(48)	ST34・ST35 ……	178
第90図	出土土器(13)	ST11(6)……………	143	第126図	出土土器(49)	ST37……………	179
第91図	出土土器(14)	ST11(7)……………	144	第127図	出土土器(50)	ST39……………	180
第92図	出土土器(15)	ST11(8)……………	145	第128図	出土土器(51)	SM1 ………………	181
第93図	出土土器(16)	ST11(9)……………	146	第129図	出土土器(52)	遺構に係する土器(1)…	182
第94図	出土土器(17)	ST11(10)……………	147	第130図	出土土器(53)	遺構に係する土器(2)…	183
第95図	出土土器(18)	ST12……………	148	第131図	出土土器(54)	遺構に係する土器(3)…	184
第96図	出土土器(19)	ST13(1)……………	149	第132図	出土土器(55)	遺構に係する土器(4)…	185
第97図	出土土器(20)	ST13(2)……………	150	第133図	出土土器(56)	遺構に係する土器(5)…	186
第98図	出土土器(21)	ST13(3)……………	151	第134図	出土土器(57)	遺構に係する土器(6)…	187
第99図	出土土器(22)	ST14……………	152	第135図	出土土器(58)	遺構に係する土器(7)…	188
第100図	出土土器(23)	ST15(1)……………	153	第136図	出土土器(59)	遺構外(1) ……………	189
第101図	出土土器(24)	ST15(2)・ST16(1)…	154	第137図	出土土器(60)	遺構外(2) ……………	190
第102図	出土土器(25)	ST16(2)……………	155	第138図	出土土器(61)	遺構外(3) ……………	191



第139図	出土土器(62)	遺構外(4)……………	192	第175図	出土石器(28)	三角スクレイパー(6)………	244
第140図	出土土器(63)	遺構外(5)……………	193	第176図	出土石器(29)	スクレイパー(1)………	245
第141図	出土土器(64)	遺構外(6)……………	194	第177図	出土石器(30)	スクレイパー(2)………	246
第142図	出土土器(65)	遺構外(7)……………	195	第178図	出土石器(31)	スクレイパー(3)………	247
第143図	出土土器(66)	漆付着土器……………	196	第179図	出土石器(32)	スクレイパー(4)………	248
第144図	出土土器(67)	彩文土器(1)……………	197	第180図	出土石器(33)	スクレイパー(5)………	249
第145図	出土土器(68)	彩文土器(2)……………	198	第181図	出土石器(34)	スクレイパー(6)………	250
第146図	出土土器(69)	彩文土器(3)……………	199	第182図	出土石器(35)	スクレイパー(7)………	251
第147図	出土土器(70)	彩文土器(4)……………	200	第183図	出土石器(36)	スクレイパー(8)………	252
第148図	出土石器(1)	石鏃(1)……………	217	第184図	出土石器(37)	スクレイパー(9)………	253
第149図	出土石器(2)	石鏃(2)……………	218	第185図	出土石器(38)	籠状石器(1)……………	254
第150図	出土石器(3)	石鏃(3)……………	219	第186図	出土石器(39)	籠状石器(2)……………	255
第151図	出土石器(4)	石鏃(4)……………	220	第187図	出土石器(40)	籠状石器(3)……………	256
第152図	出土石器(5)	石鏃(5)……………	221	第188図	出土石器(41)	石錐(1)……………	257
第153図	出土石器(6)	石鏃(6)……………	222	第189図	出土石器(42)	石錐(2)……………	258
第154図	出土石器(7)	石鏃(7)……………	223	第190図	出土石器(43)	石錐(3)……………	259
第155図	出土石器(8)	石鏃(8)……………	224	第191図	出土石器(44)	石錐(4)……………	260
第156図	出土石器(9)	石鏃(9)……………	225	第192図	出土石器(45)	石錐(5)……………	261
第157図	出土石器(40)	押出型ポイント(1)………	226	第193図	出土石器(46)	石錐(6)……………	262
第158図	出土石器(41)	押出型ポイント(2)………	227	第194図	出土石器(47)	石錐(7)……………	263
第159図	出土石器(42)	押出型ポイント(3)………	228	第195図	出土石器(48)	石錐(8)……………	264
第160図	出土石器(43)	押出型ポイント(4)………	229	第196図	出土石器(49)	打製石斧……………	265
第161図	出土石器(44)	押出型ポイント(5)………	230	第197図	出土石器(50)	磨製石斧(1)……………	266
第162図	出土石器(45)	押出型ポイント(6)………	231	第198図	出土石器(51)	磨製石斧(2)……………	267
第163図	出土石器(46)	押出型ポイント(7)………	232	第199図	出土石器(52)	磨製石斧(3)……………	268
第164図	出土石器(47)	石槍(1)……………	233	第200図	出土石器(53)	磨石(1)……………	269
第165図	出土石器(48)	石槍(2)……………	234	第201図	出土石器(54)	磨石(2)……………	270
第166図	出土石器(49)	石槍(3)……………	235	第202図	出土石器(55)	磨石(3)……………	271
第167図	出土石器(50)	石匙(1)……………	236	第203図	出土石器(56)	磨石(4)……………	272
第168図	出土石器(51)	石匙(2)……………	237	第204図	出土石器(57)	磨石(5)……………	273
第169図	出土石器(52)	石匙(3)……………	238	第205図	出土石器(58)	凹石(1)……………	274
第170図	出土石器(53)	三角スクレイパー(1)………	239	第206図	出土石器(59)	凹石(2)……………	275
第171図	出土石器(54)	三角スクレイパー(2)………	240	第207図	出土石器(60)	凹石(3)……………	276
第172図	出土石器(55)	三角スクレイパー(3)………	241	第208図	出土石器(61)	石皿(1)……………	277
第173図	出土石器(56)	三角スクレイパー(4)………	242	第209図	出土石器(62)	石皿(2)……………	278
第174図	出土石器(57)	三角スクレイパー(5)………	243	第210図	出土石器(63)	砥石(1)……………	279

第211図	出土石器(64) 砥石(2)……………	280	第233図	出土木柱(11) ST32(2)……………	309
第212図	出土石器(65) 砥石(3)……………	281	第234図	出土木柱(12) ST32(3)・ST31…	310
第213図	出土石器(66) 石製装飾品・小形石棒……	282	第235図	出土木柱(13) ST32(4)……………	311
第214図	出土石器(67) 異形石器……………	283	第236図	ホゾ穴のある木柱(1) ……………	312
第215図	道具箱遺物実測図集成……………	284	第237図	ホゾ穴のある木柱(2) ……………	313
第216図	出土木製品(1)……………	291	第238図	ホゾ穴のある木柱(3) ……………	314
第217図	出土木製品(2)……………	292	第239図	クッキー状炭化物・編物・骨角器…	321
第218図	出土木製品(3)……………	293	第240図	集成図(1) ST1・2・4・5・8…	323・324
第219図	出土木製品(4)……………	294	第241図	集成図(2) ST9・10……	325・326
第220図	出土木製品(5)……………	295	第242図	集成図(3) ST11……………	327・328
第221図	出土木製品(6)……………	296	第243図	集成図(4) ST12・13……	329・330
第222図	木柱成形模式図……………	298	第244図	集成図(5) ST14・19……	331・332
第223図	出土木柱(1) ST1・11・17……	299	第245図	集成図(6) ST15……………	333・334
第224図	出土木柱(2) ST4・6・17……	300	第246図	集成図(7) ST16……………	335・336
第225図	出土木柱(3) ST11・14……………	301	第247図	集成図(8) ST17・18……	337・338
第226図	出土木柱(4) ST6・10・11……	302	第248図	集成図(9) ST20・23・24…	339・340
第227図	出土木柱(5) ST15(1)……………	303	第249図	集成図(10) ST26・28……	341・342
第228図	出土木柱(6) ST15(2)……………	304	第250図	集成図(11) ST30……………	343・344
第229図	出土木柱(7) ST15(3)・ST17…	305	第251図	集成図(12) ST31……………	345・346
第230図	出土木柱(8) ST15(4)・ST17…	306	第252図	集成図(13) ST32……………	347・348
第231図	出土木柱(9) ST15(5)……………	307	第253図	集成図(14) ST33・38, SM1…	349・350
第232図	出土木柱(10) ST32(1)……………	308			

## I 調査に至る経過

高島町には、数多くの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）があり、縄文時代の起源にかかわる日向洞窟をはじめ多くの洞窟遺跡や古墳が点在している。また、縄文時代草創期から歴史時代までの豊富な遺跡と地形から「まほろばの里」の名で広く知られている。

押出遺跡は、この周辺一帯が大谷地と呼ばれる泥炭層地帯のため、最近までその存在が知られていなかった。昭和46年、遺跡東側にある農業用の沼尻掘排水路浚渫工事の際、地元の方々によって掘り上げられた土から多量の縄文時代前期の土器や石器、木製品や動植物の遺存体などが採集され、泥炭・湿地の遺跡として研究者の注目するところとなった。この段階ですでに、地表下約2～2.3mで漆の塗料で文様が描かれた縄文前期末の土器が出土したこと、大谷地の泥炭層によって有機質の遺物が保護された遺物のタイム・カプセルとも呼ぶべき遺跡であることなどが認識されている。また、昭和53年3月刊行の「山形県遺跡地図」にも、縄文時代の集落跡（遺跡地図番号1302番）として登録されている。

昭和56年、国道13号線南陽バイパス建設の工事実施計画の概要が明らかになったため、山形県教育委員会が昭和57年9月6日から同9日に周辺遺跡の現地確認調査を実施した。このうち、南陽バイパス建設の高島町一本柳～南陽市鳥上区間の押出遺跡周辺は、泥炭地であることにより工事の着工が早期に進められことになったため、県教育委員会では押出遺跡の重要性を踏まえて、建設省山形工事事務所と遺跡の保護対策について協議や調整を重ねてきた。

昭和59年10月22日から11月2日まで、県教育委員会は遺跡の遺存状態や性格・範囲などをより詳細に検討するための試掘調査を行った。試掘調査では、沼尻掘排水路の西壁に沿った26ヶ所の坪掘りと、バイパス道路敷地内3ヶ所のトレンチ調査およびボーリング探査を行っている。

遺跡は、地表下約2.1m～2.3mで縄文時代前期の遺物包含層が確認され、地表下2mまでは泥炭層やピート層が充満し、湿地の状態になっていた。遺物は、Aトレンチを中心に、TP1～TP18までは遺物包含層が厚く堆積し、多量の土器や石器に混じって動植物の遺存体や木製品、木柱なども発見された。B・Cトレンチでは遺物の出土が希薄になり、TP8以南やTP19以北では遺物包含層は確認されず、遺物の出土もみられない。

遺構は、北側のAトレンチにおいて竪穴住居跡や土坑が平面ならびに断面で3棟確認された。いずれも平面形が方形を示し、大きさは一辺が3m～3.5mほどになる。中央のBトレンチでは浅い不整形の落ち込みが確認されただけで、南側のCトレンチでは遺構が見つかっていない。

これにより、道路建設工事に係る遺跡の範囲は、南北約120m×東西約40mで面積が5,000㎡ほどと推定され、そのうち遺構や遺物が集中する区域は道路中央杭No.158～163で長さ100m×幅40m、面積4,000㎡の区域と想定された。（第3図）

この内容をもとに、県教育委員会が建設省山形工事事務所と協議をした結果、道路の法線や工法上の問題などを考慮し、記録保存としての緊急発掘調査を、4,000㎡の区域について、昭和60年度と61年度に実施することになった。なお、昭和60年度の第1次調査後に、遺跡の重要性から建設省とさらに協議をし、現地調査を1年延長して、昭和62年度までとした。

## II 遺跡の立地と環境

高島町は、山形県の南部、米沢盆地の北東部に位置する。東は奥羽山脈に連なる蔵王連峰や吾妻連峰を境界とし、宮城・福島の両県に接する。北は丘陵地帯で上山・南陽両市に、南は米沢市に接し、西は北流する最上川に限られる。町の東側3分の2ほどの表層の地質は、下部が酸性火山礫凝灰岩および凝灰角礫岩、上部が火山礫凝灰岩・細粒凝灰岩および凝灰岩室泥岩の互層からなる赤湯累層で、「高島石」とよばれる凝灰岩地帯が大半を占めている。

押出遺跡は、高島町の西端付近にあり、行政区域では山形県東置賜郡高島町大字深沼字押出に所在する。標高は211.52mを測り、現在の地目は水田、畑地、道路、排水路などになっている。地形的には最上川水系の吉野川が北から南へ、屋代川が東から西へ流れる合流点付近にあたり、吉野川によって形成された自然堤防すぐ下の泥炭地縁辺部に立地する。

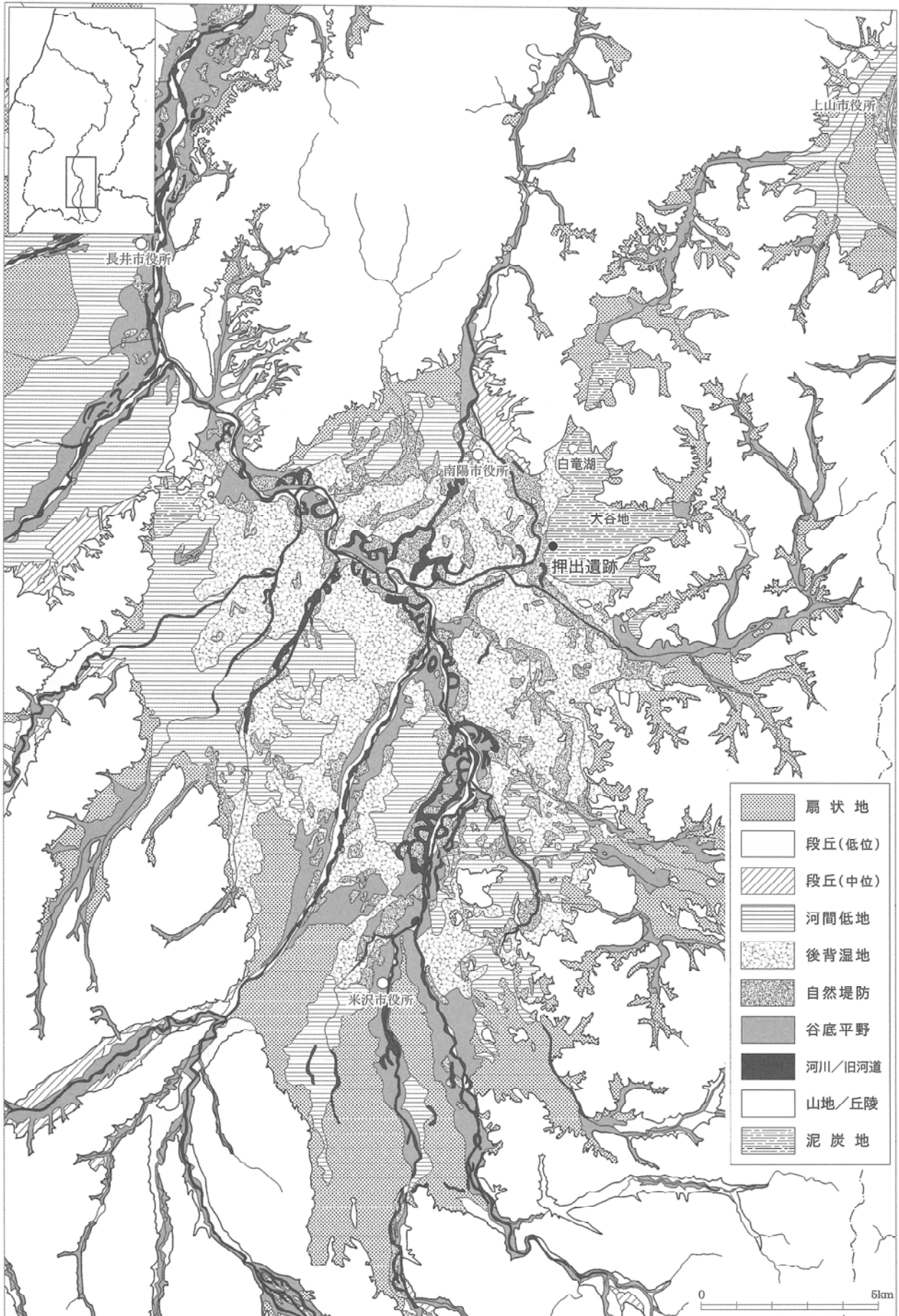
遺跡の周囲には白竜湖に代表される通称「大谷地」と呼ばれる泥炭の沖積堆積層が発達している(第1図)。大谷地は、高島町の北西部から南陽市の東部に広がる約1,000haにも及び、江戸時代初期まではヨシやマコモなどの茂る不毛の地であった。その後、山麓あるいは道路沿いから沼尻堀、横堀、立沼堀に向かって、鍬や唐鍬などによる開拓が少しずつ進んでいった。刃渡り55cmの谷地鎌による画期的な泥炭地の開拓が始まったのは明治17、18年頃からといわれている。昭和30年代になっても、腰まで泥田に入って田植えをしたり、谷地舟とよばれる田舟で苗や稲を運搬する地域の人々の姿がみられた。

大谷地の形成要因の一つとして、吉野川および屋代川の自然堤防の発達によるせき止めが考えられている。泥炭層の深さは屋代川沿いで約2m、白竜湖付近では20m以上と深くなるが、今回の押出遺跡の発掘調査で泥炭層の下から住居跡が検出されたことから、本遺跡が存在した縄文時代前期のある期間については、人が住める程度の湿地環境下での微高地があり、そこに住居が構築されて当時の自然環境に応じた生活がなされていたと考えられる。

大谷地の周辺には、これまで数多くの遺跡の存在が知られている(第2図)。北西から東辺の山麓一帯は、基盤である凝灰岩の路頭が各所にみられ、その風化により形成された洞穴、岩陰遺跡が多い。それらは縄文の草創期から人間の生活の場として利用され、国指定史跡である日向洞穴(21)・一の沢洞穴・大立洞穴(23)・火箱岩洞穴(13)など全国屈指の洞窟・岩陰遺跡群が点在する。

白竜湖のすぐ北側にあり、同じ国道13号線南陽バイパス建設工事関連遺跡として昭和62年度に発掘調査された月ノ木B遺跡(61)からは、縄文時代早期中葉から前期前葉を主とした遺物が発見され、白竜湖・大谷地での狩猟を物語るかのように石鏃が多く出土した。押出遺跡と同じ縄文時代前期の遺跡としては、このほかに北町遺跡(11)、稲荷前遺跡(12)、羽口遺跡(22)、相森遺跡(40)などがある。

また、押出遺跡の南から西辺には古墳時代以降の遺跡が数多く分布する。高島町安久津周辺の山裾には7世紀頃の横穴式石室を持つ安久津古墳群(34)、羽山古墳(37)、北目古墳群(36)などがあり、北西には全長96mを有する国指定史跡の前方後円墳である稲荷森古墳(20)や、県指定史跡二色根古墳群(8)などが所在し、県内でも古墳の多い地域となっている。



第1図 米沢盆地地形分類図



第2図 遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

表1 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	押出	集落跡	縄文	31	源福寺古墳群	古墳	古墳
2	十分一山	"	"	32	加茂山古墳	"	"
3	七両坂	"	"	33	鳥居町古墳群	"	"
4	横沢古墳	古墳	古墳	34	安久津古墳群	"	"
5	上野山古墳群	"	"	35	加茂山洞穴	集落跡	縄文・弥生
6	長峰山古墳群	"	"	36	北目古墳群	古墳	古墳
7	二色根館ノ跡	城館跡	鎌倉～室町	37	羽山	"	"
8	二色根古墳群	古墳	古墳・奈～平	38	大久保	集落跡	縄文
9	蝦夷平	教布地	縄文	39	寝鹿	"	古墳～奈良
10	金沢山ノ神	集落跡	"	40	相森	"	"
11	北町	散布地	"	41	泉岡蝦夷塚	塚墓	奈良・平安
12	稻荷前	"	"	42	上平柳	集落跡	縄文
13	火箱岩洞穴	集落跡	縄・弥・古	43	日照	"	奈良・平安
14	大師森山洞穴	墳墓	古墳	44	明神崎	包含地	"
15	地嶽岩洞穴	"	"	45	石堂山古墳	古墳	古墳
16	宝沢	包含地	縄文	46	首戸	包含地	縄文
17	萩生田	集落跡	弥生	47	高安窯	窯跡	奈良・平安
18	欄塚館ノ山	"	縄文	48	芦垣	包含地	弥生
19	長岡山	"	"	49	亀岡	墳墓	古墳
20	稻荷森古墳	墳墓	古墳	50	釜の上	集落跡	奈良・平安
21	日向洞穴	集落跡	縄・弥・古	51	糠ノ目	"	"
22	羽口	"	縄文	52	二ツ橋	"	縄文
23	大立洞穴	"	縄・弥・古・奈・平	53	鼠持古墳	古墳	古墳
24	大立岩陰	"	縄文	54	千石古墳	"	"
25	立林古墳	古墳	古墳	55	新町窯	窯跡	奈良・平安
26	根岸山	包含地	縄文	56	堂場	集落跡	縄文
27	巻数山	"	奈良・平安	57	館ヶ崎古墳	古墳	古墳
28	夏刈	集落跡	"	58	戸ノ内	集落跡	縄文
29	石ヶ森	"	縄文	59	稲子原	"	"
30	愛宕山古墳	古墳	古墳	60	月ノ木 A	"	縄文
				61	月ノ木 B	"	縄文～中世

凡例	◎	●	○	△	□	■
時代	洞穴遺跡	縄文	弥生	古墳・古墳時代	奈良～平安	中世

## Ⅲ 調査の経過

### 1 第1次調査（第3～7図）

第1次調査は、昭和59年の試掘調査に基づき、遺跡の北側1,700㎡について、昭和60年8月1日から同年11月30日まで発掘調査を実施した（第3図）。

第1次調査は、面積が広くその排土量も多いことから、東西に湧水や危険防止のための鉄鋼矢板を打込み、南北は排土の運搬道路を確保する意味からオープンにしたうえで、地表下2mまでの土取工事を実施した。この諸土木工事については、建設省東北地方建設局山形工事事務所に協力を依頼している。なお、これと並行して、各掘り下げ面における遺構や遺物の確認調査も行った。分布調査段階で須恵器が1片出土したものの、2m下の縄文時代前期まで文化層は認められない。

発掘調査は土取工事の後、調査区内に2×2mを単位とするグリッドを設定した。グリッドは、東西をX軸、南北をY軸とし、X軸は西から東側にかけてアルファベットで、Y軸は北から南側にかけて算用数字で表示した（第5図）。

調査に際しては、鉄鋼矢板を打込んでいるにもかかわらず湧き出る水が多いため、調査区の周りに約1m幅の断面観察を兼ねた側溝を設け、電動ポンプで排水を終日とりながら進めた。遺構や遺物の出土する層は主に第Ⅷ層～Ⅸ層であり、他の地層とは割と簡単に識別できる。とくに無遺物層である黒色の第Ⅶ層を除去するに従い、上層の水平堆積とは異なり、凹凸や起伏を持ちながら土器・石器や木柱、礫等が検出される。

ジョレン等で面整理を行うにつれて、まず、おびたしい数の木柱が良好に残って姿を現してきた。これらの木柱は、遺構が重複しない場所については、方形や円形・楕円形状に並んでいることがよく観察できた。木柱を埋設するための柱穴等は、検出されない。また、調査区の南東部からは、砂や粘土・礫が多量に混じる層が円形や楕円形状のマウンドになって確認された。マウンドからは、木柱や基礎地業等の部材に伴って多量の遺物が出土した。遺物は、縄文土器や石器の他、木製品、編物・クルミ等の植物種子も出土し、有機物を多量に包含する遺跡の状況が明らかになった。

遺構は、住居跡が12棟確認された。全ての住居跡とも、竪穴状の掘り方は持たず、木柱として明瞭に残っている柱の基部の存在によって、方形や円形等の建物のプランや規模が確認できた。調査の開始前は、住居跡が検出されても竪穴住居跡だろうと考えていただけに、湿地とはいえ木柱が多数それも明瞭に残っているとは予想もしないことであった（第6・7図）。

住居の下部構造には床面としての掘り込みや壁、炉等が見られないことから従来の竪穴住居とは考えられず、建物の位置や炭化物の面的広がり、柱が垂直に立つことから壁を地上にもつ平地式住居と考えられる。柱は、直径約5～20cmで尖端を石斧で鋭角に加工され、深く打ち込まれている。住居跡の規模は小型のもので直径約3～4m、大型なものは10m×5mとなる。柱の一部に柄孔の加工痕が見られるものがあり、柱が一直線に並ぶ高床状の建物の存在も考えられる。

第1次調査で出土した遺物は、登録遺物が約1,000点、その他一括で取り上げた遺物が整理箱にして約500箱を超える。遺物は、土器や石器の他、土製品、篋や杓子・櫛などの木製品、建築部材、自然遺物等が出土している。中でも「彩文土器」と呼んでいる漆塗りの土器は、完全な形では全国



初の出土で、その他の漆塗りの木製品と合わせ、当時の高度な技術の一端を物語る貴重な資料として注目される。

遺構や遺物の検出を慎重に進めながら、写真撮影および記録作業を実施した。とくに遺構の実測は湧水とぬかるみのため思うにまかせず、最終的には空撮による写真測量を行った。また、住居跡の木柱は、樹種や年輪からの樹齢判定等のため当初全てのものを取り上げる計画であったが、実際木柱の断面をみると打ち込みにより1～2mと深く突き刺さっていることから、全形を取り出すのは代表的なものに限り、他はサンプル採取に留めることにした。

## 2 第2次調査（第3・5～7図）

昭和60年の第1次調査の結果、建築学上で稀な住居構造や、原始工芸技術を知る上で重要な漆器類など、全国的にみても貴重な資料を提供した。山形県教育委員会では、これらの内容を検討したうえで、遺跡の重要性から建設省とさらに協議を重ね、当初の2ケ年計画を変更し、現地調査を1年延長し昭和62年度までとした。

第2次調査は、遺跡西側の南北に長い1,300㎡の地区について、昭和61年5月22日から同年11月30日まで発掘調査を実施した（第3図）。

調査は、第1次調査と同様に調査状況整備のための土木工事から先行することとし、工事用の仮道路の設置、湧水や危険防止のための東西両側の鉄鋼矢板の打込作業を行った。さらに地下2mまでの土取工事を行い、これと平行して排水のための溝を切りながら確認調査を実施した。なお、この諸土木工事については同じく建設省東北地方建設局山形工事事務所に協力を依頼した。

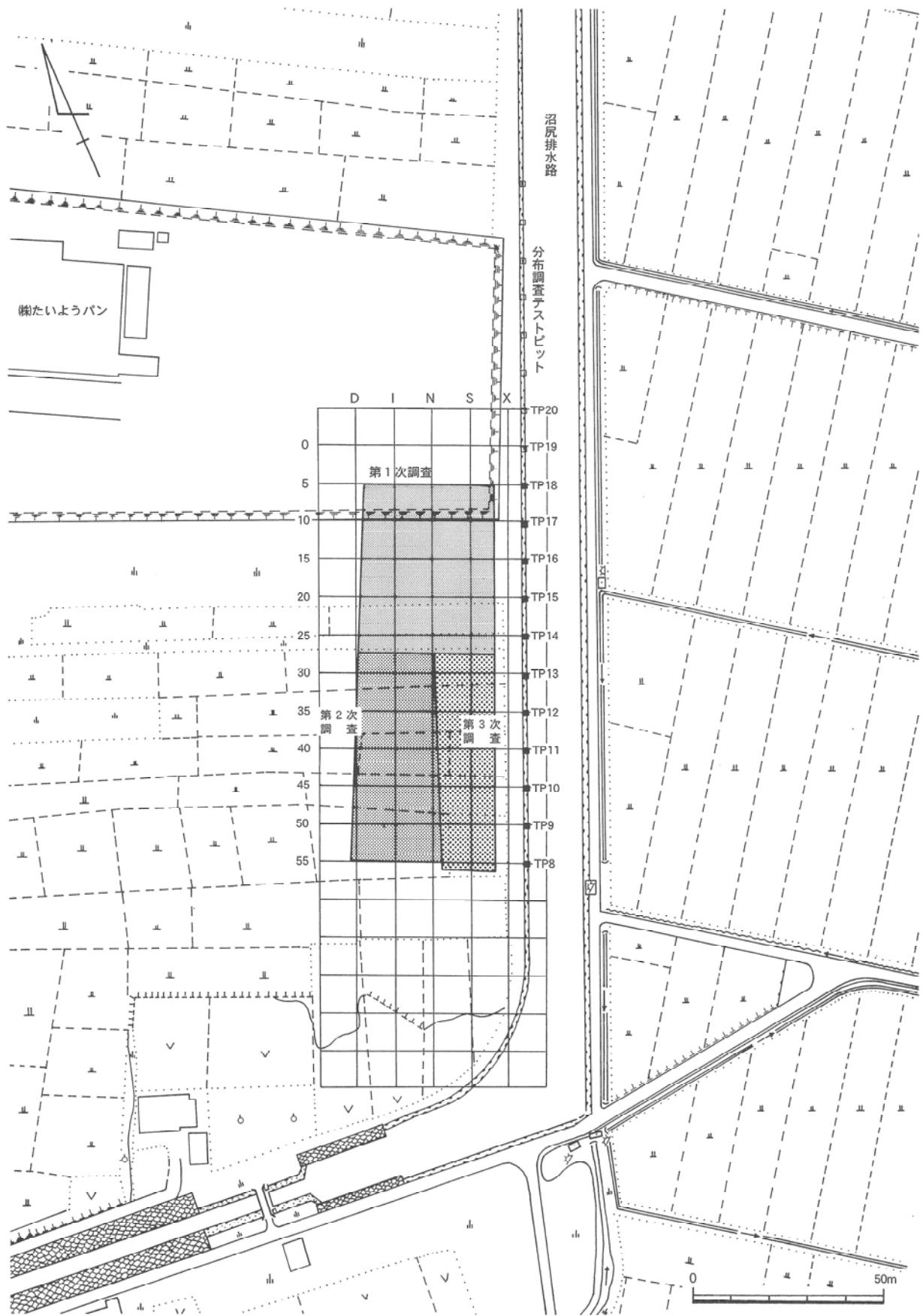
発掘調査は土取工事の後から本格的に開始し、調査区内には第1次調査区の基線の延長に2×2mを単位とするグリッドを設定し、C～O（X軸）-28～55（Y軸）を調査範囲とし、排水をとりながら調査を進めた。最初はⅧ層上面を面整理し、住居跡等の確認を行った。第2次調査に際しても、当時の生活面の確認をすべく遺物の出土状況や炉跡の有無、住居跡の床面の確認等多角的な面からの検討を行ったがあまり明確ではなく、石器製作段階で生じるチップや炭化物の層を迫及することにより当時の屋外の生活面を把握した（第5図）。

さらにY軸43～47列を深く掘り下げ、住居跡周辺部の面整理を実施して、往時の旧地形を現すことにし、砂、粘土・礫が多量に混じりマウンド状に残る住居跡の覆層や集石遺構をそれぞれの地区で確認した。その後、各住居跡等の精査・検出を行い、打ち込み柱や「転ばし根太」を検出した。

遺構はY軸45列の窪地を境として大きく北側と南側に分かれ、微高地の固くしまった地盤の上に分布する。窪地には自然木や加工木材が流れ込み、その傾斜面には立木の根が認められた。遺構は、住居跡11棟と集石遺構1基を検出している（第6・7図）。

集石遺構は、第2次調査で初めて発見されたもので、人頭大の河原石が幾重にも重なり合って方形状に配置されている。中には焼けた石も多く見られ、周辺部や石の下部には焼土や炭化層が検出され、焼けた骨片も出土している。

住居跡は、木柱の配列状態や土器の出土状況等から、方形や円形の建物のプランや規模がわかる。大部分の住居跡の長軸方向が東西あるいは南北の方向を向いているが、15号住居跡は第1次調査で



第3図 遺跡全体図

検出された10・11号住居跡と同様に、グリッドのX軸に平行している。15号住居跡の下層からは、10・11号住居跡と同じく「転ばし根太」が検出されていることも注目される（第7図）。

住居跡の規模は、小型のもので直径約3～4m、その他は7～10m前後となる。各住居跡とも、住居中央部に粘土や砂礫が混じり、遺物が希薄で、木柱の周辺部から土器や石器、礫が集中して出土しているのが特徴である。

第2次調査で出土した遺物は、登録遺物が約1,500点、その他一括で取り上げた土器や石器、木製品、自然遺物等が整理箱にして約600箱を超える。主なものとして、地文に赤漆を施し、黒漆で渦巻文を描いた彩文土器、玦状耳飾、結歯状櫛等が出土している。

### 3 第3次調査（第3・5～7図）

現地調査の最終年度である第3次調査は、第2次調査区東側の南北に長い1,000㎡の地区について、昭和62年5月1日から同年9月30日まで実施した（第3図）。第1次調査の約1,700㎡、第2次調査の約1,300㎡と合わせ、全体で約4,000㎡について発掘調査を実施したことになる。調査は、遺跡が約2mの泥炭層に覆われているため、始めに調査区周囲に鉄鋼矢板を打ち込み、次に重機を用いて、遺跡が残っている層のやや上まで掘り下げた（第5図）。この工事は、第1次・2次調査と同様建設省東北地方建設局山形工事事務所に依頼した。

第3次調査で検出された遺構は、住居跡16棟となる。いずれも木柱が残り、Y軸45列を中心として東西に走る窪地の南側と北側に分布している。窪地の北側は、広い範囲で砂や炭化物を含む層がマウンド状に盛り上がった地域で、隅丸方形に木柱が2～3重に巡る30号住居跡、「転ばし根太」を伴う31号住居跡、「転ばし根太」と根太周辺に先端を内側に傾けて打ち込んだ柱を伴う32号住居跡等特色のある住居跡が検出されている（第6・7図）。

第3次調査で出土した遺物は、整理箱に換算して約200箱が出土し、そのほとんどが縄文時代前期の土器である。主なものとして、一箇所からまとまって4個体出土した漆塗りの彩文土器、赤漆や黒漆を塗った盤状の大杯、窪地から整理箱にして80箱分出土した大量のクルミ等がある。

### 4 整理作業

整理作業は、昭和60～62年度の現地調査後の期間と昭和63年・平成元年の5ケ年に亘って実施している。遺物の出土量が膨大だったことと木製品等の有機質の遺物が多かったことから、整理作業の場所については、建設省東北地方建設局山形工事事務所にお願いして、現地の調査事務所を整備拡張して利用させていただいた。

このため、遺物の洗浄から注記、保存処理、復元という一連の整理作業の工程が、現地で能率よく遂行できた。昭和60年の発掘調査当初から、保存処理専門職員の現場従事体制を整えられたことも幸いであった。現地調査が終了した昭和63年度には、土器復元・拓本実測等の報告書作成のための作業を現地の調査事務所で実施している。翌平成元年度には追加遺物の実測や写真撮影・計測表作成・原稿執筆等の作業を実施し、報告書の刊行にいたった。

## IV 遺跡の概要

今回の発掘調査において確認された層序は、大きく13枚の土層に区分される。各々の概要について次に記すこととする。なお、各層の詳細については分析編を参照にされたい。

基本層序の採取を行ったのは、第1次調査区M-27グリッド、第2次調査区M-55グリッド、第3次調査区T-56グリッドの3地点（以下、各々A地点、B地点、C地点とする）であり、堆積層の層相を模式柱状図として示した（第4図）。このうちB地点は、市原壽文（市原他,1988,「縄文時代の低湿地遺跡を対象とした古環境変遷の総合的研究」）らによって行われた自然科学分析の試料が採取された断面に相当する。

発掘調査により確認された縄文時代前期の遺物包含層は、Ⅶ層からⅨ層までの層位に相当する。各々の概要について次に記すこととする。

I層からⅢ層は、アシなど植物質有機物が混じり若干の砂質をおびる。とくにⅢ層は全面アシに覆われている。Ⅳ層からⅦ層にかけては、粘質の微・細砂質土で有機物が微量に含まれ、色調は暗褐色ないし黒色を呈している。I層からⅥ層は無遺物層である。

Ⅶ層からⅨ層上面は、遺物包含層であるが土器型式からみると時間的な差異は認められない。

X層は灰黄褐色土で縄文時代前期の遺構がある程度確認され、おそらく縄文前期の生活面の基底部と考えられる。X層上層からは多量のクルミが検出されているものの、主たる包含層はⅦ層からⅨ層までの層位に相当すると考えられる。

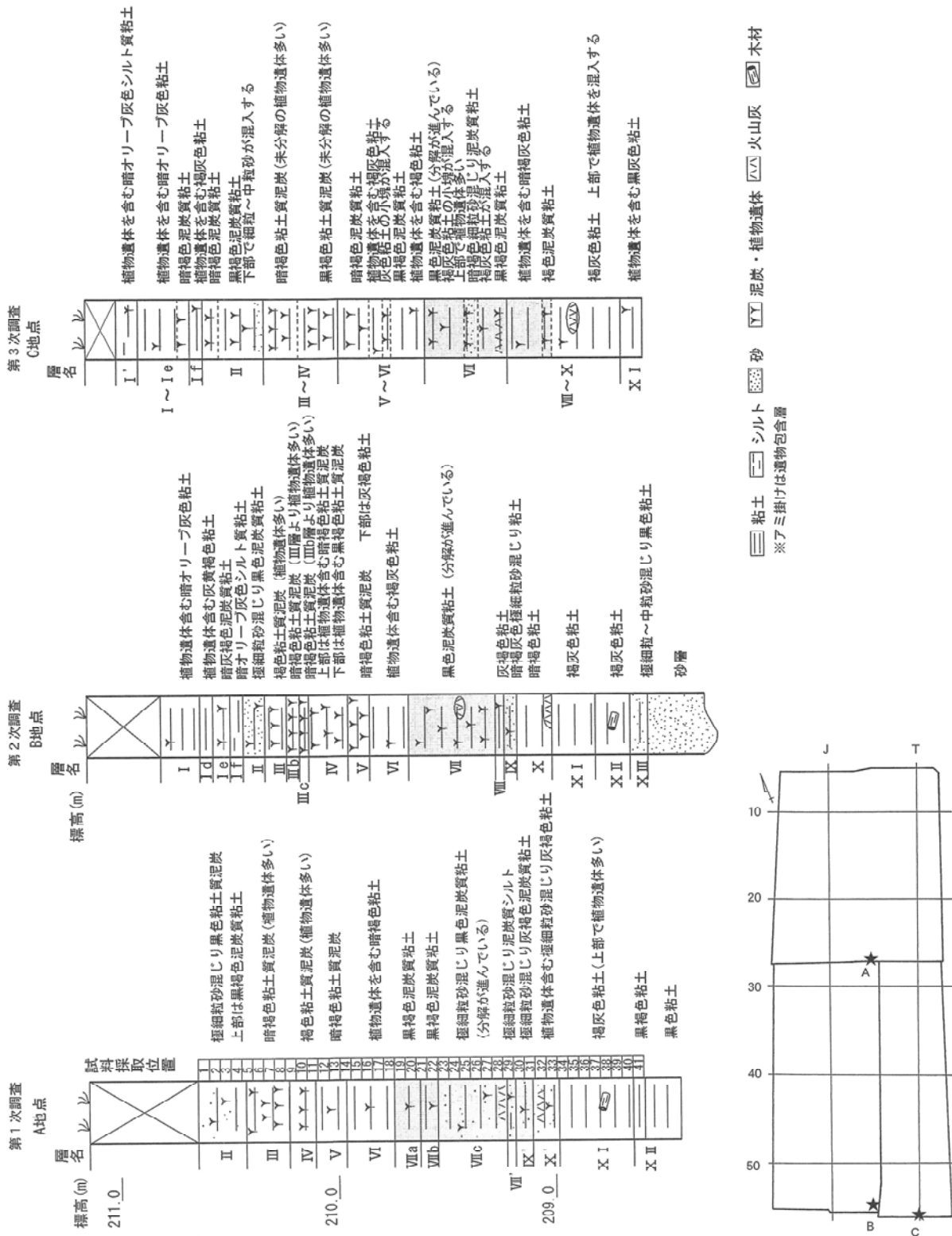
XI層は粘性のある灰褐色土で無遺物層であり、XII層は黒褐色土で炭化粒子の大粒が多量に混じる。B-TPの精査では遺物は発見されなかったものの、縄文時代前期以前の遺物包含層の可能性も有する。

B地点では、X層最下部にガラス質の細粒火山灰層がレンズ状に狭在し、Ⅶ層の下部に粗粒火山灰が濃集している。両テフラについては、前者が沼沢沼テフラ、後者が吾妻火山灰に対比される。最下層XII層には砂層が確認され、粘性のある微砂質土で非常に硬くしまっている。

遺跡の東側を流れる沼尻掘排水路は、遺跡の一部を掘削しているため、包含層の広がりや南北に追うことができる（第3図）。沼尻掘排水路右岸での層序は、I層からⅥ層中位まで削土され、遺物包含層はⅦ層から認められる。TP8～18まではⅧ・Ⅸ層の遺物包含層が認められ遺物も多量に出土し、また起状に富んでいる。TP19以北では5～10cm程度Ⅷ層が存在するが遺物は発見されていない。TP8以南はボーリング探査の結果、遺物包含層は確認できずⅥ・Ⅶ層の下部がX層となっている。

このため、遺跡の南北の広がりや、今回の調査範囲におさまるものと考えられる。なお、東西の遺物包含層の広がりや、今回の調査では知ることはできない。

また、テストピット全体の観察からは、北側から南側に傾斜している地形であることもわかった。



第4図 第1～3次調査基本層序図

彩文土器取り上げ状況



彩文土器の取り上げ (RP239)



4分割し付番の後取り上げ



石膏型を作製し、形状を保存



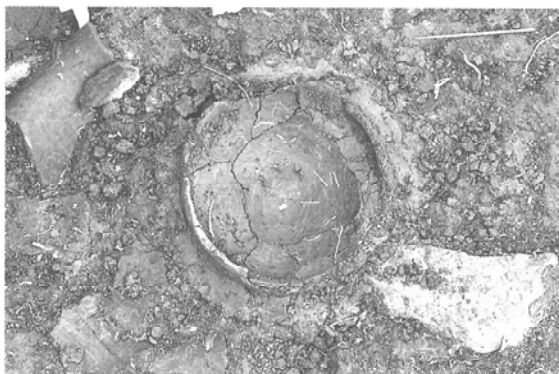
石膏の流しこみ



石膏型取り外し



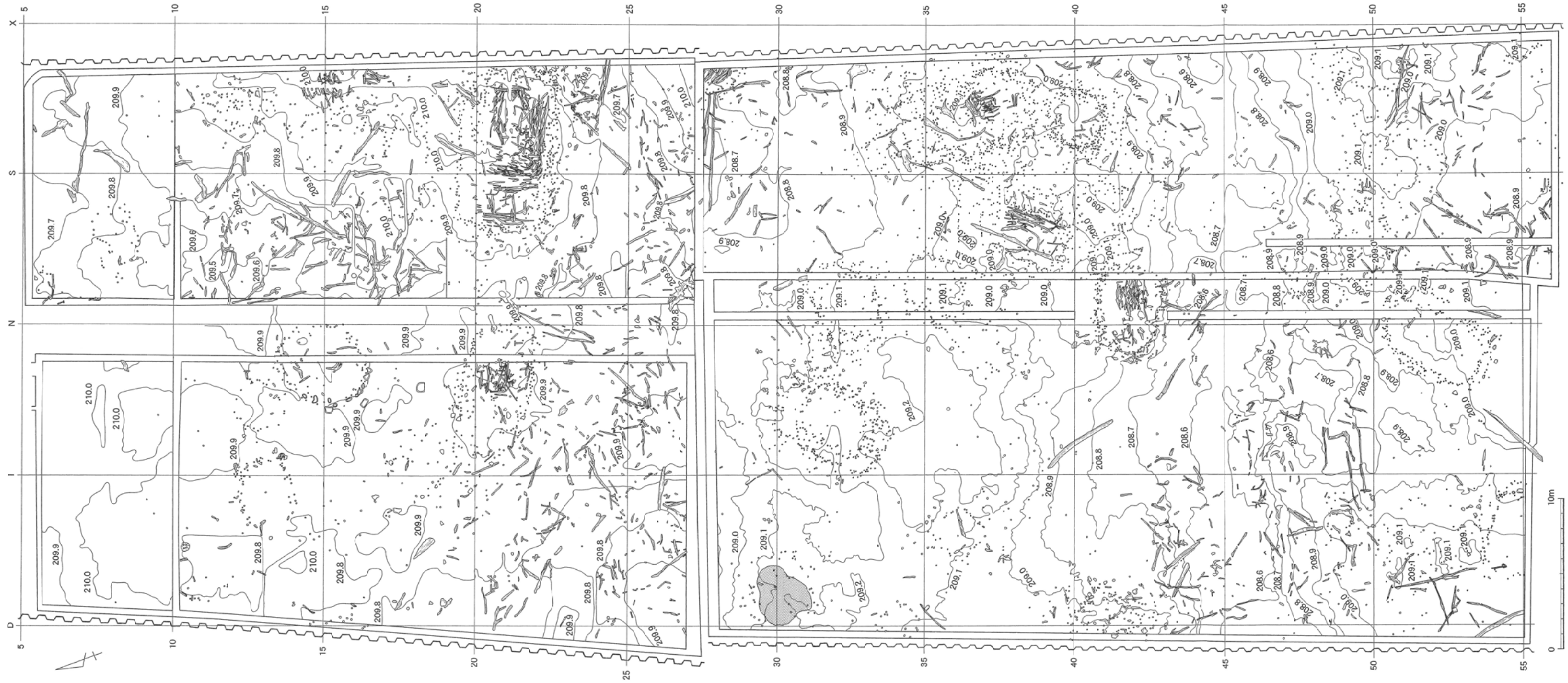
彩文土器上半部の取り上げ



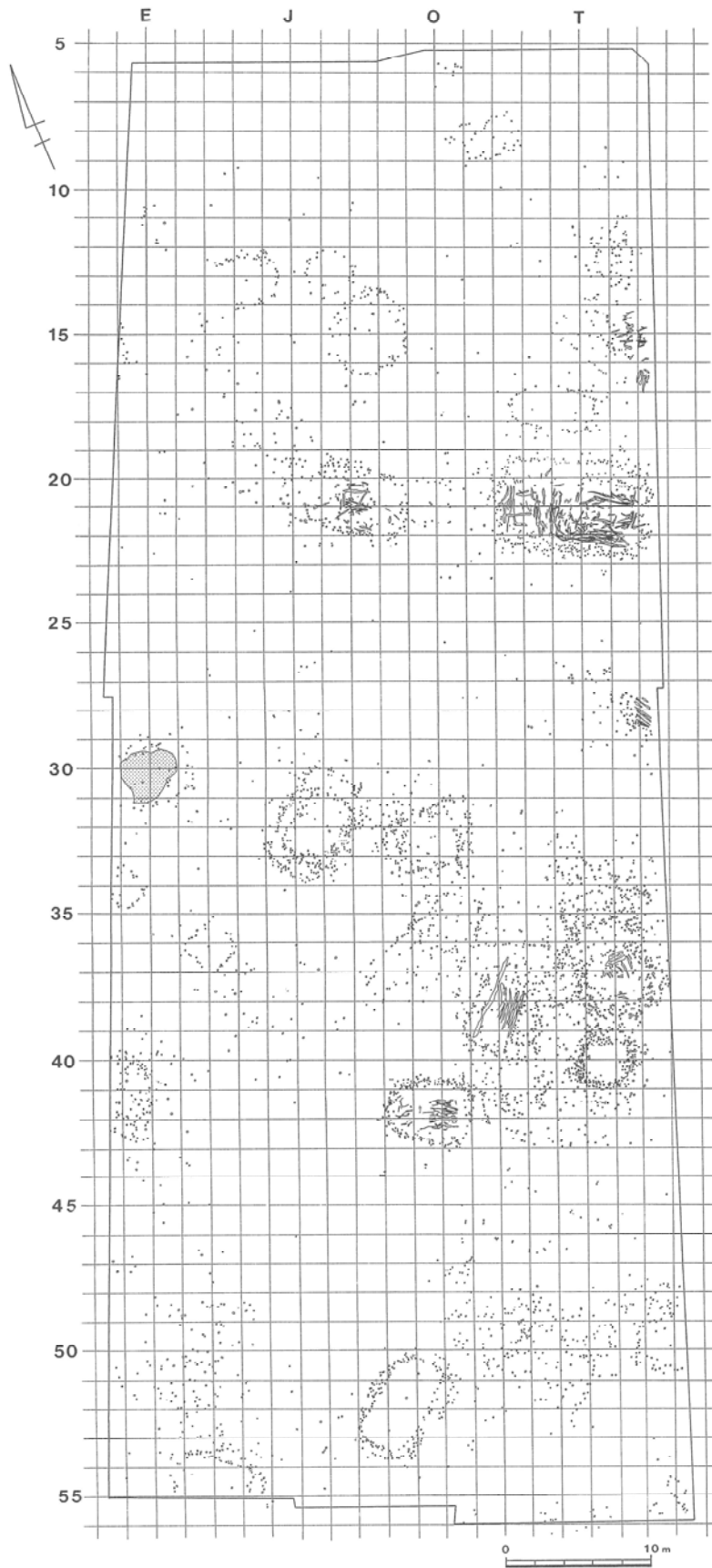
彩文土器下半部の取り上げ



全破片取り上げ

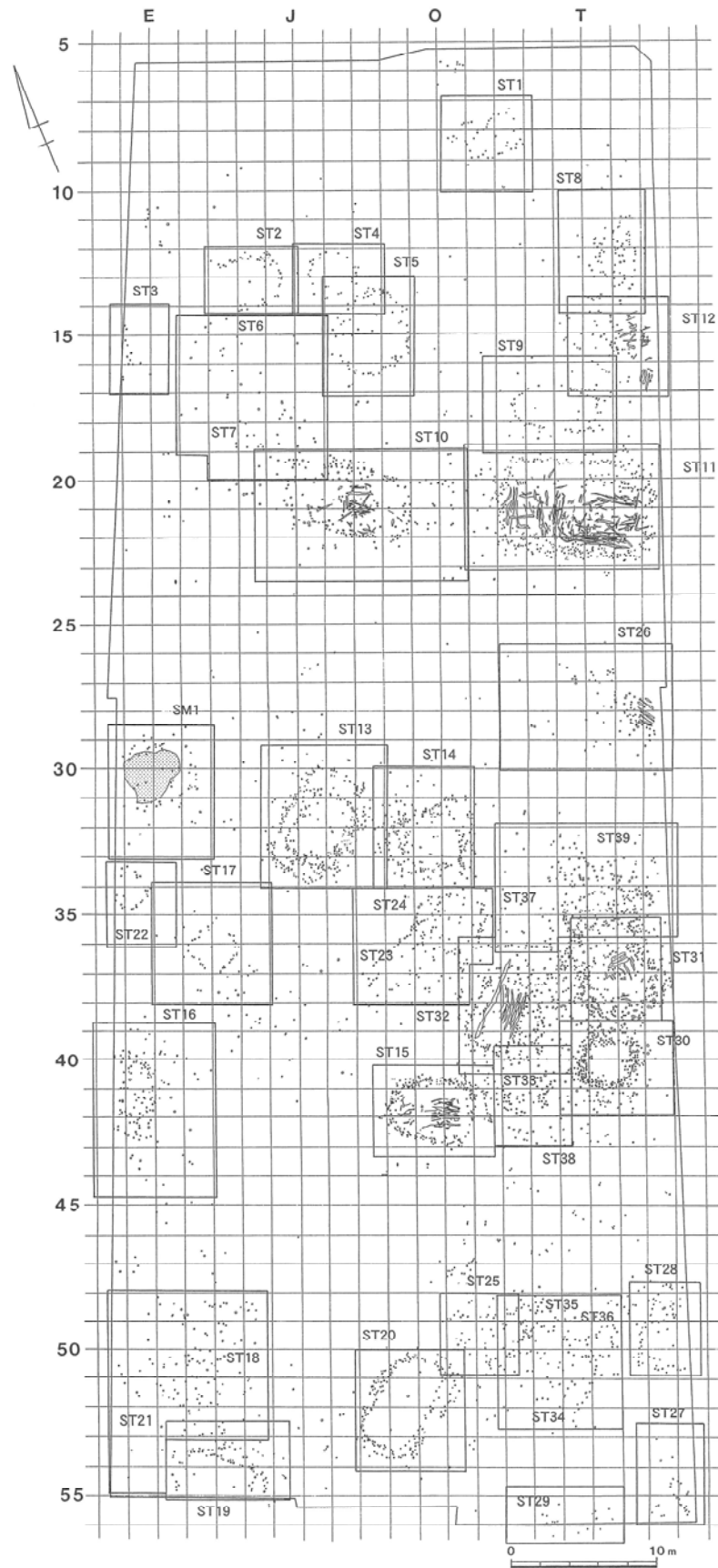


第5図 調査区全体図



第6図 遺構配置図（住居跡関係遺構）





第7図 遺構配置図 (遺構毎分割)

## V 検出された遺構

### 1 遺構の分布

本遺跡では、一般の縄文集落とは異なる形態の遺構が検出された。低湿地性集落の特色ともいべき遺構群である。すなわち、竪穴住居跡・土坑等は検出されず、掘り方を伴わない木柱群及び木柱群域に一部認められるマウンド状を呈する堆積土、さらに丸太材を配置したと思われる根太状の遺構群である。

本遺跡で遺構として登録したものは、木柱が一定あるいは不定のまとまりを示す状態で検出されたものを一単位としてとらえた住居跡と、礫を配して焼土・炭化物をその礫域に大量に含む集石遺構の2種類である。その他、住居以外の何らかの遺構を想定させる木柱群の存在も考えられる。

木柱は各々観察すれば、丸太材、割材等の先端を尖らせ、所謂、「杭」状に加工されて、それを生活面から打ち込んでいるものである。住居跡はそれら木柱の集合体として把握したものである。

調査区は、東西約40m×南北100mの範囲で設定したが、遺跡全体の遺構については不明である。集落全体の様相は現地点での遺構の分布により推測せざるを得ない。その点を考慮し、分布の概要を示す。

調査区内の微高地は北西―南東方向に帯状に存在する。帯状の微高地上に住居跡が構築されており、並行する窪地部分には住居跡は存在しない。帯状の微高地は調査区外まで延びることが予想されるが、窪地との関連で、微高地が帯状に続くのか、遂に窪地が浅い溝状とはならず、集落内の部分的な窪地なのか、判断は難しい(第57図等参照)。また、数地点の基本層序の観察によると、遺物包含層より上層については基本的には水平堆積の状況を示す。遺跡の営まれた時期には微地形としての起伏が認められるが、調査区外に、さらに深い落ち込みや、広場的な微高地が存在するの否かも现阶段では不明である。しかし、集落を考えた場合、様々な機能を有する各エリアを取り込んで集落が存在するとすれば、今回の調査区は、まさに、住居群の中心部と考えられよう。

### 2 検出された住居跡と集石遺構

#### (1) 住居跡の構造

住居跡は、柱の配列状態や土器などが明瞭に残っており、建物のプランや規模が良く理解でき、方形や楕円形を示すプランとなっている。大部分の住居跡の長軸方向が東西あるいは南北の方向を取っているが、第1次調査で検出された10・11号住居跡や第2次調査で検出された15号住居跡は、グリッドX軸方向と平行しているのが特徴である。規模は、小型住居で3～4m、その他は7～10m前後となる。

各住居跡とも、住居中央部に粘土や砂礫が混じり遺物が希薄であり、木柱の周辺部から土器や石器さらには礫が折り重なるように集中して出土しているのが特徴である。また、15号住居跡他では下層より「転ばし根太」を検出した。柱は、径約5～20cmの太さで、すべて加工された打ち込み柱となる。中には割材もみられる。「転ばし根太」を持つ住居跡は7棟確認された。

マウンドをもつ住居跡は調査区南東隅のST27など十数棟を数え、その他は平坦面に円形ないし楕

円形に柱を配しているものである。柱の巡る内部には1～2cm大の炭の層が薄く堆積していた。

Y軸45列付近窪地の北側の住居跡は、広い範囲で砂や炭化物を含む層が、マウンド状に盛り上がって検出された区域から確認された。遺物はこの盛り上がりの周辺部から多く出土している。柱は、砂や炭化物を含む層を掘り下げる段階で検出された。柱の何本かは基盤の粘土層中まで掘り下げないと検出されないものもある。この区域では、隅丸方形に柱根が2～3重に巡るST30、「転ばし根太」を伴うST31、「転ばし根太」と根太周囲に先端を内側に傾けて打ち込んだ柱を伴うST32など、特色のある住居跡が検出された。さらに、調査区北東隅でも「転ばし根太」伴うST26が検出された。

## (2) 住居跡の特徴

住居跡の全ては、掘り方を持たずに平地に柱を打ち込んで構築しているのが特徴である。柱の配列状態や土器などの出土が明瞭に残っており、住居跡のプランや規模が良く理解でき、大きく分けると方形・円形・楕円形を示すプランとなる。

住居跡は現場段階で33棟、整理段階で6棟を登録し、合計で39棟とした。分布状況は、大きく3群に分けることが可能である。すなわち、

- ① ST1～ST11 (D～V-7～22グリッド域)
- ② SM1・ST13～17・22～24・26・30～33・37～39 (C～V-27～43グリッド域)
- ③ ST18～21・25・27～29・34～36 (東西軸47グリッド以南)

の3群である(第5～7図等参照)。これら3群の境界には、木柱の検出されない、あるいは希薄となる区域が存在する。これは、微地形に制約されたもので、空白部分は湿地(窪地)となり、住居跡の立地する区域の遺物包含層最下位と30～50cmの比高差が認められることによる。窪地には、遺物包含層が堆積しており、また、マウンド域から窪地への傾斜部分で大量のクルミ等が出土していることから、遺跡の機能していた時期との同時性を想定できる。

各住居跡の覆土堆積状態は、住居跡中央部に、粘土や粗砂粒あるいは凝炭岩の風化礫粒が多量に混入されており、中央部がやや高くなるマウンド状に堆積している。特に、10・11号住居跡はこれら粘土・砂粒混じりの層と黒色の腐食土が相互に堆積し、比高差がある覆土を形成する。覆土中の遺物は、その大半が木柱の周辺部のマウンド裾に土器・石器に混じり、焼けた小礫群が折り重なるように、集中して出土するのが特徴で、住居跡中央部からの遺物は希薄である。

遺跡の床面は、遺物の出土状態や炉跡の有無など多角的な面からの確認・検討を行ったが、あまり明確ではない。終局的には複数の遺物が、同時行為によって所産する作業場的なものが精査中に検出された。すなわち、石器製作時に産出される1～2cm大のチップが両手を広げたぐらいの量まとまって検出され、その面を追求することで、当時の家屋内での生活面を的確におさえることができた。他方、10・11号住居跡の下層からは径10cm前後、長さ1.5～2mの部材が住居長軸方向に沿って規則的に配置した「転ばし根太」も検出された。家屋内の炉跡については、各住居から発見されず不明である。

検出された木柱についてその状態を検討してみると次のようになる。

- (1) 住居の規模—長径で3～5m前後の小型の住居、5～7m前後の住居、8mを超す比較的大

型の住居に分けられる。

- (2) 木柱の配置一検出段階で木柱が1列ないし2列で巡るもの、3列以上の複数列で巡るもの、さらに住居域内部に中心柱的な木柱を有するもの、不規則な木柱群が集合するものなどがみられる。ST13・14・20などは重複や拡張が考えられる。
- (3) 住居内に根太状の材がみられるもの。材は規則性をもって配されている。
- (4) 住居域がマウンド状に盛り上がり検出されるもの。基底面から20～50cmの高さを測り、覆土は粘質土と砂層の互層となる場合もある。木柱はこのマウンドを掘り下げた後に検出される。
- (5) 木柱集合域に礫が配されるもの。集石遺構 (SM1) が1基検出された。礫は焼成を受けており、木柱は礫を除去後検出された。

柱根は、すべて打ち込みによるものであることは既述のとおりである。木柱は確認面から50～100cmほど打ち込まれている。壁、屋根などの上部構造が不明のため推定の域を出ないが、基本的には壁が立つ、平地式の住居構造を考えている。

竪穴住居は、本遺跡では皆無である。木柱の並びは、平面規模が5m以内の小規模な住居は1～2列が巡り、それ以上の住居は2列以上の複数列を有する。複数列の木柱がすべて同時期の所産かは問題が残るが、かなり緊密に狭い間隔で打ち込まれていたことは明らかであり、構造上の大きな特徴と言えよう。したがって、複数列のST10・11・13・15・20・30～33などと、小規模で1～2列のST1・2・4・17・22などは構造上の面から、性格の違いがうかがわれる。さらに、根太の有無についても性格の相違が考えられる。なお、1号住居跡を略号としてST1と表している。以下STナンバーは住居跡を表すものと理解されたい。

以下、各住居跡の様相について説明する。

### (3) 各遺構の様相

#### ST1 (第8・78・223・240図、図版8・75・123)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区北部東寄り
検出グリッド	P-7・8、Q-7・8グリッド
形状	約2.8m×3.7mの長方形
マウンドの有無	なし
特記事項	平面形は東西を長辺とする長方形をなし、やや乱れるが、打ち込み柱から構成されている。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。住居範囲には炭化粒子を含む砂層が一面に広がっている。住居内外とも同じレベルであるが、外周を形成する柱列部分に若干の高まりが見られる。南側の木柱間の一部に縦板材が存在する。この住居跡からは樹種同定の資料を多量に採集した。詳しくは理科学分析に依らねたい。木柱の放射性炭素年代測定を行った結果、5850±150BPという値が算定された。
出土遺物	土器は小形土器、土器片が出土した。木製品は、有孔木製品、棒状木製品が出土した。

**ST 2** (第9・78・240図、図版9・10・75)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区北部西寄り
検出グリッド	G-12・13、H-12・13、I-12・13グリッド
形状	長軸約5.4m×短軸約3.7mの楕円形
マウンドの有無	5～10cmの比高をもつマウンド状の盛り土が存在
特記事項	平面形は東西を軸とする楕円形をなし、まばらではあるが外周は2～3重の打ち込み柱から構成されている。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部には繊維質物・炭化材を多量に含む部分が存在した。一部には焼土ブロックも含まれ、粘土・砂層が混じる。直径5～10cmの木柱が20～25cm間隔で巡る。西側に木柱は検出されていないが本来は存在したものと考えたい。西側部分にも木柱が存在したとすれば、ST 9として把握した住居跡とほぼ同じ規模となる。この住居跡からは樹種同定の資料を採集した。詳しくは理科学分析に依らねたい。
出土遺物	土器は深鉢、土器片が出土した。石器は石鏃、三角スクレイパーが出土した。自然遺物は骨片などが出土した。

**ST 3** (第10・78・143・144図、図版11・75)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区北側西端部
検出グリッド	D-14～16グリッド
形状	調査区の西壁面にあたり、一部のみを検出のため形状は不明
マウンドの有無	なし
特記事項	炭化粒子が中央部にやや集中。ホゾ穴のある木柱が出土している(図版11)。この先端は尖っており、無数の加工痕が見られる。西側に木柱が6本平行して確認されている。住居跡及び周囲からは彩文土器が出土している。
出土遺物	土器は彩文土器、漆附着土器、土器片が出土した。

**ST 4** (第10・78・224・240図、図版12・75)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区北側中央部
検出グリッド	J-12・13、K-12・13、L-12グリッド
形状	直径約3.1mのほぼ円形
マウンドの有無	なし
特記事項	平面形はほぼ円形をなし、ややまばらではあるが外周は2～3重の打ち込み柱から構成されている。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。直径5～10cmの木柱が20～25cm間隔で一週する。この住居跡からは樹種同定の資料を多量に

採集した。詳しくは理科学分析に依らねたい。

出土遺物 土器は土器片が出土した。

**ST5** (第11・79・239・240図、図版13・75・114)

調査回数 第1次調査

検出位置 調査区北側中央部

検出グリッド K-13~16、L-13~16、M-13~16グリッド

形状 直径約5.7mのほぼ円形

マウンドの有無 なし

特記事項 平面形はほぼ円形をなし、ややまばらではあるが外周は2~3重の打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。土層断面図には、1~3cm大の大量の炭化物を5~10cmの厚さで堆積する層が認められる。床と考えられる面に凹凸が顕著にみられる。木柱のやや外側で抜き取り跡がみられることから、建て替えなどの可能性がある。外周する木柱の外側の炭化物層を掘り上げたところ、やや皿状に落ち込み、中央に盛り上がりが見られる。一括土器、フレイクなどが大量に出土しており、特に中央部に集中している。

出土遺物 土器は土器片が出土した。石器は石鏃、三角スクレイパー、スクレイパー、石錐、磨製石斧などが出土した。木製品は板状木製品、木胎漆器が出土した。その他、繊維製品などが出土した。

**ST6** (第12・13・79・224・226図、図版14・123)

調査回数 第1次調査

検出位置 調査区北部西寄り

検出グリッド F-14・15、G-14~17、H-14~17

形状 長軸約7.1m×短軸約3.1mの楕円形

マウンドの有無 なし

特記事項 平面形はおそらく東西を軸とする楕円形をなし、非常にまばらではあるが外周は打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。木柱には貫通穴のあるものが認められる。長軸にはやや太い木柱が7本打ち込まれている。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。炭化粒子を多く含む。この住居跡からは樹種同定の資料を多量に採集した。詳しくは理科学分析に依らねたい。

出土遺物 土器は小形土器、土器片が出土し、また大木4式の土器がまとまって出土した。石器は押出型ポイント、三角スクレイパー、籠状石器などが出土した。

**ST7** (第12・13・79・132・133図、図版14・76・124)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区北部西寄り
検出グリッド	H-17~19、I-17~19、J-17~19
形状	直径約4.9mの円形
マウンドの有無	なし
特記事項	平面形は円形をなし、非常にまばらではあるが外周は打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。住居跡とした内部にも打ち込み柱が存在する。周囲には炭化粒子を含む。
出土遺物	土器は一括土器や完形土器が横位や正位の状態で出土するほか、深鉢、小形土器、土器片が出土した。石器は石錐、砥石などが出土した。

**ST8** (第14・79・132・240図、図版15・76)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区北東部
検出グリッド	S-11・12、T-11~13、U-11~13グリッド
形状	長軸約5.1m×短軸約3.4mのほぼ楕円形
特記事項	平面形はほぼ楕円形をなし、まばらではあるが外周は打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱がまばらに一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。住居跡とした内部にも打ち込み柱が存在する。
出土遺物	土器は深鉢、土器片が出土した。石器は、特にチップ、ツールが多量に出土し、石鏃、押出型ポイント、石錐などが出土した。

**ST9** (第15・80・129~131・145・241図、図版15・76・77)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区北部東寄り
検出グリッド	Q-17、R-16~18、S-16~18、T17・18グリッド
形状	長軸約6.3m×短軸約3.1mの楕円形
マウンドの有無	なし
特記事項	平面形は東西を軸とする楕円形をなし、外周は1重の打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。ST2住居跡とほぼ同じ大きさである。周囲には砂質の炭化粒子を多量に含む。
出土遺物	土器は彩文土器、台付鉢、深鉢、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石槍、スクレイパー、石錐、磨製石斧、異形石器などが出土した。

**ST10** (第16・17・81～84・133・226・241図、図版16～19・77・78・124)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区中央部北寄り
検出グリッド	I-19～21、J-19～21、K-19～21、L-19～21、 M-19～20、N-20・21グリッド
形状	長軸約9.5m×短軸約5.0mの楕円形
マウンドの有無	あり 高さ約55cm
特記事項	平面形は東西を軸とする楕円形をなし、外周は2重～3重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周するが、南北の辺は割り合いと疎であり、東西の辺は割り合いと密である。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。炭化粒子を多量に含むマウンドを下げて行くと、底面に直径5～10cmを中心とした木組みが現れた。住居跡の長軸と短軸方向に、井桁に組み上げている。これを「転ばし根太」と呼んでいる。東側と西側には方形の張出し状に木柱が巡るため、この住居跡に付随する可能性がある。なお、東側の方形の木柱列はST17と大きさがほぼ共通する。検出された住居跡はST11・15と同様に東西軸方向とほぼ平行している。周辺のK-18グリッドからフレイクの密集地が検出された。この住居跡からは樹種同定の資料を多量に採集した。詳しくは理科学分析に依りたい。木柱の放射性炭素年代測定を行った結果、5050±130BPという値が算定された。
出土遺物	土器は深鉢、小形土器、獣面把手付土器、土器片が出土した。石器の出土は多く、特にフレイク、チップ、トウールの3種がセットで出土している。石鏃、押出型ポイント、三角スクレイパー、スクレイパー、磨製石斧、凹石が出土した。自然遺物は樹皮が出土した。

**ST11** (第18・19・85～94・132・145・215・223・225・226・242図、図版20～24・78・123～125)

調査回数	第1次調査
検出位置	調査区中央部北寄り
検出グリッド	P-19～21、Q-19～22、R-19～22、S-19～22、T-19～22、 U-19～22、V-19～22グリッド
形状	約6.8m×11.5mのほぼ長方形
マウンドの有無	あり 根太部分から高さ約60cm
特記事項	平面形は東西を長辺とするほぼ長方形をなし、外周は多重の打ち込み柱から構成されている。平面的な大きさでは住居跡では最大のものとなる。直径5～10cmの木柱が一周するが、東北の辺は割り合いと疎であり、南西の辺は非常に密である。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。マウンドには炭化粒子と風化礫粒を多量に含んでいる。マウンドを掘り下げて行くと、打ち込み柱と同じ水準で、



木柱を敷いた「転ばし根太」が検出された。根太の下層は植物質の有機物を多量に含んでいる。グリッドT軸の西側に南北に連なる木柱列が確認された。この東側には東西方向に敷かれた根太と、その上に南北方向に敷かれた根太が検出された。さらにグリッドT軸の西側にも、南北方向に敷かれた根太が検出された。この2つの遺構を別のものと見れば、ST11は切り合いの可能性が高いと考えられる。住居跡はST10・15と同様にグリッド東西軸方向と長軸が平行している。この住居跡からは樹種同定の資料を採集した。詳しくは理科学分析に依りたい。

**出土遺物** 土器は彩文土器、深鉢、小形土器、土器片が出土した。この中には粘土紐貼付の大木式土器や浮島系の土器片がある。石器は石鎌、押出型ポイント、石槍、石匙、三角スクレイパー、スクレイパー、筥状石器、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、石皿、異形石器、石製品（未製品）などが出土した。自然遺物はクルミが多量に出土した。特筆すべきこととしては、R-21グリッド黄色粘土層凹地から、ツール18点、フレイク4点の計22点が配置された状態で出土した。これを“道具箱”と呼ぶこととした。また、U-22グリッドからチップが大量に出土した。

### ST 12 (第19・94・130・132・243図、図版25・79)

**調査次数** 第1次調査  
**検出位置** 調査区北側東端部  
**検出グリッド** T-14~16、U-13~17、V-13~17グリッド  
**形状** 調査区の東壁面にあたり一部欠けるが、ほぼ楕円形を呈するとみられる  
**マウンドの有無** T-15、U-15、V-15グリッド内にある砂層、炭化物層は、全体より15~20cm高く、マウンド状をなすことからすれば、マウンドはあったものと考えられる。  
**特記事項** 平面形は南北方向を長軸とする楕円形をなすものと考えられる。外周は打ち込み柱から構成されているものと考えられるが、明瞭ではない。直径5~10cmの木柱が一面に打ち込まれている状況を呈している。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。周囲は炭化粒子・風化礫粒を多量に含んでいる。底面には「転ばし根太」が検出された。東西方向に材が敷き並べられているが、井桁に組まれるような状況ではない。土器片、石器片が出土する層の下に石皿、磨石なども出土する層が認められることから、2つの時期の変遷の可能性はある。  
**出土遺物** 土器は、大木4式土器、諸磯式土器があり、土器片も出土した。石器は石鎌、押出型ポイント、石槍、石錐、凹石、異形石器などが出土した。一括土器やツールが多量に出土している。

### ST 13 (第21・22・96~98・131・143・239・243図、図版26・79・136)

**調査次数** 第2次調査  
**検出位置** 調査区中央部

検出グリッド H-31~33、I-30~33、J-29~33、K-29~33、L-30~32グリッド  
 形 状 約5.2m×8.2mのほぼ長方形  
 マウンドの有無 あり 高さ約30cm  
 特記事項 平面形はほぼ南北を長辺とする長方形をなし、外周は2重~3重、あるいはそれ以上の打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5~10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。マウンドの覆土には繊維・炭化物・凝灰岩粒が多く含まれている。マウンドの堆積は3時期にわたる様相が確認された。木柱の圍繞も西側では3重に見える部分が存在することからすれば、3時期の建物が重なり合っている可能性がある。マウンド内部の調査では、中央部粘土砂混じり層の外側に、炭化材の直径15~20cmの木柱が中央部に向けて放射状に並んでいるのが確認された。また、K-33グリッド北東寄りに焼土が散在している。この住居跡からは樹種同定の資料を多量に採集した。トネリコ、ヤナギ、ハンノキといった水辺の樹木が多い。詳しくは理科学分析に依らねたい。木柱、炭、クルミの種子の放射性炭素年代測定を行った結果、それぞれ6090±150BP、5920±100BP、5050±100BPという値が算定された。

出土遺物 土器は深鉢、小形土器、漆付着土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石匙、三角スクレイパー、スクレイパー、篋状石器、石錐、砥石、異形石器などが出土した。また、特徴的な遺物として骨の細片などが炭化物に混じり出土している。遺物の出土状況は上面ではフレイクチップが多く、中層面ではクリや土器片が多く出土した。ここでは調査を通じてもっとも多量のクリが出土している。また、クッキー状炭化物もこの住居跡からの出土が多い。

#### ST14 (第23・24・99・131・225・244図、図版80・125)

調査回数 第2・3次調査  
 検出位置 調査区中央部  
 検出グリッド L-32、M-31~33、N-31~33、O-31~33、P-31・32グリッド  
 形 状 直径約5.8mのほぼ円形  
 マウンドの有無 あり 高さ約18cm  
 特記事項 平面形はほぼ円形をなし、外周は2重~3重の打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。ホゾ穴のある木柱も出土している。周囲には砂を多量に含み、一部には繊維質・炭化物も混入している。内部の大きさは、ST13として把握した住居跡の内側の区画とほぼ同じ大きさである。この住居跡からは樹種同定の資料を採集した。トネリコ、ヤナギ、ハンノキなど水辺の樹木が多い。詳しくは理科学分析に依らねたい。木柱の放射性炭素年代測定を行った結果、6680±100BPという値が算定された。  
 出土遺物 土器は深鉢、小形土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、三角

スクレイパー、スクレイパー、石錐、磨製石斧、凹石、小形石棒などが出土した。注目すべき遺物として石製品の小形石棒がある。

**ST 15** (第25～28・100・101・103・130・131・143・144・227～231・245図、図版27～29・80・126～130)

調査回数	第2・3次調査
検出位置	調査区中央部南寄り
検出グリッド	L-41・42、M-40～42、N-40～43、O-40～43、P-41・42グリッド
形状	長軸約6.6m×短軸約4.6mのほぼ楕円形
マウンドの有無	あり 高さ3～5cmで低平
特記事項	平面形は東西を主軸とする楕円形をなし、外周は2重～3重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。ホゾ穴のある木柱も出土した。ホゾ穴の直径は2～3cmであり、30度程度の角度で、木柱に貫通孔が穿たれている。この住居跡の検出は第2次調査と第3次調査の2次にわたっている。第2次調査ではNグリッド半ばまで調査し、第3次調査ではNグリッド半ばから東側を調査している。このため木柱の把握には課題が残る。住居の長軸はST10・11と平行している。周囲には炭化物・繊維質を多量に含む。この中には自然遺物（クルミ）も含まれている。住居の長軸と同じ東西方向に敷かれた「転ばし根太」を粘土層の下部より検出したが、井桁に組まれる南北方向の木柱は検出されなかった。住居内に木の皮を敷きつめたものと、その上に草状のものを検出した。また、木柱に沿って土器、石器が多量に出土する傾向がある。この住居跡からは樹種同定の資料を採集した。トネリコ、ヤナギ、ハンノキなど水辺の樹木が多い。詳しくは理科学分析に依りたい。
出土遺物	土器は深鉢、小形土器、漆付着土器、彩文土器片、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石匙、スクレイパー、筥状石器、石錐、磨製石斧、石皿、砥石、異形石器などが出土した。また、フレイク、チップも多量に出土している。

**ST 16** (第29・30・101～104・143・147・246図、図版30・31・81)

調査回数	第2次調査
検出位置	調査区中央部南寄り、調査区西端
検出グリッド	C-39～42、D-39～42、E-40・41グリッド
形状	調査区西壁面にあたり、一部のみを検出だが、円形または楕円形を呈するとみられる。検出部分の大きさは約6.3m×3.4mである。
マウンドの有無	あり 高さ約27cm
特記事項	平面形は円形または楕円形を呈すると思われるが、一部分のみを検出であるため平面形は不明である。外周は打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木

柱が巡る。内部にも木柱が打ち込まれている。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。繊維質・炭化物を多量に含んでいる。マウンドの上面より多量の土器、石器が出土している。この住居跡からは樹種同定の資料を採集した。詳しくは埋科学分析に依らきたい。

**出土遺物** 土器は深鉢、小形土器、漆付着土器、赤漆塗彩文土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石槍、石匙、三角スクレイパー、スクレイパー、筥状石器、打製石斧、磨石、凹石、砥石などが出土した。木製品は木胎漆器、木胎漆器片が出土した。

**ST 17** (第31・32・104・144・223・224・247図、図版32・81・131・132)

**調査次数** 第2次調査  
**検出位置** 調査区中央部西寄り  
**検出グリッド** F-35~37、G-35~37グリッド  
**形状** 一辺約2.8mの方形  
**マウンドの有無** なし  
**特記事項** 平面形は方形をなし、外周は打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。ホゾ穴のある木柱も出土している。炭化物・繊維を多量に含み、一部には骨片とクリなどの自然遺物を含む。北側の辺にそって幅1mほどの場所に礫が集中する範囲がある。この住居跡からは樹種同定の資料を採集した。詳しくは埋科学分析に依らきたい。  
**出土遺物** 土器は彩文土器片、土器片が出土した。石器は有孔石製品などが出土した。

**ST 18** (第33・34・105・106・247図、図版32~34・81)

**調査次数** 第2次調査  
**検出位置** 調査区南西部  
**検出グリッド** D-48~51、E-48~53、F-48~52、G-48~52、H-48~51グリッド  
**形状** 直径約8.0mの円形に近い形を呈するとみられる。  
**マウンドの有無** あり  
**特記事項** 平面形はほぼ円形をなし、外周は判然としないが、打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。住居跡として把握した内部にも木柱が打ち込まれている。周囲には繊維質を多く含む。また、D-50~53、E-50~53、F-50~53、G-50~53、H-50~53グリッド内にほぼ東西に長径をとる5.0m×3.0m大のマウンド状遺構があり、一括土器などが出土している。また、E-48・49には暗褐色の粘質土からなる直径1m程のマウンドがあり、多量の炭化物、チップなどが分布している。これらも、本住居跡と関連するものと考えられる。遺物はマウンドの中央部からはあま

り出土せず、北側周辺部からの出土が多い。この住居跡からは樹種同定の資料を多量に採集した。詳しくは理科学分析に依らるたい。

出土遺物 土器は深鉢、小形土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石槍、石匙、三角スクレイパー、スクレイパー、石錐、玦状耳飾（欠損品）などが出土した。

**ST19** (第35・36・106・107・130・244図、図版32・35・36・82)

調査回数 第2次調査

検出位置 調査区南西部

検出グリッド E-53~55、F-52~55、G-52~55、H-53~55、I-53・54グリッド

形状 調査区の南壁面にあたり一部を欠くが、長軸約7.2m×短軸約4.0mの楕円形を呈するとみられる。

マウンドの有無 あり 高さ約35cm

特記事項 平面形はほぼ東西を主軸とする楕円形をなし、外周は2重~3重の打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。南半分が調査区外のために欠失している。炭化物・繊維質を多量に含み、全体的に粘土質である。マウンドの中央部の砂ブロック層にはあまり遺物が出土せず、周辺部からの出土が多い。北側に約1mの幅で礫が存在する。この住居跡からは樹種同定の資料を多量に採集した。詳しくは理科学分析に依らるたい。

出土遺物 土器は深鉢、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石槍、石匙、三角スクレイパー、石錐、打製石斧、磨製石斧、砥石などが出土した。E-54グリッドを中心に石匙、搔器、削器などがややまとまって出土したとこと、F-53グリッドから石鏃やチップなどがかたまって出土したことが特徴としてあげられる。

**ST20** (第37・38・108~110・143・248図、図版32・37・38・82)

調査回数 第2次調査

検出位置 調査区南部中央

検出グリッド K-52・53、L-50~53、M-50~53、N-50~53、O-50~52グリッド

形状 長軸約8.2m×短軸約5.2mの楕円形

マウンドの有無 あり 高さ約27cm

特記事項 平面形はほぼ南北を主軸とする楕円形をなし、外周は2重~3重の打ち込み柱から構成されている。直径5~10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。炭化物・繊維質・礫を多量に含んでいる。住居跡の規模はST10・ST13とほぼ同様である。東側中央部付近には木柱が欠けている部分があるが、これは排水のための溝掘りによる攪乱も影響している。

出土遺物 一括土器を中心として土器群が出土した。赤漆塗彩文土器の完形品が出土した。また、ST20周辺のN-48・49、O-48・49グリッドから、関東地方を中心とした分布域を持つ諸磯系土器が出土し、この遺物には赤漆が塗られている。石器は石鏃、押出型ポイント、石匙、三角スクレイパー、スクレイパー、石錐、打製石斧、磨製石斧、異形石器、玉斧状石製品などが出土した。木製品は加工木製品が出土した。

### ST21 (第33～36・111図)

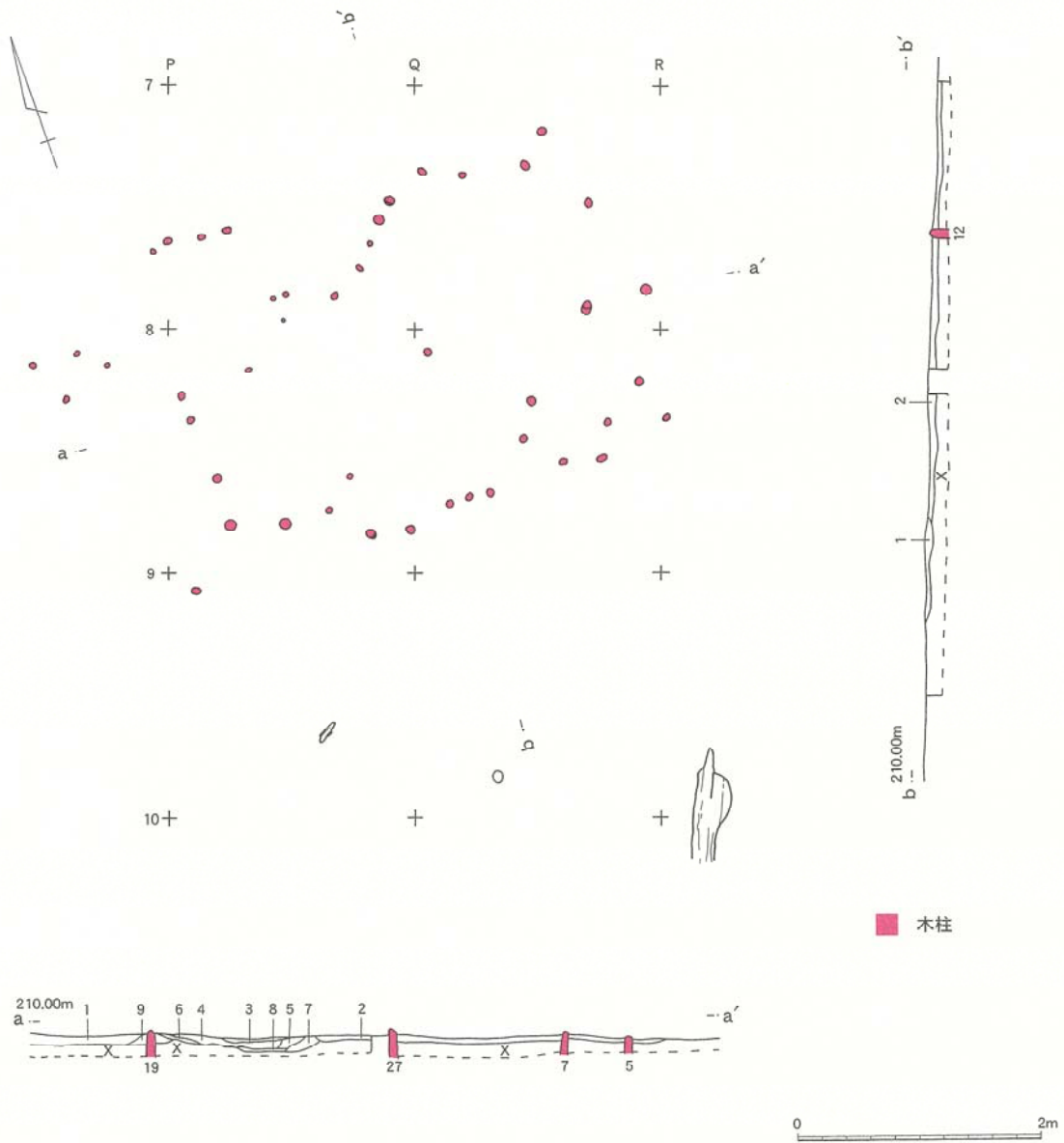
調査回数 第2次調査  
 検出位置 調査区南西隅  
 検出グリッド C-50～55、D-50～55、E-52～54グリッド  
 形状 調査区西壁面にあたり、一部のみの検出のため形状不明  
 マウンドの有無 なし  
 特記事項 平面形は不整形円形をなすと考えられ、外周は判然としないが、打ち込み柱から構成されている。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。住居跡として把握した内部にも木柱が打ち込まれている。  
 出土遺物 土器片が出土した。その他の遺物は判然としない。

### ST22 (第39・111図)

調査回数 第2次調査  
 検出位置 調査区中央部西端  
 検出グリッド C-33・34、D-33・34グリッド  
 形状 調査区の西壁面にあたり一部を欠くが、一辺約2.5mのほぼ方形とみられる  
 マウンドの有無 なし  
 特記事項 平面形はほぼ方形をなし、外周は1重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。付近にはST17があり、同じく方形を呈するがこちらはやや大きい。類似遺構として、ST1があるが、これの方形部分とほぼ同一の規模をなす。  
 出土遺物 土器が出土した。

### ST23 (第40・111・132・248図)

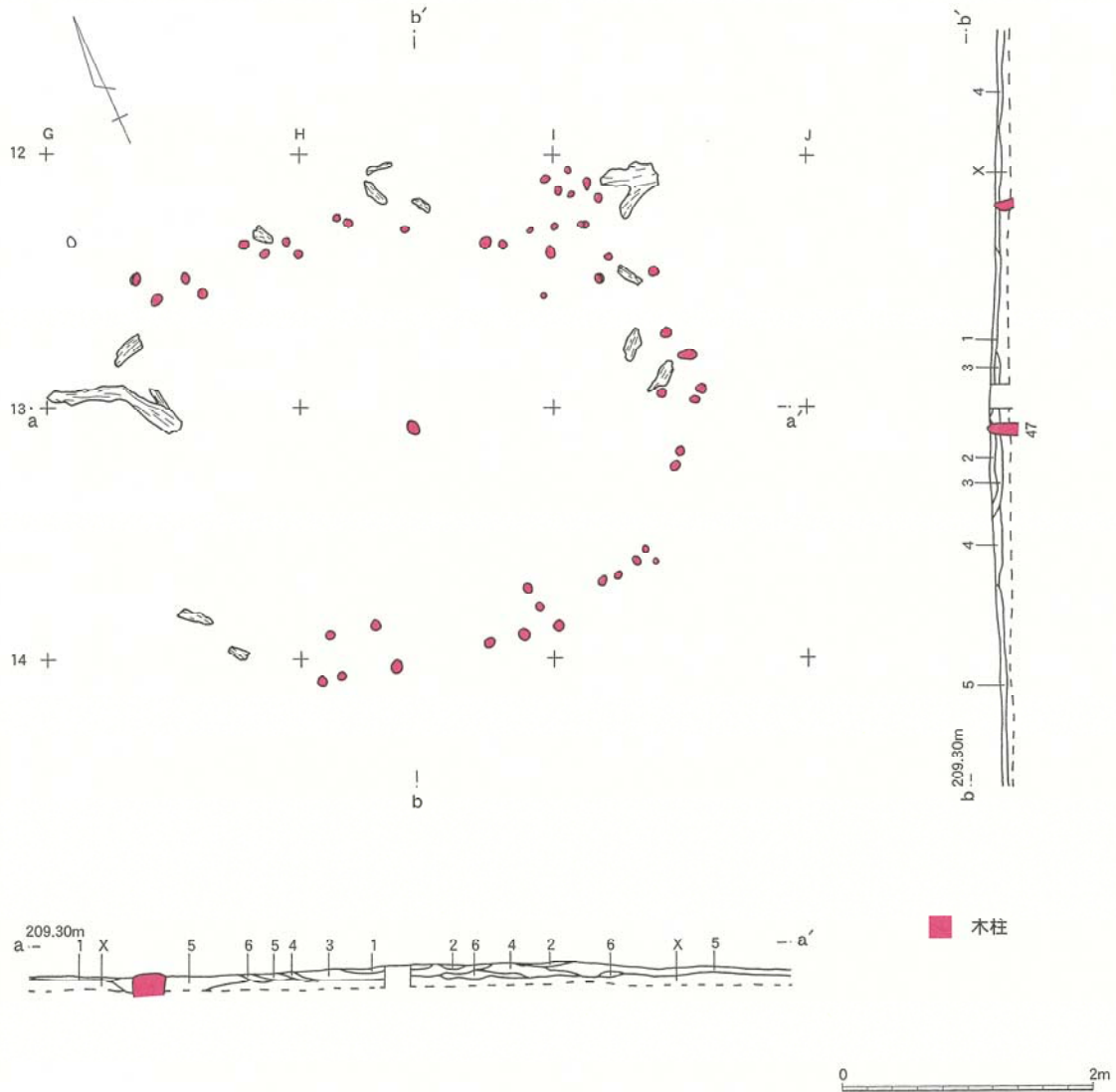
調査回数 第2次調査  
 検出位置 調査区ほぼ中央部  
 検出グリッド L-36～38、M-35～38、N-35～38、O-35～37グリッド  
 形状 長軸約8.0m×短軸約4.0mの楕円形  
 マウンドの有無 なし



1号住居跡土層注記

1	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	炭化粒子の中粒・小粒を含む
2	10YR3/3	暗褐色土	微砂質	炭化粒子の大粒・灰黄褐色(10YR6/2)粘土が帯状に混入する
3	10YR3/2	黒褐色土	細砂質	若干の炭化粒と白色風化礫小粒を含む
4	10YR5/6	黄褐色土	細砂質粘土	炭化粒子の大粒・褐色(10YR4/6)粘土ブロックを含む
5	10YR3/2	黄褐色土	細砂質粘土	炭化粒子の小粒・褐色(10YR4/6)粘土ブロックを若干含む
6	10YR5/1	褐灰色土	細砂質粘土	若干の炭化粒子を含む
7	10YR3/4	暗褐色土	微砂質	5mm~1cm大の炭化粒子大粒・黄褐色(10YR5/8)粘土ブロックを多量に含む
8	10YR2/1	黒色土	細砂質	若干の炭化粒子を含む
9	10YR4/1	褐灰色土	細砂質	炭化粒子を若干含み、固くしまっている

第8図 1号住居跡平面図・断面図

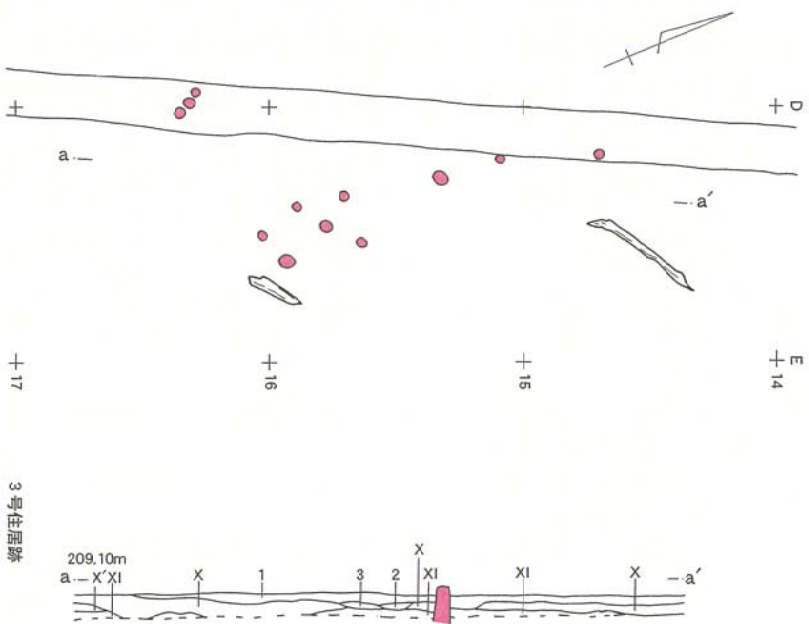


2号住居跡土層注記

1	10YR4/2	灰黄褐色土	微砂質	炭化物の微粒(2~3mm)が多量に含まれる。繊維質物を若干含む
2	10YR4/6	褐色土	細砂質	若干の炭化粒子・繊維質物を含む。焼土ブロックが若干混入する
3	10YR2/1	黒色土	細砂質	繊維質物・3~5cmの炭化材が多量に含まれる
4	10YR4/1	褐灰色土	粗砂質	灰黄褐色(10YR5/2)粘土ブロック・2~3mm大の風化礫粒(グリーンタフ)が多量に混入する。繊維質物を若干含む
5	10YR4/2	灰黄褐色土	細砂質粘土	5cm前後の炭化材がブロック状に混入する
6	10YR2/1	黒色土	細砂質	ブロックで混入。繊維質物・3~5cmの炭化材が多量に含まれ、3に類似する

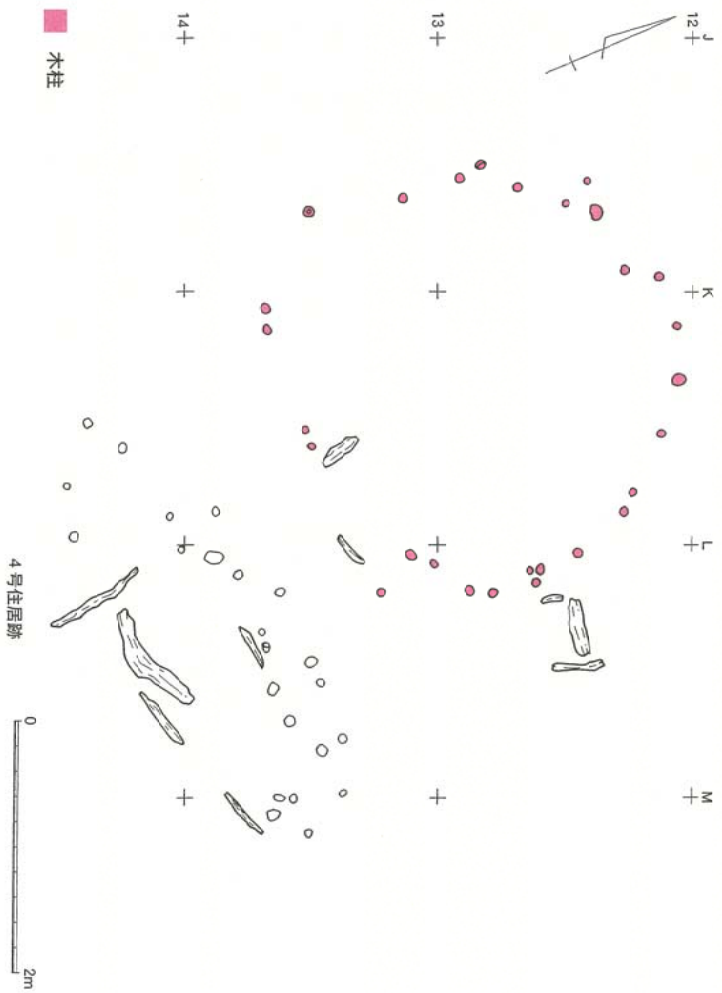
第9図 2号住居跡平面図・断面図



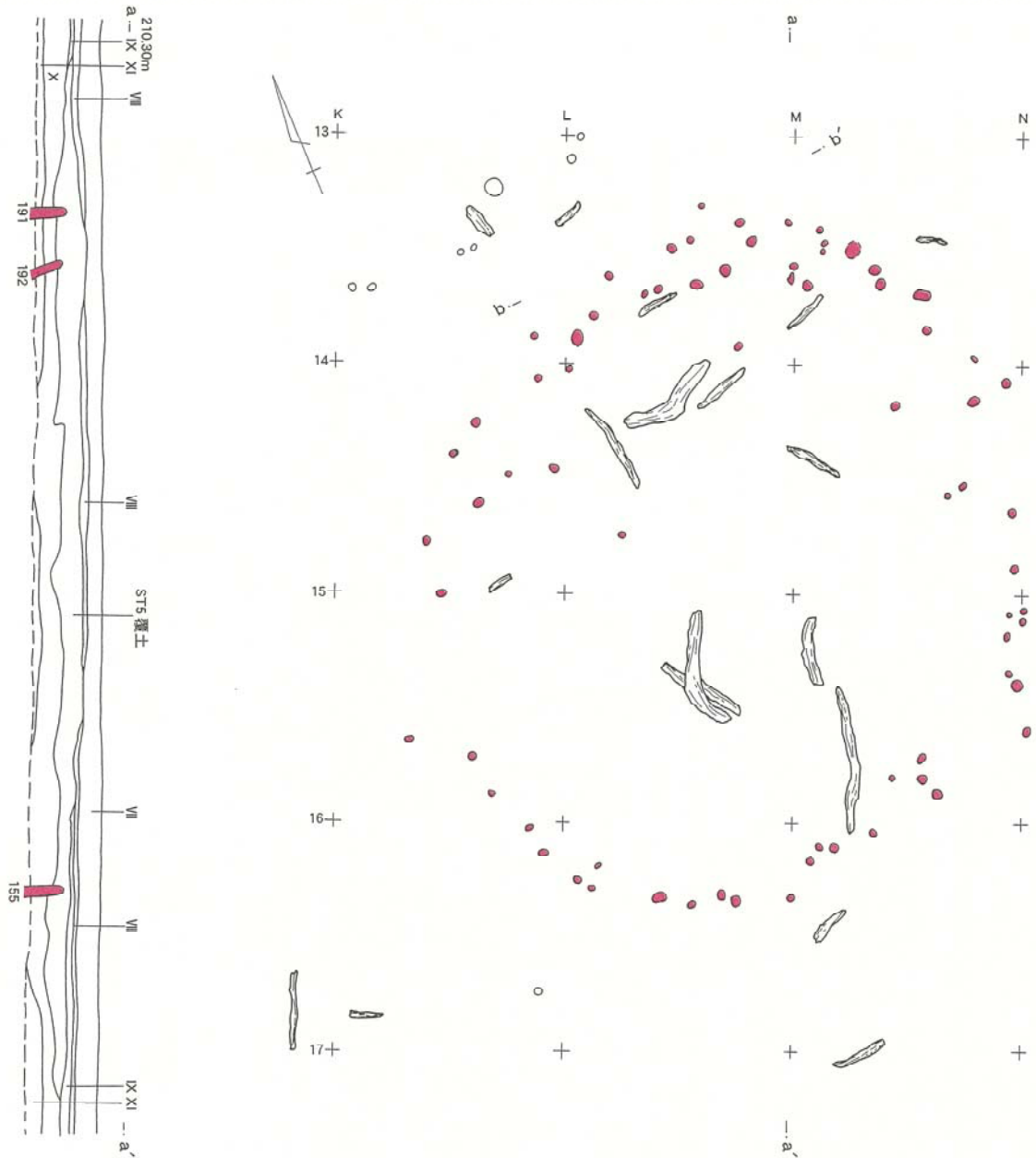


3号住居跡土層注記

- |   |         |      |       |                                                  |
|---|---------|------|-------|--------------------------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 細砂質粘土 | 繊維質を多量に含む。炭化粒の小粒・炭化材(5~6cm)が含まれる。炭化粒子は中央部にやや集中する |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 細砂質粘土 | 微粒な炭化粒子を含む                                       |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 微砂質粘土 | 炭化粒子の微粒が若干混入する                                   |



第10図 3・4号住居跡平面図・断面図



5号住居跡土層注記

1	10YR2/1	黒色土	細砂質	炭化粒子小粒を多量に含む
2	10YR4/2	灰黄褐色土	細砂質粘土	炭化粒子を含む
3	10YR1.7/1	黒色土	炭化材層	直径1~2cmの炭化粒子が密集している
4	10YR2/1	黒色土	微砂質	炭化粒子・風化礫小粒を多量に含む
5	10YR7/1	灰白色土	粗砂質	砂層。褐灰色粘土ブロックを含む
6	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	炭化粒子を多量に含む
7	10YR6/1	褐灰色土	細砂質粘土	若干の炭化粒子・風化礫を含む
8	10YR2/1	黒色土	微砂質	炭化粒子・風化礫粒子・褐灰色粘土ブロックを含む
9	10YR3/3	暗褐色土	微砂質	炭化粒子を若干含む

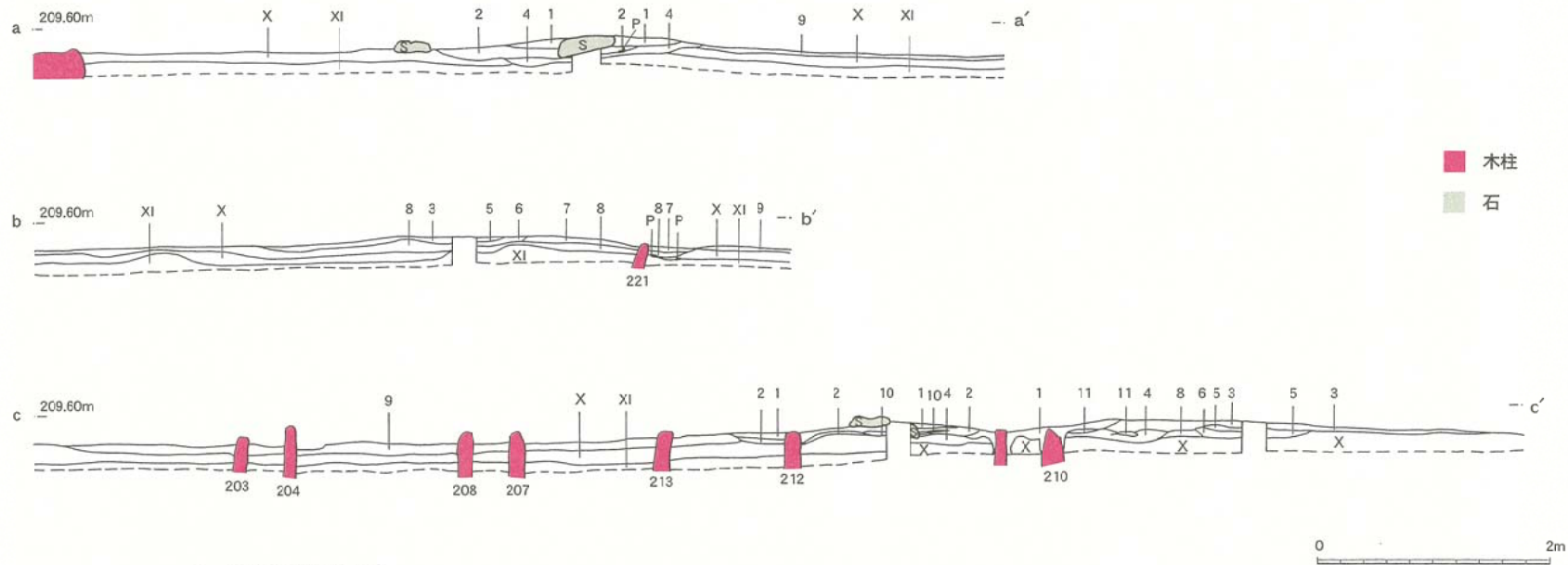
■ 木柱

0 2m

第11図 5号住居跡平面図・断面図



第12図 6・7号住居跡(1)平面図



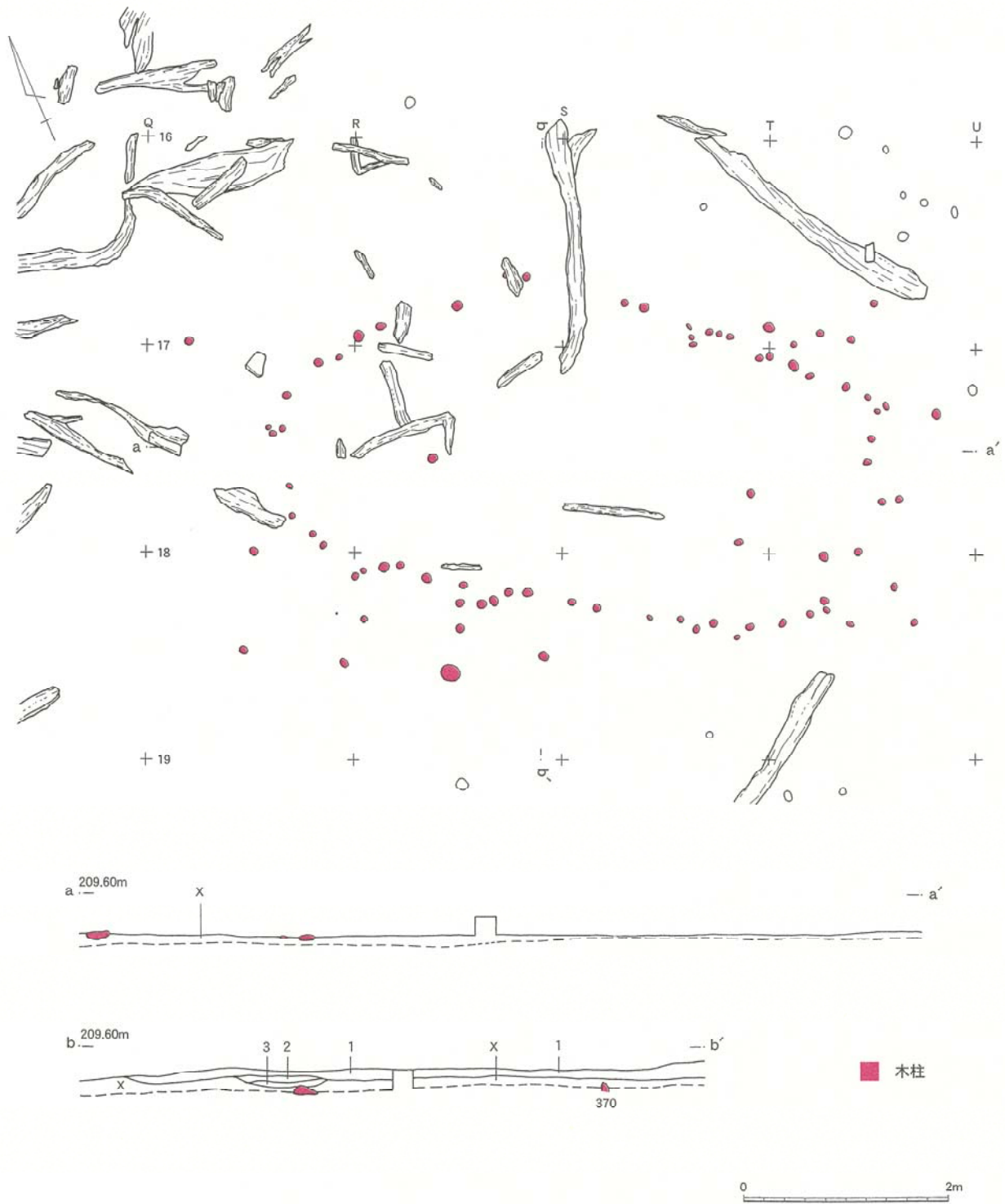
6・7号住居跡土層注記

1	10YR3/2	黒褐色土	粗砂質	炭化粒子の大粒・小礫粒を多量に含む
2	10YR2/2	黒褐色土	粗砂質	炭化粒子の大粒・小礫粒を多量に含む。1に類似するが、砂が多い
3	10YR3/2	黒褐色土	粗砂質	炭化粒子・白色風化礫を多量に含む
4	10YR3/3	暗褐色土	微砂質粘土	炭化粒子を若干含む、ややしまっている
5	10YR3/2	黒褐色土	粗砂質	やや大きめの炭化粒を多量に含む
6	10YR5/1	褐灰色土	細砂質粘土	若干の炭化粒子を含む
7	10YR3/3	暗褐色土	微砂質	風化礫粒や炭化粒子を若干含む
8	10YR4/4	褐色土	細砂質	炭化粒子を若干含む
9	10YR4/1	褐灰色土	細砂質粘土	炭化粒子を多く含む、小礫を若干含む
10	10YR2/2	黒褐色土	粗砂質	砂質土ブロック
11	10YR3/3	暗褐色土	微砂質粘土	粘質土ブロック

第13図 6・7号住居跡(2)断面図



第14図 8号住居跡平面図



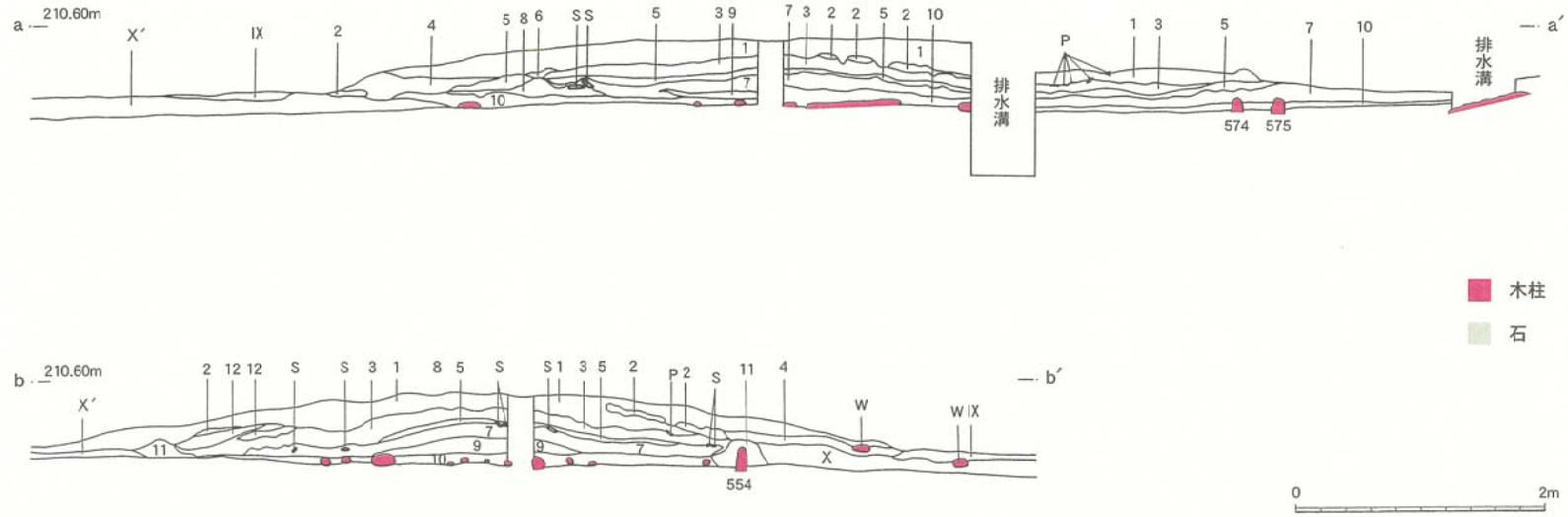
9号住居跡土層注記

- |   |              |       |                   |
|---|--------------|-------|-------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色土 | 微砂質   | 炭化粒子・風化礫小粒子を多量に含む |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色土 | 細砂質粘土 | 褐色粘土ブロック・炭化粒子を含む  |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色土 | 粗砂質   | 炭化粒子を多量に含む        |

第15図 9号住居跡平面図・断面図



第16図 10号住居跡(1)平面図



10号住居跡土層注記

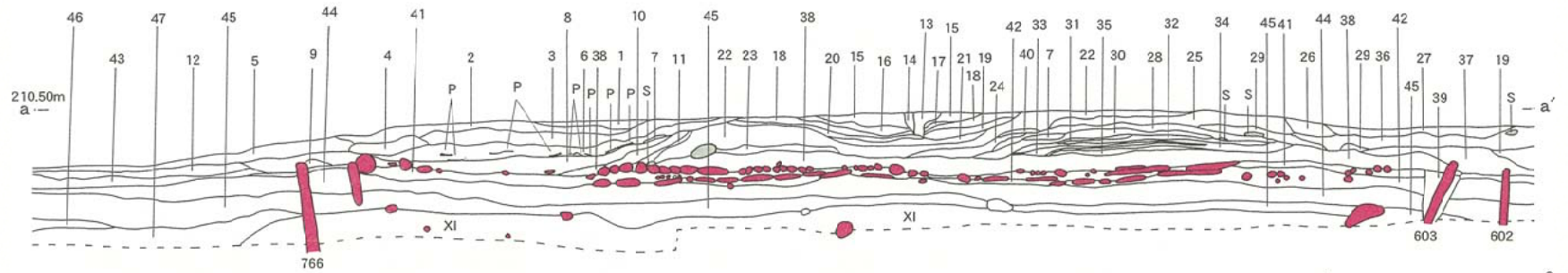
1	10YR2/2	黒褐色土	微砂質	風化粒・炭化粒子を多量に含む。やや硬くしまっている
2	10YR4/4	褐色土	微砂質	炭化粒子を多量に含む
3	10YR5/1	褐灰色土	細砂質粘土	炭化粒子を若干含む、10YR5/4 褐色土のブロックを多く含む。硬くしまっている
4	7.5YR2/3	極暗褐色土	微砂質	1に比し、大粒の炭化粒子を含む。褐白色粒子ブロックを含む
5	10YR6/1	褐灰色土	細砂質粘土	炭化粒子を若干含む、10YR5/4 褐色土のブロックを多く含む
6	10YR3/1	黒褐色土	細砂質粘土	若干の炭化粒子と褐灰色粘土ブロックを多量に含む、ややしまっている
7	10YR1.7/1	黒色土	微砂質	風化礫 (5~10cmの角礫・円礫) を多量に含む。小礫も多く含む
8	10YR3/1	黒褐色土	細砂質粘土	若干の炭化粒子と褐灰色粘土ブロックを多量に含む、ややしまっている
9	10YR4/1	褐灰色土	細砂土	若干の炭化粒子を含む
10	10YR3/3	暗褐色土	粘質土	炭化粒子や木片が若干含まれる。木片等の腐食物を含む
11	10YR2/2	黒褐色土	微砂質粘土	炭化粒子・白色風化礫粒子を多量に含む、やわらかい
12	10YR5/2	灰黄褐色土	細砂粘土	3・5に比し、炭化物が少ない

第17図 10号住居跡(2)断面図





第18図 11号住居跡(1)平面図

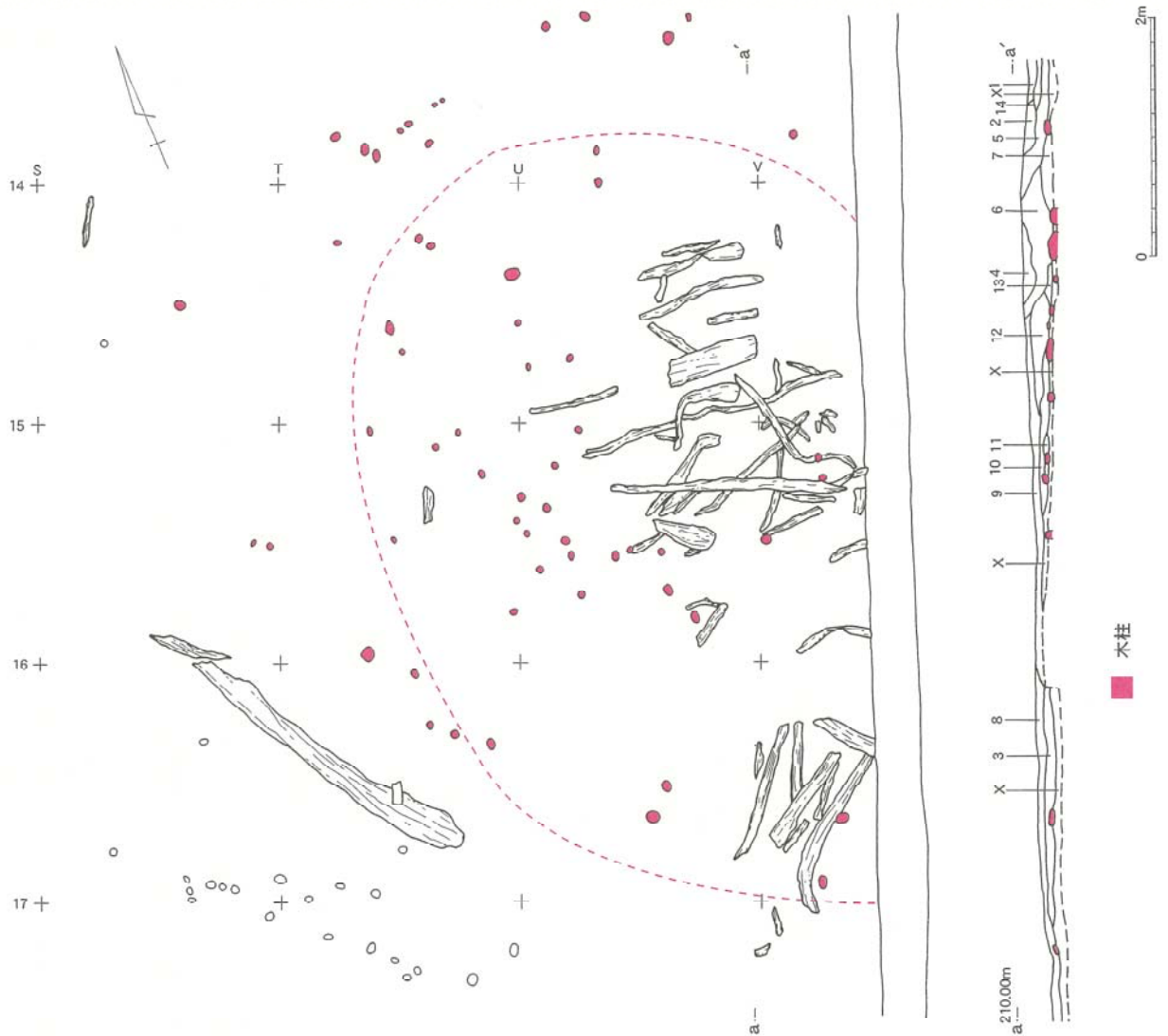


11号住居跡土層注記

1	10YR4/3	にぶい黄褐色土	微砂質	風化礫粒の大粒と小粒が多量に混じる。若干の炭化粒子を含む
2	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	風化礫粒子・炭化微粒子を多量に含む
3	10YR2/1	黒色土	微砂質	炭化粒子を若干含む、白色風化礫の(1~2cm大)と微粒を多量に含む
4	10YR4/4	褐色土	細質粘土	暗褐色粘土ブロック・白色風化粒・炭化粒子を含む
5	10YR4/1	褐灰色土	微砂質	炭化粒子の大粒・白色粒子を多量に含む
6	10YR6/1	褐灰色土	細砂質粘土	部分的に炭化粒子の大粒(2~3cm)を含む
7	10YR5/4	にぶい黄褐色土	粗砂(砂層)	若干の炭化粒子を含む
8	10YR2/2	黒褐色土	微砂質	炭化粒子の小粒を多量に含む
9	10YR5/2	灰黄褐色土	細砂質粘土	若干の炭化粒子を含む
10	10YR4/6	褐色土	微砂質	微砂質を含む
11	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	炭化物を多く含む
12	10YR3/2	黒褐色土	微砂質	炭化粒子を多量に含む、若干の白色風化粒子を含む
13	10YR3/2	黒褐色土	微砂質	炭化粒子を若干含む。風化礫微粒子を多量に含む
14	10YR3/2	黒褐色土	微砂質	12に類似する。小礫を多量に含む。炭化粒子を若干含む
15	10YR3/2	黒褐色土	微砂質	若干の炭化粒子を含む、小礫粒子を多量に含む
16	10YR4/6	褐色土	粗砂(砂層)	焼土。褐色の斑点が見られる
17	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	粘土ブロック・風化礫を含む
18	10YR3/2	黒褐色土	粗砂質	若干の炭化粒子が含まれる。白色微粒が多量に含まれる
19	10YR2/2	黒褐色土	粗砂質	白色風化礫・炭化粒子を多く含む
20	10YR3/3	暗褐色土	微砂質	若干の炭化粒子、多量の粘土ブロックを含む
21	10YR2/2	黒褐色土	粗砂質	若干の炭化粒・白色微粒を含む
22	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	若干の炭化粒子を含む、3~5cm大・中粒・小粒の風化礫を多量に含む
23	10YR3/2	黒褐色土	粗砂質	若干の炭化粒子が含まれる。白色微粒が多量に含まれる
24	10YR4/6	褐色土	微砂質	炭化物を含む
25	10YR5/1	褐灰色土	細砂質粘土	暗褐色土が斑点状に見られる
26	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	若干の炭化粒子を含む、褐灰色粘土ブロックを含む
27	10YR3/2	黒褐色土	微砂質	若干の炭化粒子・風化礫粒子を含む
28	10YR4/2	灰黄褐色土	微砂質粘土	炭化微粒子が多量に含まれる。若干の風化粒が混じる
29	10YR3/3	暗褐色土	微砂質	炭化粒を含む、褐色粘土ブロックが混じる
30	10YR2/2	黒褐色土	微砂質	炭化粒子・白色炭化礫を多量に含む。褐色砂層がブロック状に混じる
31	10YR4/1	褐灰色土	細砂質粘土	炭化粒を含む、褐色粘土ブロックを少量含む
32	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粗砂(砂層)	炭化粒子を多量に含む
33	10YR5/2	灰黄褐色土	粗砂質粘土	若干の炭化粒子を含む
34	10YR3/1	黒褐色土	粗砂質	炭化粒子を多量に含む。若干の白色風化粒子を含む
35	10YR5/2	灰黄褐色土	粗砂質粘土	若干の炭化粒子を含む
36	10YR2/2	黒褐色土	粗砂質	炭化粒・風化礫粒・粘土ブロックを多量に含む
37	10YR2/1	黒色土	粗砂質	炭化粒子を若干含む
38	10YR1.7/1	黒色土	微砂質	炭化粒子・白色風化粒子を多量に含む
39	10YR2/1	黒色土	粗砂質	炭化物を含む、褐色粘土ブロックを少量含む
40	10YR5/1	褐灰色土	細砂質粘土	暗褐色土を少量含む
41	10YR2/1	黒色土	微砂質粘土	木材を含む層
42	10YR2/2	黒褐色土	粘土質	木材を含む層
43	10YR2/2	黒褐色土	粘土質	基本層序X'層に該当
44	10YR2/3	黒褐色土	微砂質粘土	層中に木材が沈み込んでいる状況
45	10YR3/2	黒褐色土	粘土質	植物質の有機物を大量に含む
46	10YR2/2	黒褐色土	粘土質	植物質の有機物を多く含む
47	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	植物質の有機物を少量含む

■ 木柱  
■ 石

第19図 11号住居跡(2)断面図



12号住居跡土層注記

1	10YR3/3	暗褐色土	粗砂質	炭化粒子と若干の粘土ブロックを含む
2	10YR4/4	褐色土	粗砂質	1に類似する。炭化粒子と若干の粘土ブロックを含む
3	10YR3/3	暗褐色土	微砂質	5mm~1cmの炭化粒が斑点状に所々に混じる
4	10YR2/1	黒色土	微砂質	炭化粒子・風化礫小粒を多量に含む
5	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	炭化粒子・風化礫粒が均一に細かく堆積する
6	10YR4/4	褐色土	粗砂質	風化礫粒子・炭化粒子に混じり、5~7cmの粘土ブロックが多量に含まれる
7	10YR3/3	暗褐色土	粗砂質粘土	若干の炭化粒子を含む
8	10YR4/4	褐色土	微砂質	若干の炭化粒子・風化礫小粒子を含む
9	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	炭化粒子・風化礫小粒・小さい粘土ブロックを多量に含む
10	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	炭化粒子を多量に含む
11	10YR6/1	褐灰色土	粗砂質	砂層
12	10YR4/4	褐色土	粗砂質	6に類似し、風化礫粒子・炭化粒子を含む。粘土ブロックを少量含む
13	10YR3/3	暗褐色土	細砂質	炭化粒子を多く含む
14	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	炭化粒子・2~3mm大の風化礫粒・粘土ブロックを多量に含む

第20図 12号住居跡平面図・断面図

- 特記事項 平面形は東西を主軸とする楕円形をなし、外周は1重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にも木柱が打ち込まれている。ST24と一部重複している。
- 出土遺物 土器は小形土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、スクレイパー、石錐、磨製石斧、磨石などが出土した。

**ST24** (第40・111・129・130・132・248図)

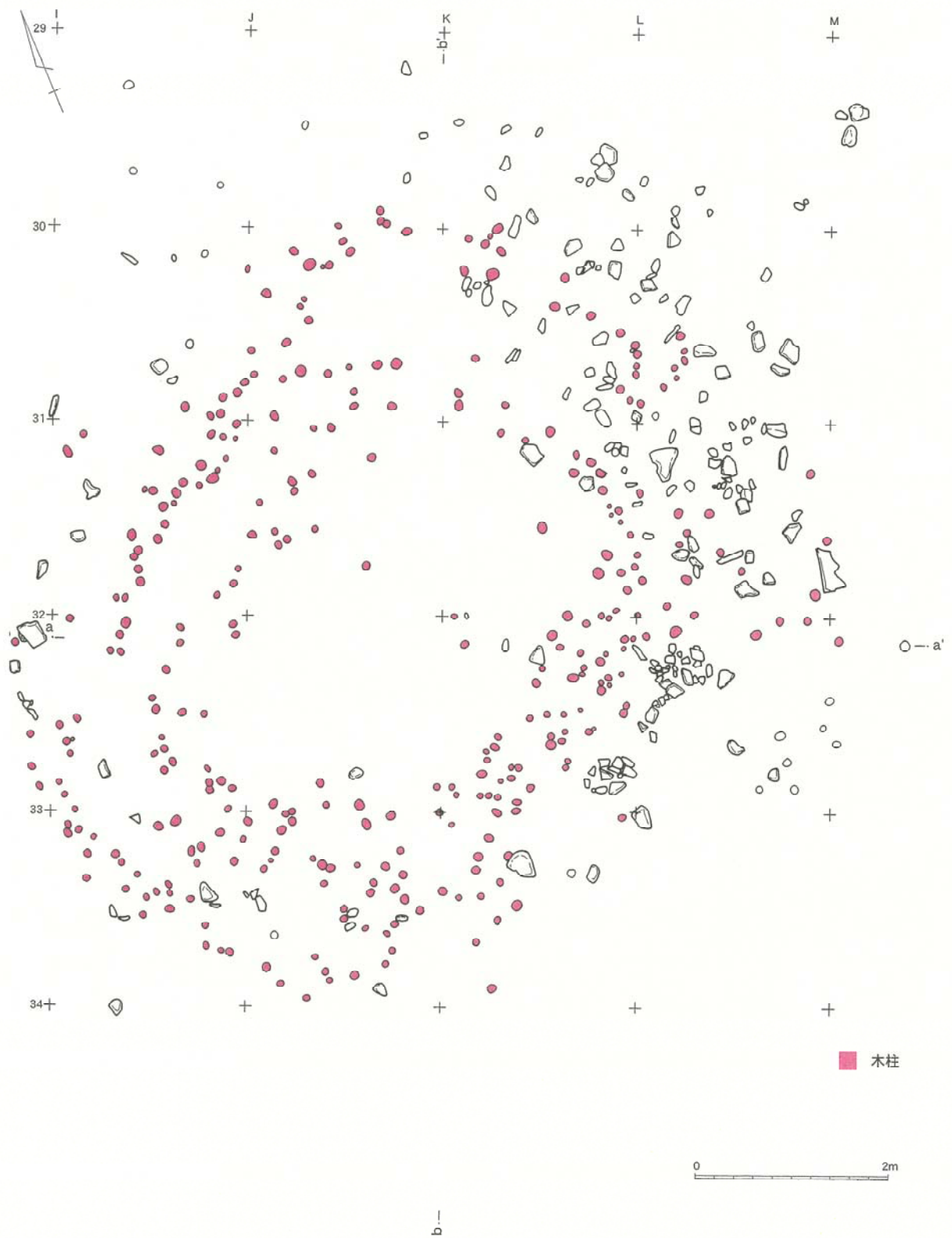
- 調査回数 第2・3次調査
- 検出位置 調査区ほぼ中央部
- 検出グリッド M-35、N-34～36、O-34～36、P-34～36グリッド
- 形状 直径約4.5mのほぼ円形
- マウンドの有無 なし
- 特記事項 平面形はほぼ円形をなし、外周はまばらではあるが1重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にも木柱が打ち込まれている。ST23と遺構の南西部分で一部重複している。
- 出土遺物 土器は小形土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、スクレイパー、石錐、磨石などが出土した。

**ST25** (第41・112・113・135図、図版83)

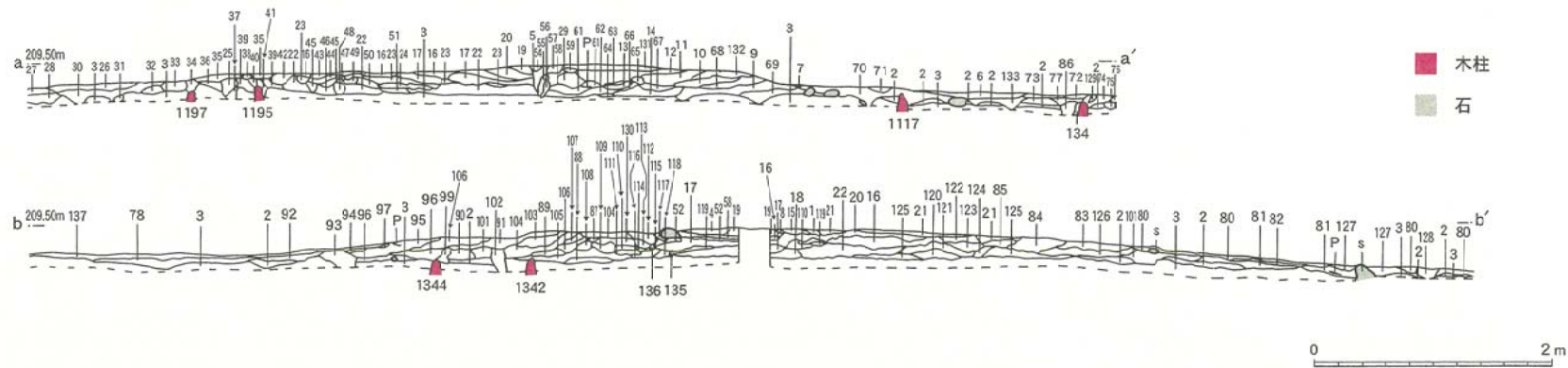
- 調査回数 第2・3次調査
- 検出位置 調査区南部中央
- 検出グリッド N-49・50、O-48～51、P-48～51、Q-49グリッド
- 形状 直径約5.3mのほぼ円形
- マウンドの有無 なし
- 特記事項 平面形はほぼ円形をなし、外周はまばらではあるが1重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にも木柱が打ち込まれている。
- 出土遺物 土器は深鉢、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、三角スクレイパー、スクレイパー、筥状石器、石錐、磨製石斧などが出土した。

**ST26** (第42・43・110・131・142・249図、図版39・40・83)

- 調査回数 第3次調査
- 検出位置 調査区中央部東端
- 検出グリッド U-27・28、V-27～29グリッド
- 形状 調査区東壁面にあたり、一部のみの検出のため形状不明



第21図 13号住居跡(1)平面图

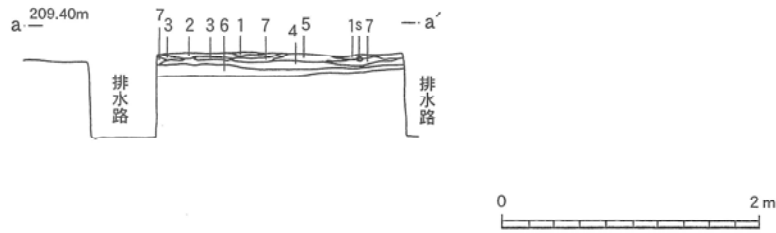


13号住居跡土層注記

1	10YR4/3	黄褐色土	炭化物・凝灰岩粒・粘土粒・繊維を含む	46	2.5Y4/2	暗灰黄色土	砂を多く含み、繊維・炭化物を含む	92	10YR2/1	黒色土	繊維・炭化物を含む
2	10YR4/3	灰黄褐色粘土	繊維を含み、炭化物が混じる。基本層序X層に相当か	47	10YR3/3	暗褐色砂	粘土粒・繊維を含み、上部には炭化物を多く含む	93	10YR3/1	黒褐色粘土	炭化物・繊維・凝灰岩粒を含む
3	10YR3/1	黒褐色粘土	繊維を含み、炭化物が混じる。基本層序X層に相当か	48	2.5Y4/1	黄灰色粘土	砂・繊維・炭化物を含む	94	10YR3/1	黒褐色土	炭化物・繊維を含む
4	10YR2/2	黒褐色土	粘土粒・凝灰岩粒・繊維・炭化物を含む	49	10YR3/1	黒褐色土	粘土粒・砂・炭化物・繊維を含む	95	10YR2/1	黒色土	炭化物・繊維・凝灰岩粒を含む
5	10YR3/2	黒褐色土	砂・繊維・凝灰岩粒・炭化物を含む	50	2.5Y3/2	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・粘土粒を含む	96	10YR3/1	黒褐色土	炭化物・繊維・凝灰岩粒を含む
6	10YR2/1	黒色土	繊維を多く含み、砂・炭化物を含む	51	10YR3/1	黒褐色土	砂・粘土を多く含み、繊維・炭化物を含む	97	10YR1.7/1	黒色土	繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む
7	10YR7/1	黒色土	繊維を含む	52	10YR4/2	灰黄褐色粘土	繊維・炭化物を含む	98	10YR2/1	黒色土	繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む
8	10YR4/3	黄褐色砂	繊維を含む	53	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・炭化物・粘土塊を含む	99	10YR3/1	黒褐色土	炭化物・繊維・凝灰岩粒を含む。砂も混じる
9	10YR3/1	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む	54	10YR2/3	黒褐色土	砂・繊維・炭化物を含む	100	2.5Y3/1	黒褐色土	繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む
10	10YR4/2	灰黄褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む	55	10YR2/1	黒色土	繊維・砂・炭化物を含む	101	10YR2/1	黒色土	凝灰岩粒・炭化物・繊維を含む
11	10YR3/1	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む	56	10YR3/1	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物を含む	102	10YR2/2	黒褐色土	繊維・炭化物を含む。砂も混じる
12	10YR3/1	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・凝灰岩粒粘土塊を含む	57	2.5Y4/2	暗灰黄色土	繊維・炭化物を含む。サラサラしている	103	2.5Y4/2	暗灰黄色土	炭化物・凝灰岩粒・粘土粒・繊維を含む
13	10YR1.7/1	黒色土	凝灰岩粒を多く含み、砂・繊維・炭化物を含む	58	2.5Y3/2	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物を含む	104	10YR3/1	黒褐色土	凝灰岩粒・炭化物・粘土粒・砂・繊維を含む
14	10YR1.7/1	黒色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・5mm大の砂粒を含む。凝灰岩も少量混入する	59	10YR2/1	黒褐色土	砂・繊維・凝灰岩粒・炭化物を含む	105	2.5Y4/1	黄灰色土	炭化物を多く含み、砂・繊維を含む
15	2.5Y4/1	灰黄色土	繊維・炭化物・砂・凝灰岩細粒を含む	60	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・粘土粒・炭化物を含む	106	10YR4/3	黄褐色土	砂・凝灰岩粒・繊維・炭化物を含む
16	10YR5/4	黄褐色砂	繊維・炭化物・砂・凝灰岩細粒を含む	61	10YR2/1	黒色土	炭化物を多く含み、砂・繊維・凝灰岩粒・粘土粒を含む	107	7.5YR3/1	黒褐色土	炭化物・凝灰岩粒・繊維を含む
17	7.5Y5/2	灰オリブ色砂粘土	繊維・炭化物・砂・凝灰岩細粒を含む	62	10YR3/2	黒褐色粘土	炭化物・繊維を含む。砂も混じる	108	10YR4/2	灰黄褐色土	砂・炭化物・繊維を含む
18	10YR3/1	黒褐色土	砂多く、繊維・15mmまでの炭化物を含む	63	7.5Y5/2	灰オリブ色粘土	砂・炭化物・繊維を含む	109	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物・凝灰岩粒・繊維を含む
19	10YR2/2	黒褐色土	砂・繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む	64	10YR2/1	黒色土	砂を多く含み、繊維・炭化物を含む	110	10YR4/3	黄褐色土	砂を多く含み、炭化物・繊維・粘土粒を含む
20	10YR2/2	黒褐色土	繊維・砂・炭化物・凝灰岩粒を含む	65	10YR3/1	黒褐色土	粘土粒・繊維・炭化物・砂を含む	111	7.5Y5/2	灰オリブ色砂粘土	繊維を含む
21	10YR3/1	黒褐色土	繊維・砂・炭化物・凝灰岩粒を含む	66	10YR4/4	褐色砂	繊維・炭化物を含む	112	10YR3/1	黒褐色土	粘土粒・炭化物・繊維を含む
22	7.5YR3/1	灰色粘土	オリブ灰色砂を非常に多く含み、炭化物・繊維を含む	67	10YR3/2	黒褐色土	砂・粘土粒・繊維・炭化物を含む	113	10YR2/1	黒色土	繊維・炭化物を含む
23	7.5Y5/1	灰色粘土	砂・繊維を含む	68	10YR3/1	黒褐色土	繊維・砂・粘土粒・炭化物・凝灰岩を含む	114	10YR4/2	灰黄褐色粘土	繊維・炭化物・砂を含む
24	10YR3/1	黒褐色土	砂・炭化物・繊維を含む	69	10YR2/1	黒褐色土	炭化物を多く含み、繊維・凝灰岩を含む	115	10YR2/2	黒褐色土	砂・凝灰岩粒・炭化物・繊維を含む
25	7.5YR3/1	黒褐色土	砂を多く含み、大型(5cm大)の炭化物・繊維・粘土粒を含む	70	2.5Y3/1	黒褐色土	炭化物を多く含み、繊維・凝灰岩粒・砂を含む	116	10YR3/1	黒褐色土	砂・炭化物・繊維・粘土粒を含む
26	2.5Y3/1	黒色土	砂・炭化物・凝灰岩粒・繊維を含む	71	10YR3/1	黒褐色土	繊維・凝灰岩粒・炭化物を含む	117	10YR1.7/1	黒色土	繊維・炭化物を含む
27	7.5YR2/1	黒褐色土	繊維・炭化物を含み、砂も混じる	72	10YR2/1	黒色土	繊維・炭化物・凝灰岩粒・砂を含む	118	10YR3/1	黒褐色土	炭化物・砂を多く含み、繊維を含む
28	7.5YR3/1	黒褐色土	炭化物を多く含み、繊維を含む	73	2.5Y4/1	黄灰色粘土	繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む	119	10YR4/2	灰黄褐色土	砂を非常に多く含み、炭化物・繊維・炭化物を含む
29	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・粘土粒・炭化物を含む	74	10YR3/1	黒褐色土	繊維・粘土粒・凝灰岩粒・炭化物を含む	120	2.5Y4/1	灰色砂	炭化物・繊維を含む
30	10YR2/1	黒色土	3cm未満の炭化物・粘土粒・繊維・凝灰岩粒を含む	75	2.5Y3/1	黒褐色粘土	繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む	121	10YR4/3	黄褐色砂	炭化物・繊維・粘土粒・凝灰岩粒を含む
31	10YR4/2	灰黄褐色粘土	繊維・凝灰岩粒・炭化物を少し含む	76	10YR2/1	黒色土	炭化物・凝灰岩粒・粘土粒・繊維を含む	122	10YR3/2	黒褐色土	繊維・凝灰岩粒・炭化物を含む
32	10YR4/1	褐灰色粘土	繊維・炭化物を含む	77	10YR2/1	黒色土	繊維・凝灰岩粒・炭化物を含む	123	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・粘土粒・炭化物を含む
33	2.5Y3/1	黒褐色粘土	砂・炭化物・繊維・灰色粘土粒を含む	78	10YR3/1	黒褐色粘土	繊維・炭化物を含む	124	10YR4/2	灰黄褐色砂	繊維・炭化物を含む
34	10YR3/1	黒褐色土	砂・炭化物・凝灰岩粒を含む	79	10YR2/1	黒色土	砂・繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む	125	10YR3/1	黒褐色土	砂を多く含み、炭化物・繊維を含む
35	10YR3/1	黒褐色土	繊維・炭化物・砂・凝灰岩粒を含む	80	10YR3/1	黒褐色土	繊維・砂・炭化物を含む	126	2.5Y3/1	黒褐色土	繊維・炭化物・凝灰岩粒・砂を含む
36	10YR3/2	黒褐色土	砂・繊維・炭化物を含む	81	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物・砂・繊維・凝灰岩粒を含む	127	10YR2/2	黒褐色土	繊維・炭化物・砂を含む
37	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・炭化物を含む	82	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・炭化物を含む	128	2.5Y3/2	黒褐色土	繊維・砂・炭化物を含む
38	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・炭化物を含む	83	10YR3/1	黒褐色土	砂・繊維・炭化物・凝灰岩粒・粘土粒を含む	129	10YR2/1	黒色土	繊維・炭化物を含む
39	10YR3/2	黒褐色土	砂・繊維・炭化物を含む	84	2.5Y4/1	黄灰色土	砂を多く含み、粘土粒・繊維・炭化物を含む	130	10YR4/3	黄褐色土	粘土塊・砂を多く含む。炭化物・繊維も含む
40	7.5YR2/1	黒色土	砂を多く含み、3cm未満の炭化物・繊維を含む	85	2.5Y3/2	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・粘土粒・凝灰岩粒を含む	131	10YR3/1	黒褐色土	砂・凝灰岩粒を多く含み、炭化物・繊維・粘土塊を含む
41	10YR4/3	黄褐色土	砂を多く含み、炭化物・繊維・粘土粒を含む	86	10YR4/2	灰黄褐色土	繊維・炭化物を含む	132	10YR3/1	黒褐色土	砂を多く含み、繊維・炭化物・凝灰岩粒を含む
42	10YR3/3	暗褐色土	砂・炭化物を多く含み、繊維・粘土粒を含む	87	10YR4/4	褐色土	繊維・砂・炭化物を含む	133	10YR3/2	黒褐色土	繊維・炭化物・砂を含む
43	10YR2/1	黒色土	砂・炭化物・繊維を含む	88	10YR3/2	灰褐色土	灰色砂・炭化物を多く含み、繊維も含む	134	10YR2/2	黒褐色土	繊維・炭化物を含む
44	10YR3/1	黒褐色土	粘土粒・繊維・砂・炭化物を含む	89	10YR4/2	灰黄褐色粘土	砂・繊維・炭化物を含む	135	10YR2/2	黒褐色土	繊維・炭化物・砂を含む
45	10YR4/3	黄褐色土	砂を多く含み、粘土粒・繊維を含む。炭化物も混入する	90	10YR2/1	黒色土	炭化物・繊維・砂を含む	136	5Y5/3	灰オリブ色粘土	混入物は認められない
				91	10YR3/1	黒褐色土	繊維・炭化物・凝灰岩粒・砂を含む	137	10YR2/1	黒色土	繊維・炭化物を含む



第23図 14号住居跡(1)平面図



## 14号住居跡土層注記

1	5YR3/1	黒褐色土	やや硬質	やや赤味を帯びた黒褐色土で、一部黒色土も混じる。繊維質・砂が混入する
2	10YR2/1	黒色土	やや硬質	VII層の黒色土に、風化礫を含む。所々に黒褐色土が見られる
3	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘質	繊維質を含み、砂粒を少量含む。粘土質
4	2.5YR3/1	黒褐色土	軟質	多量の砂が含まれる。3～5mm大の炭化物・粘土粒子も多少含む
5	10YR2/2	黒褐色土	硬質	粒子の粗い砂粒を多く含む
6	2.5Y3/1	黒褐色土	軟質	木が多く含まれる
7	10YR2/2	黒褐色土	やや硬質	灰色の粘土粒を含む

第24図 14号住居跡(2)断面図

マウンドの有無	マウンドの記載あり
特記事項	平面形は判然としない。ほぼ南北方向を軸として木材を敷き並べた「転ばし根太」と思われる遺構があるため、この周辺を住居跡として把握した。炭化物を多く含む。
出土遺物	土器は浅鉢形土器、深鉢、土器片が出土した。石器は押出型ポイント、石槍、スクレイパー、篋状石器、石錐、磨石などが出土した。

**ST27** (第44・113・147図、図版41・42)

調査回数	第3次調査
検出位置	調査区南東隅
検出グリッド	V-53~55、W-53~55グリッド
形状	調査区南東壁面にあたり、一部のみの検出のため形状不明
マウンドの有無	あり 高さ約33cm
特記事項	平面形は判然としない。マウンドが存在するため、これに関係する範囲内部を住居跡として把握した。内部にも木柱が打ち込まれている。周囲は全体的に粘土質でしまりがある。また、炭化物が集中している箇所がみられる。
出土遺物	土器は赤漆塗彩文土器、土器片が出土した。石器は異形石器、磨石などが出土した。

**ST28** (第45・113・129・249図、図版51)

調査回数	第3次調査
検出位置	調査区南東部
検出グリッド	U-49・50、V-48~50、W-48~50グリッド
形状	調査区南壁面にあたり、一部のみの検出だが、方形もしくは長方形を呈するとみられる。検出部分の一边は約4.5mを呈する。
マウンドの有無	あり 高さ約18cm





第25図 15号住居跡(1)平面図・断面図

## 15号住居跡土層注記

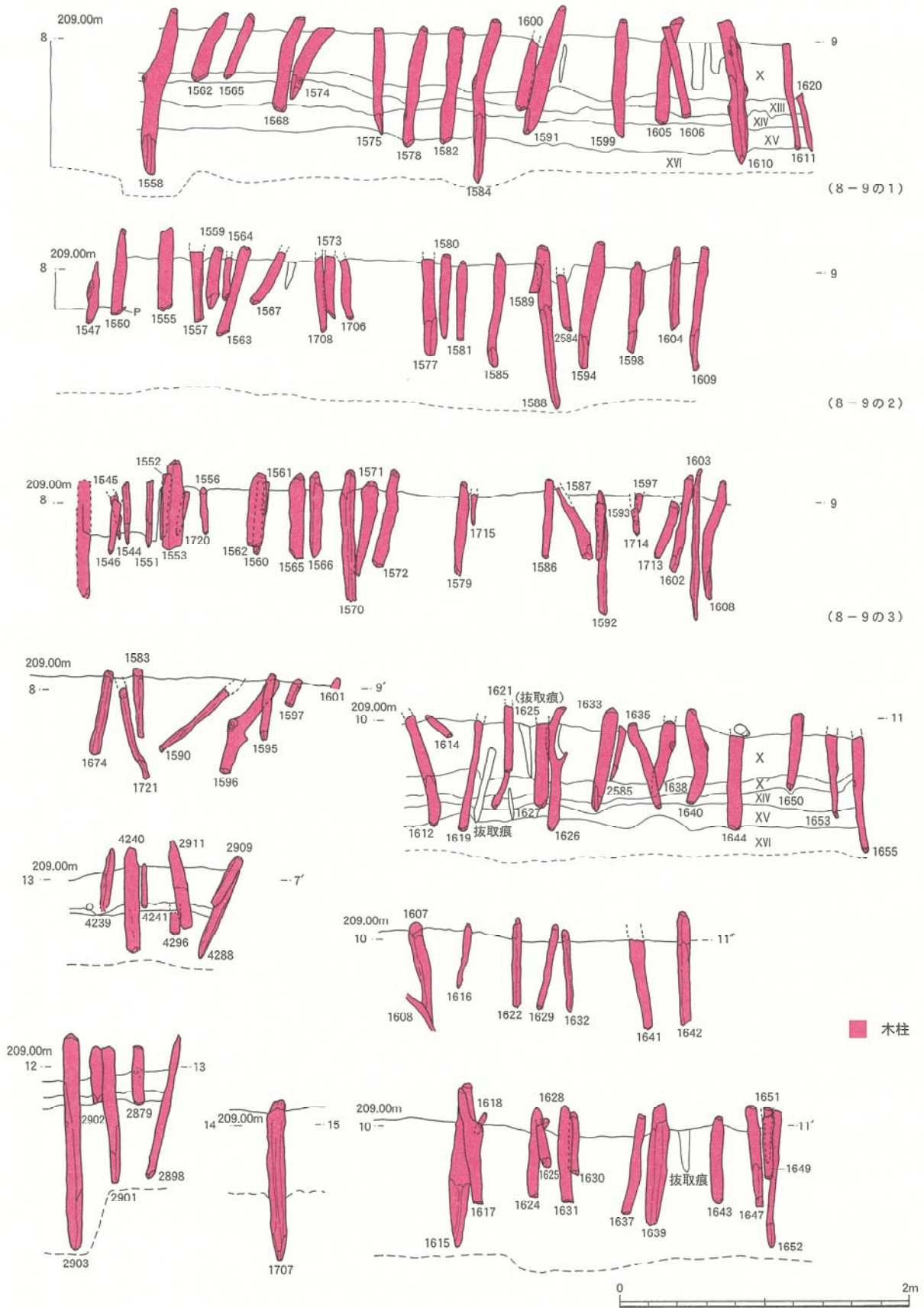
1	10YR4/2	灰黄褐色土	硬質	凝灰岩の風化礫を多量に含み、繊維質を多く含む
2	2.5Y3/1	黒褐色土	軟質	白色の風化礫・2～3mm大の炭化物を少量含み、粘性を有する。下部に木が敷かれている
3	10YR1.7/1	黒色土	やや軟質	繊維質を有する黒色土で、灰色の粘土をブロックで少量含む
4	10YR2/2	黒褐色土	硬質	マウンド上面によく見られる混入物をあまり含まない薄い層だが、細かい白色粒子・炭化物を含む
5	10YR2/2	黒褐色土	やや硬質	風化礫を多く含み、炭化物を少量含む。部分的に粘土ブロックを含む
6	10YR2/2	黒褐色土	軟質	風化礫を多く含む。粘土ブロック・炭化物の混入が多い
7	10YR3/2	黒褐色土	軟質	基本層序X層に相当する。繊維質を多量に含む
8	10YR3/1	黒褐色土	硬質	風化礫を多く含むが、1より劣る。繊維質を多量に含む。炭化物を少量含む
9	5Y4/1	灰色土	やや硬質	灰色の粘土で炭化物・風化礫を少量含む
10	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	炭化物を含む粘質土で、風化礫を少量含む。礫・砂を若干含む
11	10YR2/1	黒色土	軟質	5mm大の炭化物が多く混じる灰色粘土を含む層で、風化礫も若干含む
12	2.5Y4/1	黄灰色土	硬質	黄灰色の粘土からなるブロックで、繊維質を含む
13	10YR2/1	黒色土	硬質	基本層序VII層とみられる。炭化物が多く、礫が少々混じる
14	10YR2/1	黒色土	やや硬質	炭化物・微細な砂・風化礫を少量含む
15	10YR2/1	黒色土	軟質	5mm大の炭化物が多く混じり、灰色粘土を含む。11に似るが、しまりはない。少量の礫が混入する
16	2.5Y5/1	黄灰色土	軟質	9に類似し、炭化物・風化礫を少々含む
17	2.5Y5/3	黄褐色土	やや硬質	9に似る粘土だが、色調が黄色を帯びている。炭化物・風化礫を少々含む
18	2.5Y4/1	黄灰色土	やや軟質	16に似るが、炭化物の混入が多くなる
19	2.5Y4/1	黄灰色土	やや硬質	黄灰色の粘土に、炭化物・礫が混入する
20	10YR4/1	褐灰色土	やや軟質	灰色の粘土ブロック・2～3mm大の炭化物・微細な風化礫を多く含む
21	2.5Y3/1	黄褐色土	やや硬質	16に類似する。やや硬質な粘土で、炭化物を少量含む
22	10YR4/1	褐灰色土	やや硬質	20に比し、炭化物の粒子が細かくしまっている。灰色の粘土ブロックを多く含む
23	10YR2/3	黒褐色土	軟質	礫の混入は認められず、粒子ブロックを多く含む。20に比し、炭化物の混入が少ない
24	2.5Y4/2	暗灰黄色土	硬質	灰黄色の粒子からなるが、所々に黒色土が混入する
25	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	灰黄色の粘土が多く混じる。5mm大以上の炭化物も少々含まれる。24に似る
26	10YR2/2	黒褐色土	やや硬質	24・25の灰黄色の粘土層の間に存する黒色の層。粘土は含まれず、炭化物を少量含む
27	10YR2/1	黒色土	やや軟質	粘土粒を多少含み、炭化物は極微量含まれる
28	10YR4/2	灰黄褐色土	軟質	灰黄色の粘土に5mm大の炭化物が多く混じり、風化礫も少々含む
29	10YR3/3	暗褐色土	やや軟質	風化礫を多量に含む層で、炭化物・砂も含む。礫の混入密度は濃い
30	10YR3/2	黒褐色土	やや軟質	炭化物・風化礫を少量含む。灰色粘土をまばらに含む
31	10YR3/3	暗褐色土	軟質	29に類似するが、炭化物・礫を少々含む
32	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	繊維質を多量に含み、大粒の炭化物が多く混じる。風化礫も少々みられる
33	2.5Y4/2	暗灰黄色土	硬質	灰色粘土に風化礫・炭化物を少量含む。しまっている
34	10YR2/1	黒色土	軟質	炭化物・繊維質を多量に含み、灰色の粘土粒を少量含む
35	10YR3/3	黒褐色土	やや軟質	34と同様に繊維質・炭化物を多く含むが、34に比し、色調がやや明るい
36	10YR2/1	黒色土	やや軟質	大粒の炭化物を多く含み、所々に灰色の粘土ブロックを有する
37	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	繊維質を多量に含む。35に似るが、35よりも大粒の炭化物、クルミを含む
38	10YR2/3	黒褐色土	軟質	炭化物を多く含み、特に大粒の炭を含む。繊維質も多く含む。土器を包含する
39	10YR2/1	黒色土	やや軟質	炭化物を多く含み、38に類似するが、色調が暗く、しまっている
40	10YR2/1	黒色土	やや軟質	2～5mm大の炭化物を多量に含むが、39に比し粒は小さい。風化礫を少量含む
41	10YR3/1	黒褐色土	軟質	37・38の間層だが、両層に比し、炭化物の粒は小さく、混入量も少ない
42	10YR3/1	黒褐色土	軟質	炭化物・風化礫を多少含む
43	5Y4/1	灰色土	やや軟質	灰色粘土に炭化物が少量混じる
44	5Y3/1	オリーブ黒色土	やや軟質	オリーブ黒の粘土に、微細な炭化物が少量混じる
45	10YR3/3	暗褐色土	やや軟質	炭化物が多く、礫の混入は少ない
46	10YR4/2	灰黄褐色土	硬質	灰黄褐色の粘土に、2mm大の礫が多量に混じる
47	10YR3/1	黒褐色土	やや硬質	灰色粘土に多量の炭化物・風化礫を含む。炭化物は2～3mm大が多い

## 第26図 15号住居跡(2)

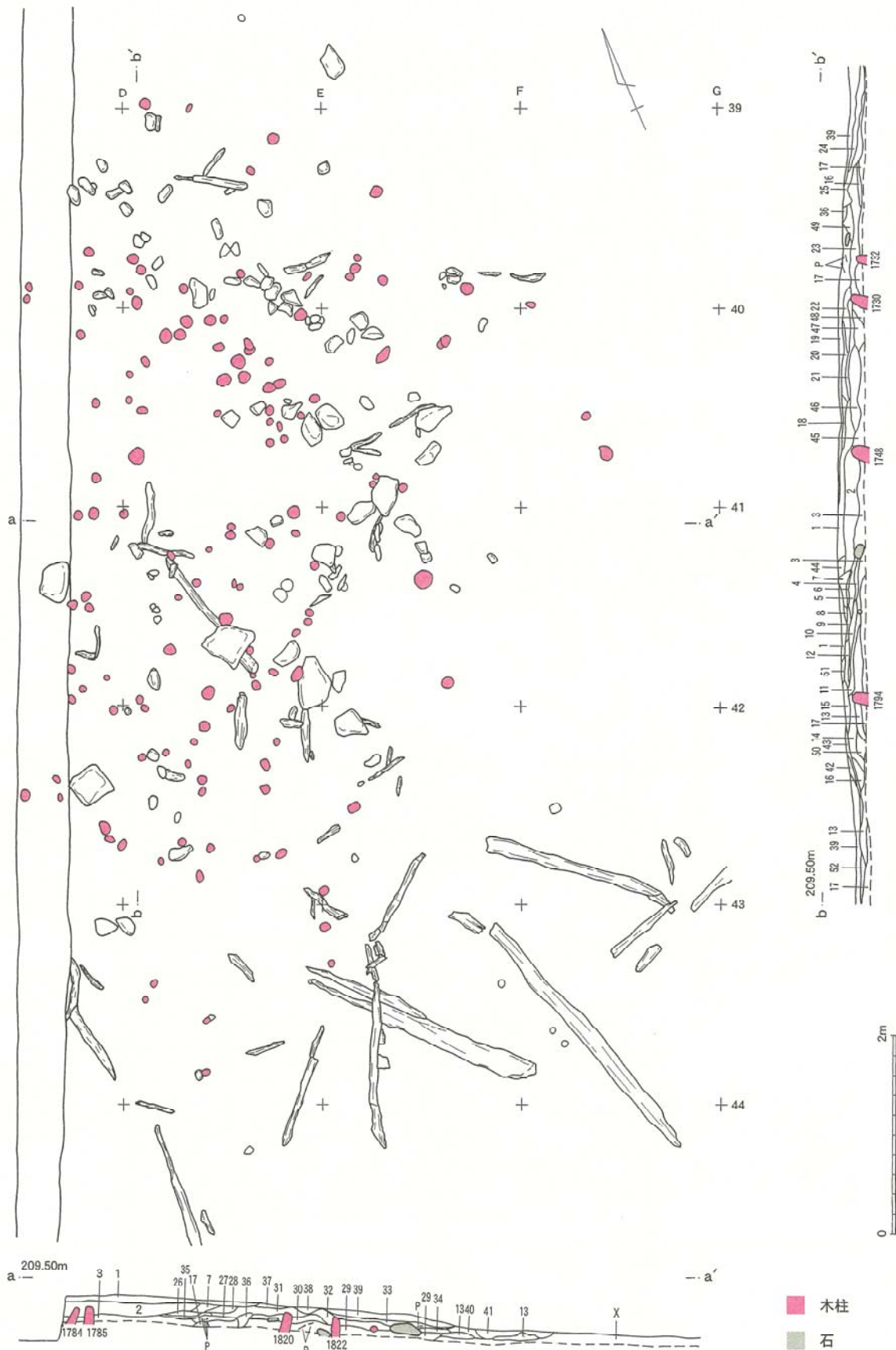
**特記事項** 平面形は方形もしくは長方形を呈すると考えられるが、遺構の東側は調査区外にかかるため全体形は不明である。外周は2重～3重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にも木柱が打ち込まれている。周囲には部分的に炭化物を多量に含む。下部に火山灰と思われる白色のブロックが認められる。

**出土遺物** 土器は土器片が出土している。石器は石鏃、押出型ポイント、石槍、三角スクレイパー、スクレイパー、磨石、異形石器などが出土した。木製品は篋状木製品が出土した。





第28図 15号住居跡(4)木柱断面図



第29図 16号住居跡(1)平面図・断面図

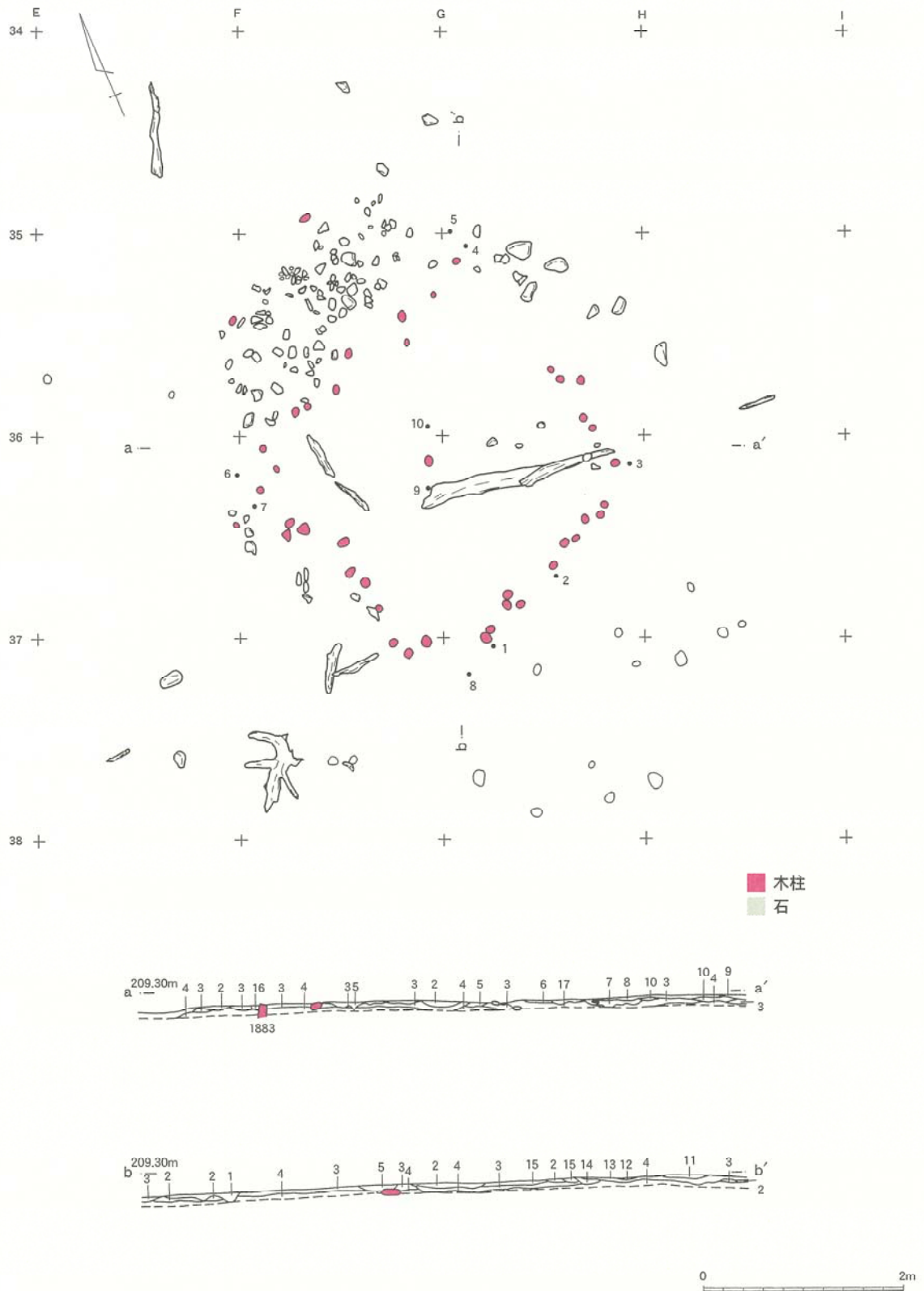
## 16号住居跡土層注記

1	10YR2/1	黒色土	硬質	2～3mm大の風化礫の白色粒子を多量に含む。炭化物を少量含み、上部には黒色土が混じる。繊維も含む
2	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	礫を少量含み、3～5mm大の炭化物を多量に含む。下部では1～2cm大の灰白色粘土ブロックを多く含み、繊維の混入も多い
3	10YR2/3	黒褐色土	軟質	繊維をかなり多量に含む。炭化物・砂・部分的に粘土も含む
4	10YR2/3	黒褐色土	軟質	繊維を多量に含む。所々に粘土を含む。3に比し、炭化物の混入が少ない
5	10YR2/1	黒色土	やや軟質	5mm～2cm大の礫(表面は暗褐色、内面は白色)を多量に含む黒色土。炭化物も少量含む
6	10YR2/1	黒色土	やや硬質	微砂質粘土を有する。炭化物を含み、礫も少量含む
7	2.5Y 5/3	黄褐色土	やや硬質	微砂質性の粘土からなる土で、部分的に白色粒子が混入した灰黄褐色土を含む
8	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	砂を多く含み、粘土を多少含む。繊維の混入が多い
9	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	少量の砂混じり粘土ブロックを多少含む。炭化物・白色粒子を少量含む
10	10YR5/1	褐灰色土	軟質	褐灰色の粘土からなる層で、繊維質を多く含む。下部に黒褐色の土が混入し、炭化物を少量含む
11	10YR2/3	黒褐色土	砂質	繊維質・砂を多量に含む。礫を多少含み、上部には炭化物を少量含む
12	10YR2/1	黒色土	やや硬質	粘性を有し、2mm大の炭化物を多く含む。1に比し、混入物の密度はかなり薄い
13	10YR2/3	黒褐色土	軟質	繊維質を多量に含む。大粒の炭化物・木を含む。粘性を有し、遺物の包含が認められる
14	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	5mm大の炭化物・砂を含む。稀に風化礫も含む
15	10YR3/1	黒褐色土	硬質	砂・粘土を多く含み、下部に炭化物を多少含む。砂質性の粘土で、繊維質が多い
16	10YR3/2	黒褐色土	軟質	繊維を多く含み、砂・炭化物を含むが14より少ない。粘性を有する
17	10YR4/2	灰黄褐色土	軟質	繊維質を含む。部分的に暗褐色(10YR3/3)を呈する。基本層序X層に相当か
18	10YR2/2	黒褐色土	硬質	粘土を含み、風化礫の混入は少ない
19	10YR2/1	黒色土	硬質	白色粒子・粘土粒子・炭化物を多量に含む。1に比し粒子は微細だが、部分的に大粒の風化礫を含む
20	10YR2/1	黒色土	やや硬質	炭化物を多く含む。風化礫とその破損と思われる白色粒子も少々含む
21	10YR2/1	黒褐色土	やや軟質	粘土ブロックの量が多いが、ブロックは小さく密度も薄い。大粒の炭化物を多く含む
22	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	粘土を少量含む。21に比し、混入物の密度は薄く、粒子も細かい
23	10YR1.7/1	黒色土	やや軟質	3mm大の炭化物を多量に含む。繊維質と少量の粘土粒を含む
24	10YR2/2	黒褐色土	軟質	やや黒みを帯び、まばらに炭化物を有する。繊維質を多く含む
25	10YR2/1	黒色土	軟質	24より大粒の炭化物を多量に有し、色調は黒い。繊維質も多く含む
26	10YR3/2	黒褐色土	やや軟質	繊維質を多量に含む。粘土ブロック・3mm大の炭化物・白色礫を少量含む。やや色調が明るい
27	10YR2/1	黒色土	軟質	灰黄色の粘土が混入し、炭化物・砂を少量含む。粘性はあまりない
28	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	粘土ブロックを多少含む。炭化物を多量に含む
29	10YR3/2	黒褐色土	軟質	繊維を多量に含む。粘性に欠ける。微砂を若干含む。遺物を包含し、部分的に炭化物・風化礫も含む
30	10YR1.7/1	黒色土	軟質	29と同様に繊維質を多量に含む。炭化物の混入が多いためかなり黒っぽく、粘性に欠ける。一部に粘土を含む
31	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	西側は炭化物を多く含み、東側は粘土ブロックの混入が多い
32	10YR2/1	黒色土	やや軟質	繊維質と炭化物を多量に含む。粘性は少ない
33	10YR2/2	黒褐色土	軟質	炭化物を少量含む
34	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	繊維質を多く含み、砂・礫・炭化物を含む。粘性は少ない
35	10YR1.7/1	黒色土	軟質	繊維質を多量に含む。砂を少量含む。炭化質の層で、粘性はない
36	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	繊維を多く含み、炭化物を多少含む。粘性が少ない
37	10YR3/1	黒褐色土	軟質	細かい白色粒子を多量に含む。炭化物も少量含む
38	10YR2/2	黒褐色土	軟質	繊維を多く含み、礫を多少含む
39	10YR2/3	黒褐色土	やや硬質	繊維が多く、一部に炭化物を有する所もある。基本層序VIII層に相当か
40	10YR3/2	黒褐色土	軟質	繊維を多量に含む。希薄だが粘土を少量含む
41	10YR3/2	黒褐色土	軟質	繊維・炭化物を多量に含む。希薄だが粘土を少量含む
42	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	炭化物を多量に含む。礫を多少含む。繊維の混入が多い
43	10YR3/3	暗褐色土	やや硬質	下部に炭化物を含む。基本層序VIII層に相当か
44	10YR1.7/1	黒色土	軟質	炭化物を少量含み、黒色を帯びる。風化礫の白色粒子も含む
45	10YR1/3	黒褐色土	やや軟質	混入物はほとんどなく、粘土ブロックを含むが、形状がはっきりしない
46	10YR2/1	黒色土	やや軟質	礫を少量含み、炭化物を多量に含む。52に似るが、混入物の密度はやや薄い
47	10YR3/1	黒褐色土	軟質	炭化物を多少含み、粘性を有する
48	10YR1.7/1	黒色土	軟質	炭化層。柱痕の腐食部にあたる
49	10YR2/1	黒色土	やや軟質	少量の炭化物・粘土粒子を含む
50	10YR2/1	黒色土	やや軟質	14に似るが、やや炭化物の量が多い
51	10YR3/1	黒褐色土	やや硬質	細かい白色粒子を多量に含む。炭化物を少量含む
52	10YR2/1	黒色土	軟質	マウンドの裾で観察される薄い帯状の層。繊維質を多く含み、微量の炭化物を含む

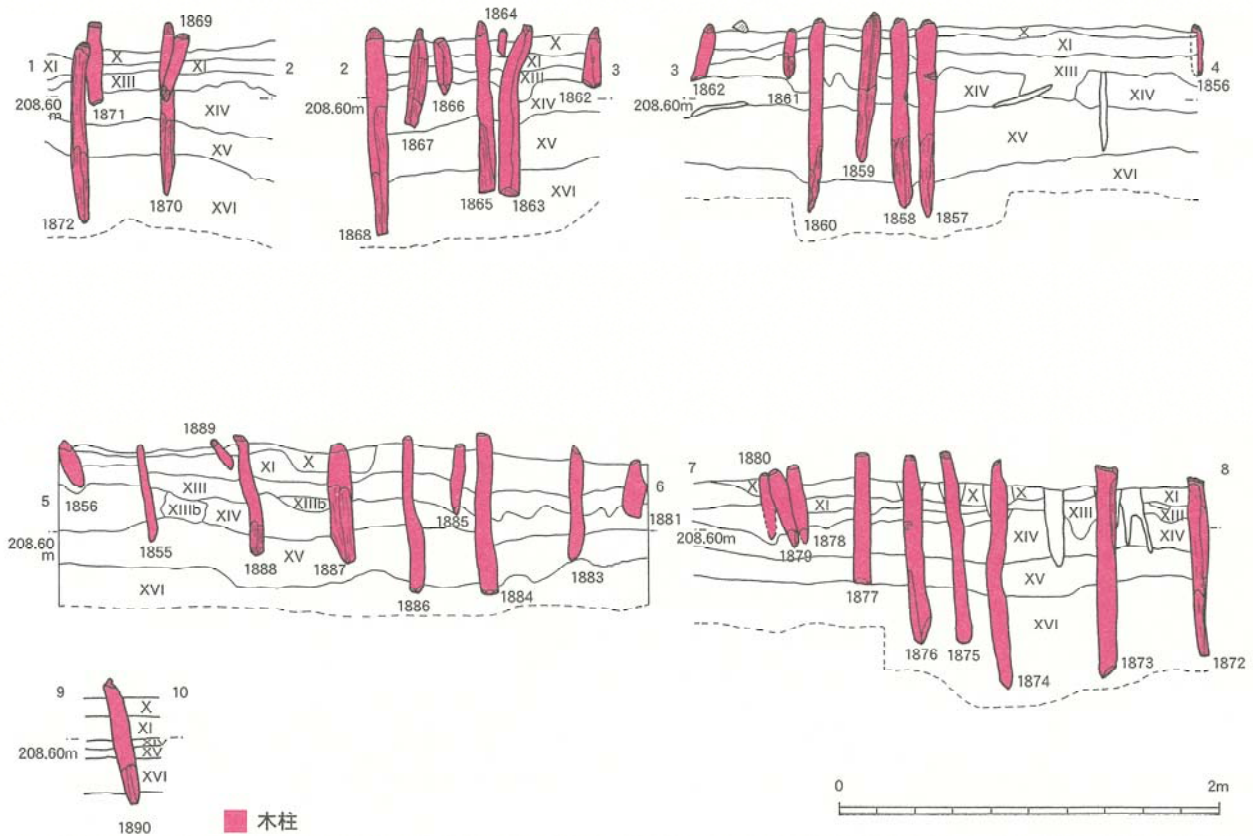
第30図 16号住居跡(2)

## ST29 (第44・113・145・147図、図版41・42)

調査回数	第3次調査
検出位置	調査区南端部
検出グリッド	R-55・56、S-55・56、T-55・56グリッド
形状	調査区南壁面にあたり、一部のみの検出のため形状不明
マウンドの有無	なし



第31図 17号住居跡(1)平面図・断面図



17号住居跡土層注記

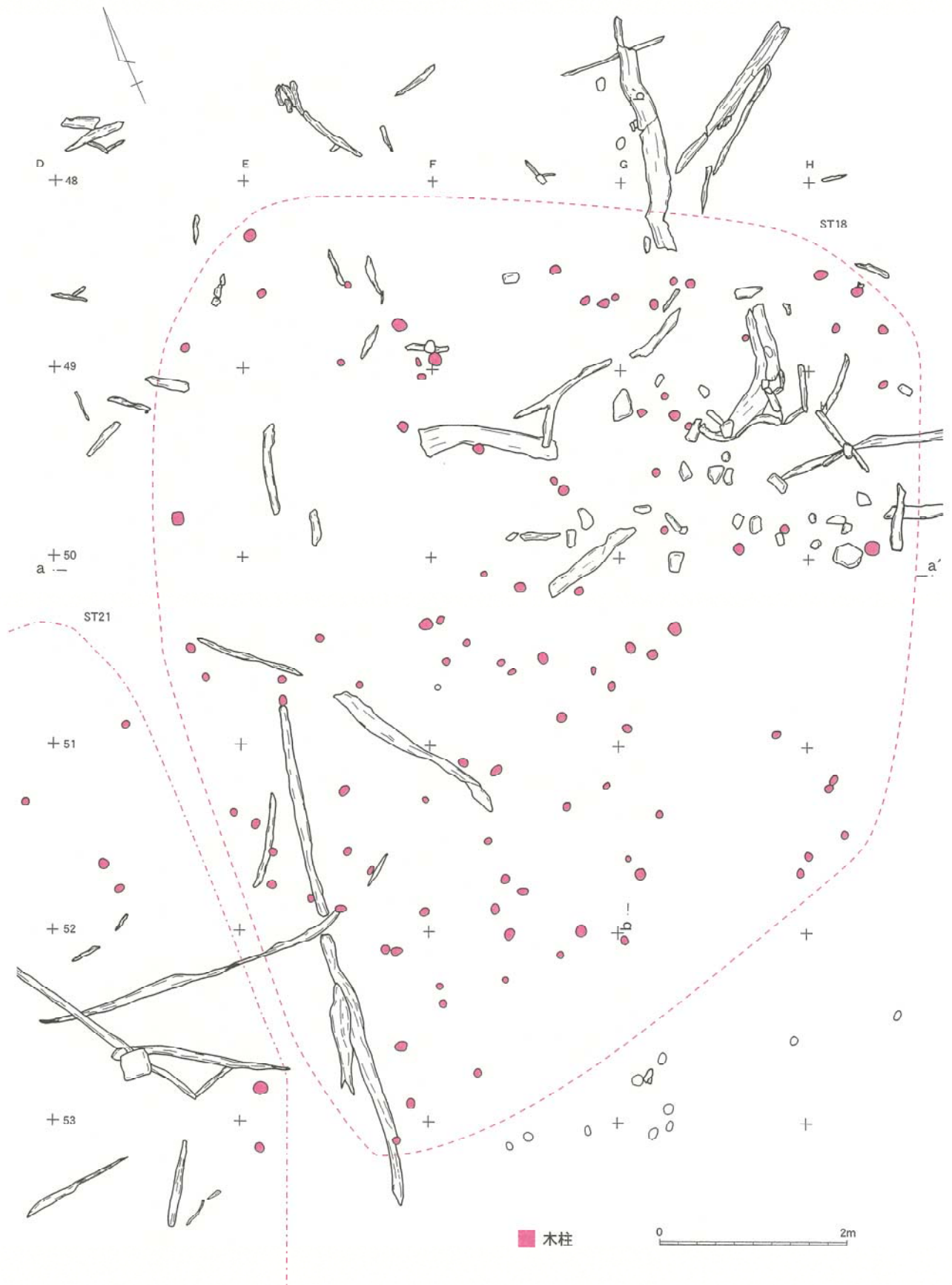
1	10YR2/2	黒褐色土	粘質	5mm~1cm大の炭化物を多量に含む。繊維質を少量含む。木を若干含む
2	10YR3/1	黒褐色土	粘質	炭化物を多く含む。1に比し、やや灰色を帯びる。1よりも密度が希薄である
3	10YR2/3	黒褐色土	粘質	粘性に富む。繊維質を含む。上部に微量の炭化物が含まれる
4	2.5Y4/1	黄灰色土	粘質	XI層が近いいためか、灰色が増している。基本層序X層に相当か
5	10YR3/1	黒褐色土	砂質	黒褐色土に多量の砂が混入し、炭化物・小礫も少々含まれる
6	10YR3/1	黒褐色土	軟質	炭化物、礫を多く含む。部分的に砂も含まれる
7	10YR2/2	黒褐色土	粘質	東側の層に似る。白色の骨片の密度が濃く、大きい
8	10YR2/2	黒褐色土	軟質	炭化物が少々含まれる
9	10YR1.7/1	黒褐色土	軟質	繊維のほか混入物は認められない。VII層の残存と思われる
10	10YR2/1	黒色土	軟質	繊維を多く含む、削った面が荒い。他の混入物は認められない
11	10YR1.7/1	黒褐色土	やや硬質	炭化物が混じる。繊維多い
12	10YR1.7/1	黒褐色土	やや硬質	下層に灰白色の粘土が混入する
13	10YR2/1	黒褐色土	軟質	2~5mm大の炭化物を多量に含む、白色の微細粒子(粘土及び礫)を含む。繊維の混入も多い
14	10YR2/2	黒褐色土	粘質	炭化物・微細な礫(白色粒子)を含む
15	10YR3/1	黒褐色土	粘質	上部に炭化物・微細な礫を含む。多量の繊維が含まれる
16	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	砂質	砂からなり、炭化物(特にクリ)・粘土を多く混入する。柱の抜き跡か
17	10YR2/3	黒褐色土	粘質	5に比し、砂・炭化物とも密度が薄い

第32図 17号住居跡(2)木柱断面図

**特記事項** おそらく楕円形を呈するものと考えられるが、住居跡の南側は調査区外となっているため、全体形は不明である。木の腐食を含む粘土層が下層を占める。周囲には炭化物・繊維も多く含まれている。

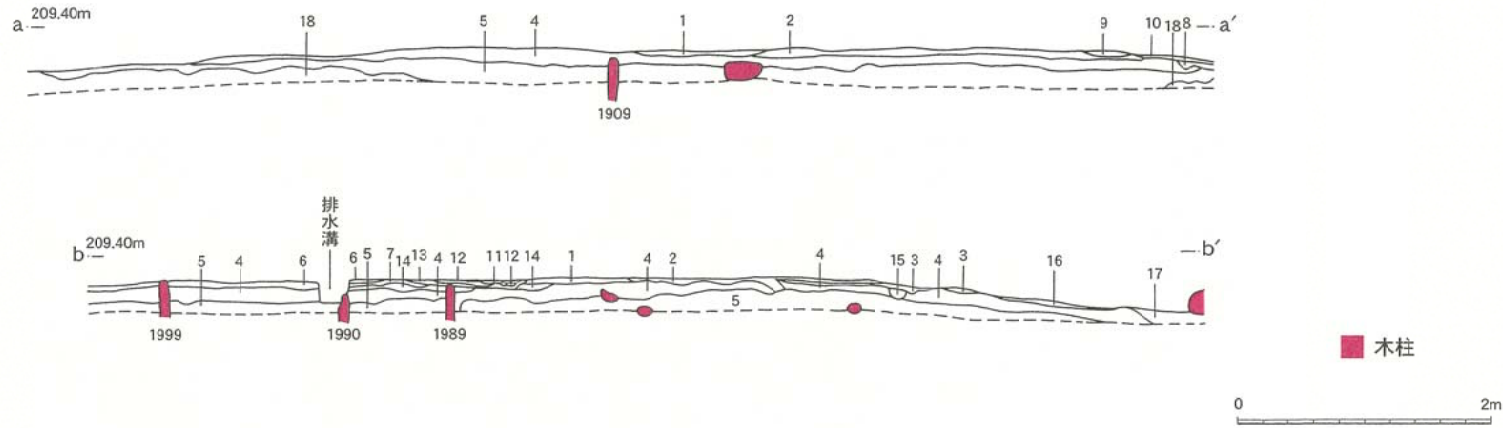
**出土遺物** 土器は深鉢、小形土器、彩文土器、赤漆塗彩文土器、土器片が出土した。石器はスクレイパー、筥状石器、石錐、磨石、凹石、異形石器などが出土した。





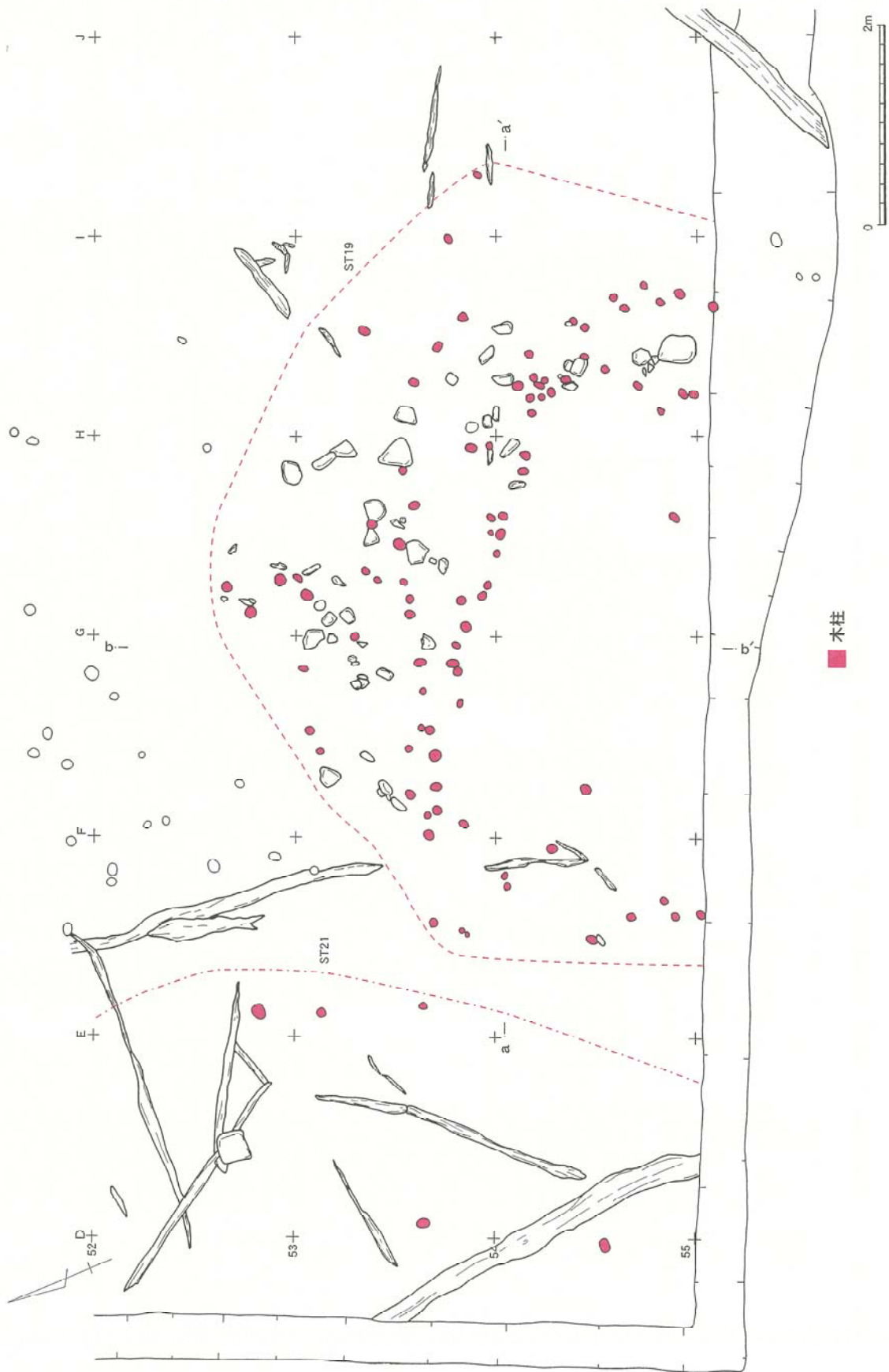
第33図 18号住居跡(1)平面図

第34図 18号住居跡(2)断面図

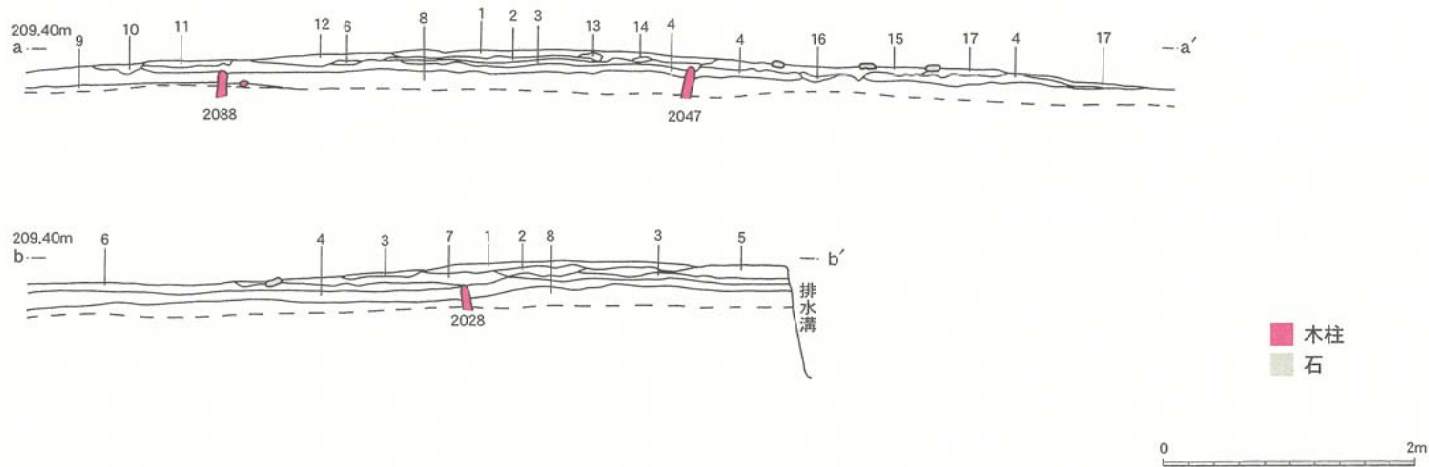


18号住居跡土層注記

1	10YR2/1	黒色土	粘土質	あまりしまりがなく、粘性を有する。繊維質を多く含み、粘土粒子・炭化物を含む
2	10YR3/1	黒褐色土	砂質	砂・炭を多量に含み、白色粒子・繊維質も含む。しまりを有する
3	10YR3/2	黒褐色土	微砂質	2に比し色調がやや明るく、砂の包含量が少ない。繊維質・3mm大の炭化物を含む。あまりしまりが無い
4	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	しまりに欠けるが粘性を有する。繊維質を含み、部分的に炭化物を含む
5	10YR2/3	黒褐色土	粘土質	4に比し色調が暗い。しまりがなく、繊維質を多く含む。基本層序のX層に相当
6	10YR2/2	黒褐色土	微砂質	住居間の鞍部に存する上層で、繊維質以外ほとんど混入物を含まず、しまりがある
7	10YR2/1	黒色土	微砂質	粘土粒子・炭化物を混入し、少量の土器を含む。しまりがあり、繊維質が多い
8	10YR2/2	黒褐色土	微砂質	マウンド周辺に見られる黒褐色の土で、軟質で繊維を含む
9	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	堅くしまっている。乾きが速く、白っぽくなる。繊維質を多量に含み、細かい砂も含む
10	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	4に色調が似る。繊維質を多く含む
11	10YR2/1	黒色土	粘土質	1に類似。やや明るい
12	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	混入物は繊維を除いて少なく、比較的軟らかい
13	10YR2/1	黒色土	粘土質	軟質で、暗褐色の土の間に細く存在する。繊維を含み、炭化物を少量含む
14	10YR4/2	灰黄褐色土	微砂質	やや軟質で、繊維を多く含み、炭化物を少々含むところもある。一部黒色土も混入する
15	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	4に似るが、この層にだけ炭化物が多く含まれる
16	10YR2/3	暗褐色土	粘土質	3に比し色調はやや明るい。砂はほとんど含まず、繊維を含む
17	10YR2/2	黒褐色土	微砂質	しまりがなく、繊維質を多く含む
18	10YR4/2	灰黄褐色土	粘土質	繊維質を含み、炭化物を若干含む。XI層への漸移的な層か

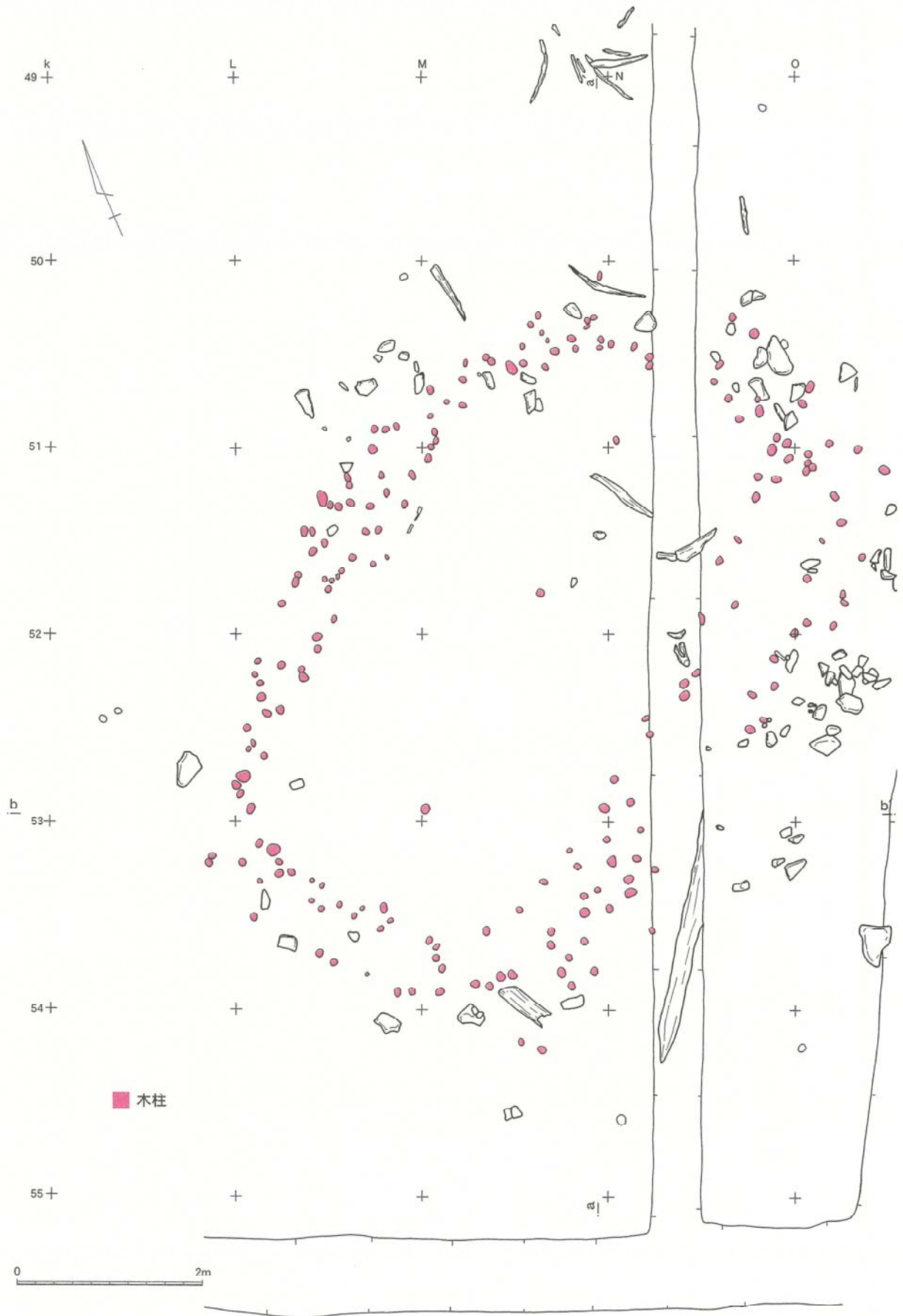


第35図 19・21号住居跡(1)平面図

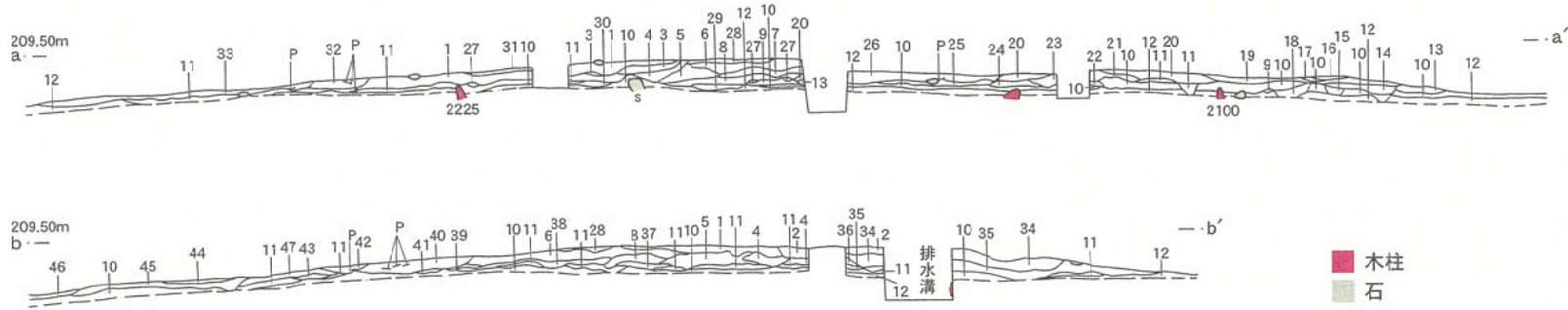


19号住居跡土層注記

1	10YR7/1	灰白色土	粘土質	しまっている。黒褐色土の粘土小ブロックを多量に含む。また少量の炭化物、繊維質も含む
2	10YR5/1	褐灰色土	粘土質	1に比し、硬さは劣るがしまっている。5mm程の粘土粒子を含む。繊維質・炭化物の混入は1より多い。粘土の混入が多いため、全体的に白色化している
3	10YR2/2	黒褐色土	粘土質	2よりやや硬さは劣るものしまっている。上層に比し粘土混入が減り、黒色を帯びる。3~4mm大の炭化物・粘土粒子を多く含み、繊維質も多く含まれる
4	10YR3/3	暗褐色土	粘土質	住居覆土と、X層との漸移的層と思われる。繊維質を多く含み、粘性がある
5	10YR2/1	黒色土	粘土質	2~6cm大の粘土ブロックを所々に有し、5mm~1cm大の炭化物を多く含む
6	10YR3/2	黒褐色土	粘土質	4と住居覆土の間に存する。炭化物を少々含み、土器も少量出土する。色調は下層よりやや暗い。部分的に粘土を含む
7	10YR2/1	黒色土	粘土質	3~5mm大の炭化物の密度が濃く、粘土・風化礫・繊維質を含む。住居周辺部では風化礫・粘土粒子の混入の割合が増す
8	10YR3/4	暗褐色土	粘土質	粘性が強い。繊維質を多く含む。基本層序X層に相当すると思われるが、粘性は劣る。遺物の包含はない
9	10YR6/1	灰色土	粘土質	基本層序X I層に対比される。西側で青みを帯びる
10	10YR2/2	黒褐色土	粘土質	11に似るが、黒色を帯びている
11	10YR3/2	黒褐色土	粘土質	上面に炭化物と繊維を含む。住居外にこの層と類似の土が見られる
12	10YR3/2	黒褐色土	粘土質	2~5mm大の炭化物を多量に含み、繊維質・2mm大の粘土粒子も含む。しまりがある
13	10YR7/1	灰白色土	粘土質	粘土ブロック
14	10YR7/1	灰白色土	粘土質	粘土ブロック。13に比し微砂質土を若干含む
15	10YR3/1	黒褐色土	粘土質	炭化物の混入がほとんどなく、繊維質・粘土粒子を含む
16	10YR2/1	黒色土	軟質	柱痕上部痕跡で、炭化物を多量に含み、繊維質も含む
17	10YR3/1	黒褐色土	軟質	繊維質を多量に含み、風化礫・粘土粒子を少量含む。部分的に1cm大の炭化物が混入する

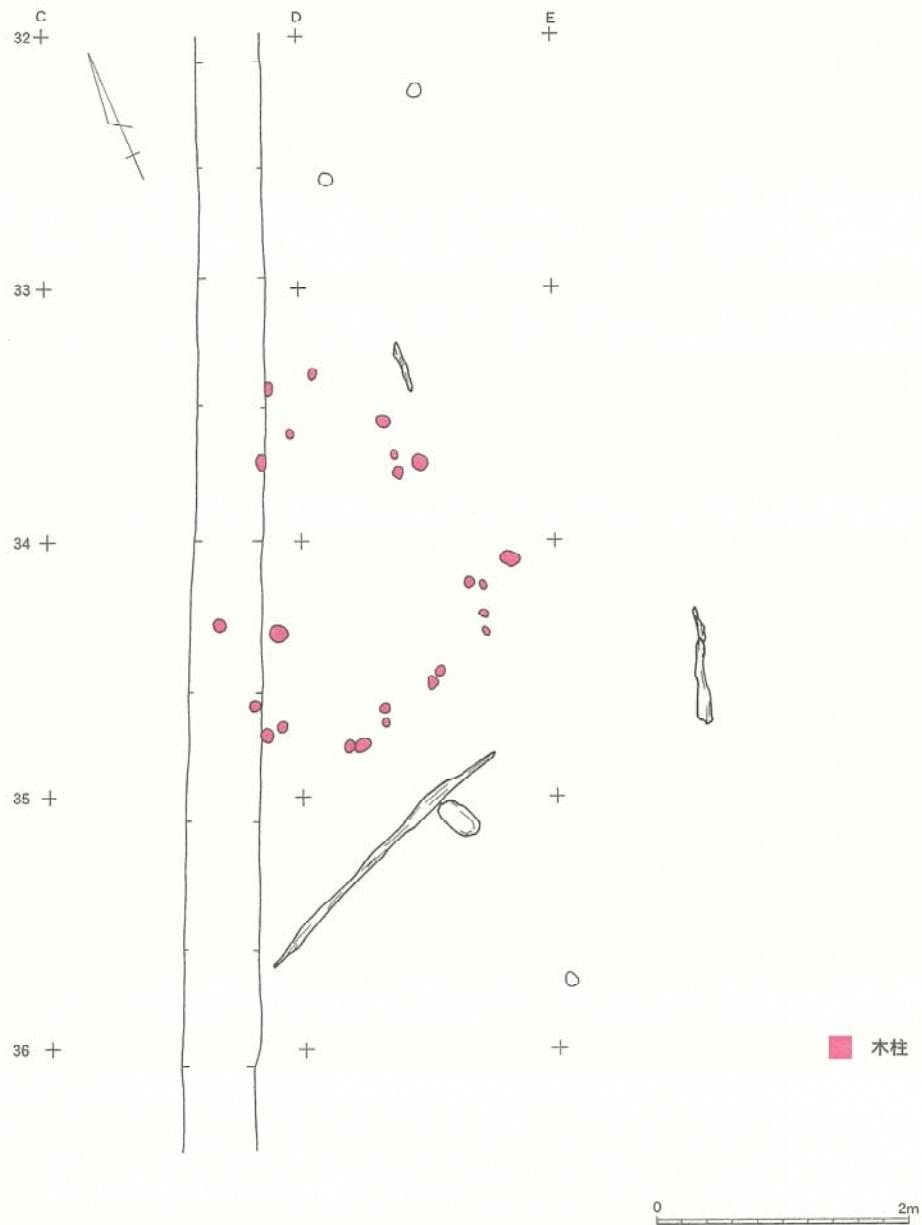


第37図 20号住居跡(1)平面図



20号住居跡土層注記

1	10YR2/1	黒色土	硬質	5mm大の風化礫を多く含む。繊維を含み、部分的に炭化物・粘土・砂を少量含む
2	10YR1.7/1	黒色土	硬質	混入物は1に似るが、色調はやや黒味を帯びる
3	10YR2/1	黒色土	硬質	礫の混入が少なく、1に比し繊維質・砂の混入が多い。下部に炭化物を含む
4	5Y7/1	灰白色土	硬質	礫を含む黒色土の間層でレンズ状に存在する。灰を含む可能性が考えられる。繊維を少量含む、周辺部が橙色を帯びる。粘質はなく、他の混入物(炭等)も認められない
5	10YR2/1	黒色土	硬質	1~5mm大の風化礫をきわめて多量に含む。部分的に1cm程の炭化物を含む。繊維の混入も認められる。6に類似する
6	10YR3/1	黒褐色土	硬質	5に比し礫の混入が減り、やや明るくなる。1~5mm大の風化礫を多く含む、下部に炭化物が少量認められる。繊維も含まれる
7	10YR3/1	黒褐色土	硬質	色調・しまりは6に似るが、礫の混入が少ない。2mm大の粒子が多くなる。炭化物・粘土の割合も増す
8	10YR3/1	黒褐色土	やや硬質	7に比し、やや軟らかい。粘土の混入が多く、礫の混入は少ない。繊維を含む部分は橙色を帯びる。炭化物は混入せず、粘土ブロックが散在する
9	10YR3/1	黒褐色土	やや硬質	8に似るが、2~3mm大の炭化物をやや多く含む
10	10YR2/3	黒褐色土	軟質	繊維を多く含む。炭化物をわずかに含む
11	10YR2/1	黒色土	軟質	繊維・炭化物を少量含む。また、白色粒子(風化礫粒子か)を含む
12	10YR3/3	暗褐色土	軟質	基本層序X層に相当すると思われる。繊維を多く含む、粘質を有する。炭化物・砂・礫等は含まない
13	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	3mm大の炭化物と礫を含む。マウンド最周辺部となる
14	10YR2/2	黒褐色土	軟質	大粒の礫をまばらに含む、炭化物を少量含む。繊維質の混入も多い
15	10YR2/3	黒褐色土	軟質	10に似るが、炭化物の混入が多い
16	10YR2/1	黒色土	やや軟質	17に比し、灰白色粘土を含む
17	10YR2/1	黒色土	やや軟質	微細な礫・炭を含む。19に比し、色調がやや黒い
18	10YR2/1	黒褐色土	軟質	少量の砂・炭・礫の粒子を含む
19	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	2mm大の炭化物を含むほかは繊維を除いて他の混入物は認められない
20	10YR4/1	褐灰色土	硬質	26に似る。灰白色粘土の混入が非常に多い
21	10YR4/2	灰黄褐色土	やや硬質	粘土を多量に含む。20に比し、炭化物を多く含む
22	10YR2/3	黒褐色土	硬質	3~5mm大の粘土粒子・礫を多く含む。繊維も多い
23	10YR2/3	黒褐色土	硬質	3~5mm大の粘土粒子・礫を多く含む。22に比し、繊維がやや多い
24	10YR2/1	黒色土	軟質	25に類似する。粘土の混入が少なく、代わりに炭化物が多く混入する。礫も含む
25	10YR2/1	黒色土	軟質	10と26の間層で、粘土・礫が混入する
26	10YR2/2	黒褐色土	軟質	灰白色の粘土を多量に含む。2~3mm大の炭化物・白色粒子もやや多く含む。繊維質も多量に含まれる
27	10YR2/1	黒色土	やや硬質	ブロック状に存し、繊維質をやや含む
28	10YR2/1	黒色土	硬質	6に比し、小さい礫を多く含む。粘土・炭化物を少量含む。繊維質も若干含む
29	10YR2/3	黒褐色土	軟質	10と似るが、炭化物をやや多く含む
30	10YR2/3	黒褐色土	軟質	10と似るが、炭化物・礫を多く含む
31	10YR2/1	黒色土	硬質	11に似るが、やや硬くしまっている。礫を多量に含む、全体的にバサついている。繊維質を多く含む
32	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	2mm以下の微細な礫を多く含む。繊維を多く含む
33	10YR2/1	黒色土	硬質	砂・繊維を少量含む。部分的に炭化物、風化礫を含む。マウンドをもつ他の住居跡周辺部で認められる土層と共通か
34	10YR3/2	黒褐色土	硬質	5mm大の風化礫を多量に含む。3mm大の炭化物を少量含む。礫の密度は1に似る
35	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	2mm大の炭化物を少量含む。層上部に礫を含む。10と34の間層
36	10YR2/2	黒褐色土	やや硬質	比較的粒子の小さい礫・炭化物を若干含む。粘性が強い
37	10YR2/3	黒褐色土	やや硬質	5mm大の礫を含み、2mm大の炭化物を少量含む。東側に礫が多い
38	10YR2/1	黒色土	やや硬質	炭化物を多く含む、礫の割合は低くなる。周囲の層に比し、黒色が強い
39	10YR2/2	黒褐色土	やや軟質	6に比し混入物が少なく、軟質化したものと思われる
40	10YR2/1	黒色土	硬質	2~5mm大の礫を多量に含む。層下部に2~5mm大の炭化物が集中する。6に似るが、炭化物の量が多い
41	10YR2/1	黒色土	やや軟質	礫の混入が少なく、炭化物がやや多い。40の軟化した層か
42	10YR2/1	黒色土	やや軟質	40に似るが、礫の粒子が小さくなり、炭化物も少ない
43	10YR3/2	黒褐色土	やや軟質	炭化物を少量含む、繊維の混入が多い。11に比し、やや色調が明るい
44	10YR3/1	黒褐色土	やや軟質	繊維質を含むが他の混入物は少なく、粘性が強い。住居跡のマウンド外の層と考えられる
45	10YR2/1	黒色土	軟質	繊維質を含むが他の混入物は少ない。住居跡のマウンド下に認められる層で、ST18・19でも同様な層が認められる
46	10YR1.7/1	黒色土	軟質	繊維以外の混入物は少ない
47	10YR2/2	黒褐色土	やや硬質	2~3mm大の礫を少量含む、炭化物も認められない

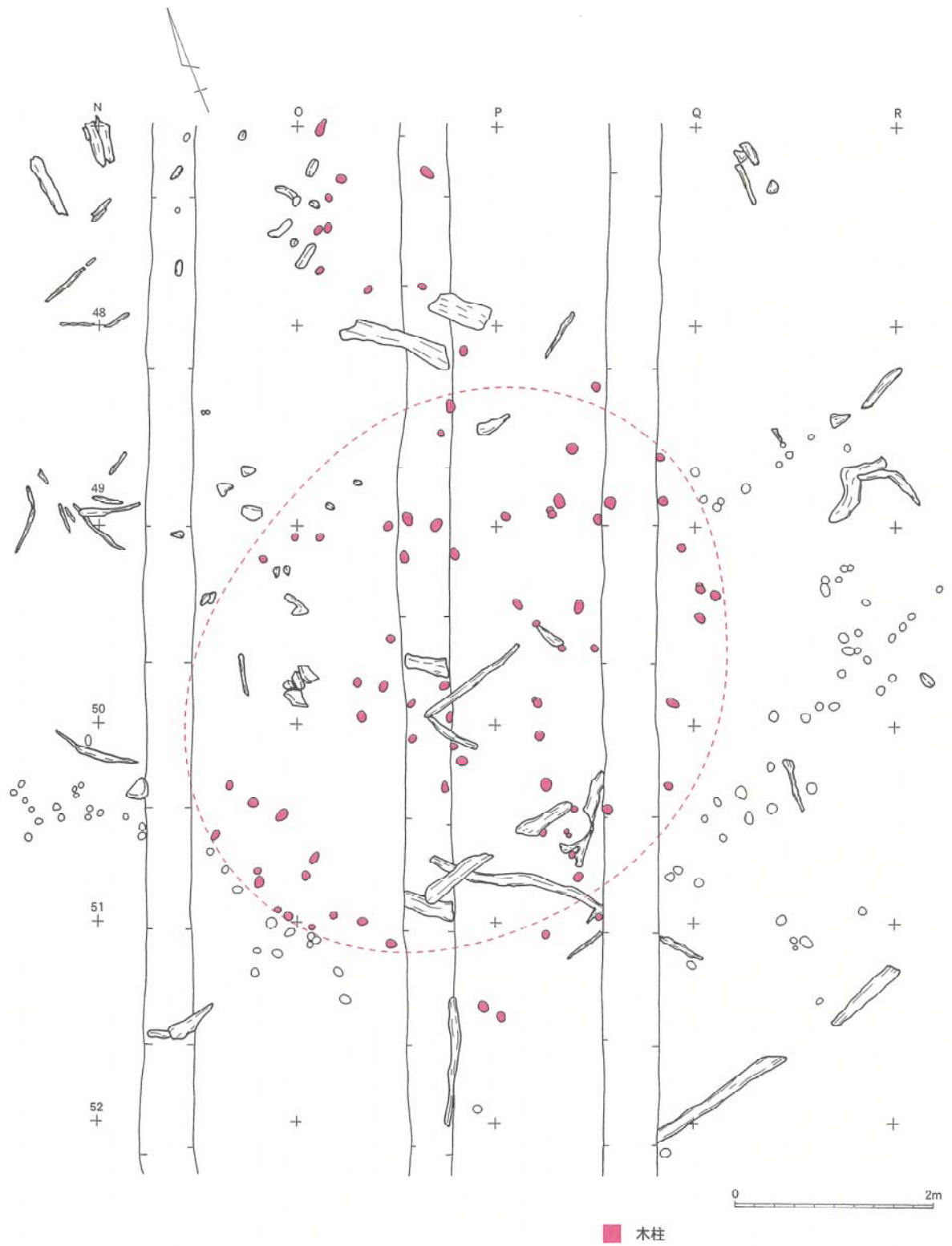


第39図 22号住居跡平面図



第40図 23・24号住居跡平面図





第41図 25号住居跡平面図

**ST30** (第46・114～117・134・143・250図、図版43・44・83・137・138)

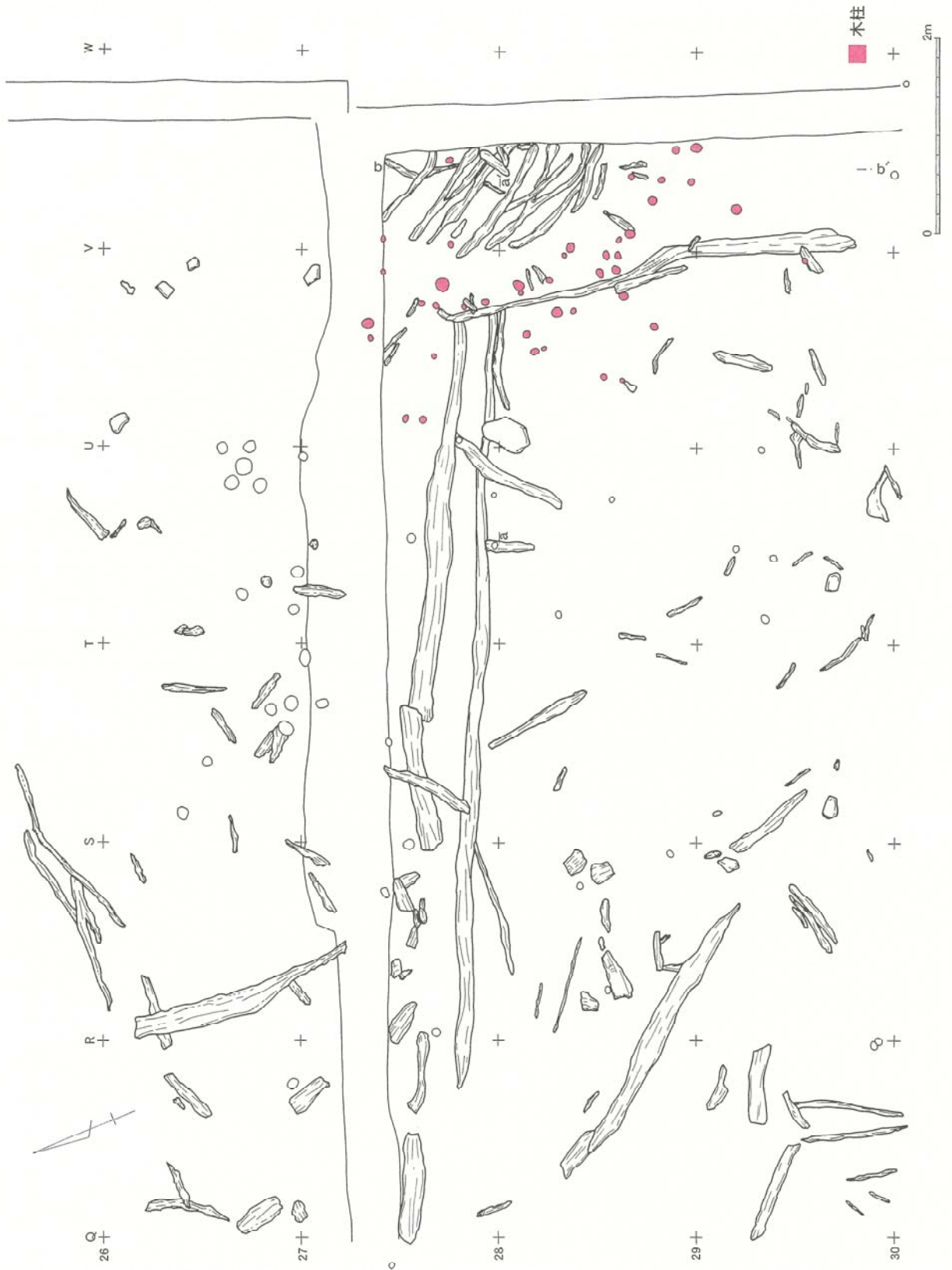
調査回数	第3次調査
検出位置	調査区中央部南東寄り
検出グリッド	S-39・40、T-39～41、U-39～41グリッド
形状	一辺約4.5mの隅丸方形
マウンドの有無	不明
特記事項	平面形は隅丸方形をなし、外周は2重から3重あるいはそれ以上の打ち込み柱から構成されている。直径は5～10cmの木柱である。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部には木柱はほとんど打ち込まれていない。上層部分には植物遺存体を多く含み、中間層には大量に炭化物を含む。また、クルミなどの自然遺物も含む。
出土遺物	土器は深鉢、漆付着土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石槍、石匙、三角スクレイパー、スクレイパー、石錐、凹石、砥石、異形石器などが出土した。自然遺物として帆立貝の化石が出土した。その他、土製品が出土した。

**ST31** (第47・48・118～122・129・130・134・143・234・251図、図版45～47・84・132)

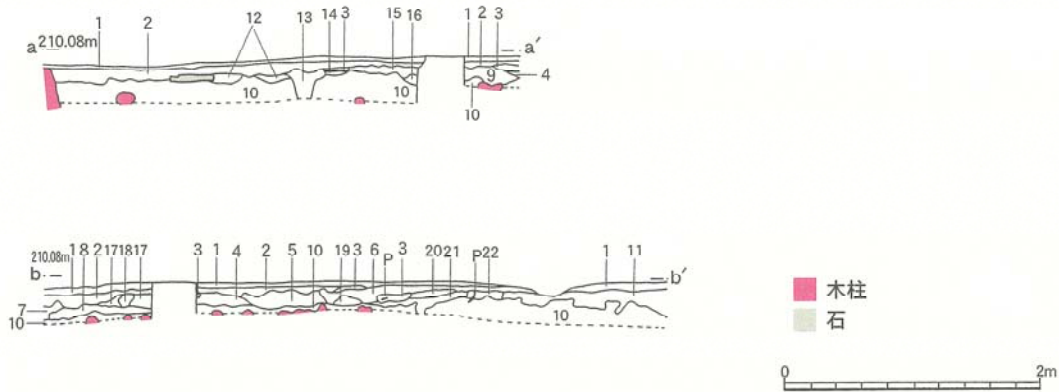
調査回数	第3次調査
検出位置	調査区中央部東寄り
検出グリッド	S-35～38、T-35～38、U-35～38、V-35～38グリッド
形状	長軸約7.2m×短軸約5.7mの楕円形
マウンドの有無	なし
特記事項	平面形は南北を軸とする楕円形をなし、外周は2重～3重の打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5～10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にもまばらではあるが木柱が打ち込まれている。このため、いくつかの住居跡が複合している可能性が高い。「転ばし根太」と思われる木柱の組み合わせがある。東西方向と南北方向に木柱を組み合わせたものであり、井桁状になる。周囲には炭化物を大量に含む層が見られ、クリ・クルミ等の自然遺物を大量に含む落ち込みも検出された。一部には焼土を含む層があった。木柱に近接して小形磨製石斧が出土している。また、玉砥石かと思われる筋砥石が出土している。
出土遺物	土器は深鉢、小形土器、漆付着土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石槍、石匙、三角スクレイパー、石錐、磨製石斧、磨石、凹石、石皿、砥石、異形石器、石製円盤、管玉などが出土した。

**ST32** (第49・50・123・124・129～132・134・232～235・252図、図版48～50・84・132・135)

調査回数	第3次調査
検出位置	調査区中央部やや南東寄り
検出グリッド	P-37～39、Q-36～39、R36～39グリッド



第42図 26号住居跡(1)平面図



## 26号住居跡土層注記

1	10YR2/1	黒色土	やや砂質	基本層序IX層に相当する。微砂が少量含まれるが、他の混入物は認められない
2	7.5YR2/1	黒色土	やや砂質	砂層に比し砂の包含は少なく、5mm大の炭化物を多く含む
3	10YR3/3	暗褐色土	砂質	砂層ブロック。特に砂の割合が高く、粘性はない
4	10YR2/2	黒褐色土	砂質	3に比し、黒色土の混入が増す。砂が多く、特に上部付近で顕著である。炭化物も含まれるが、周囲に比べ少ない
5	10YR2/1	黒色土	砂質	大粒の炭化物・小礫を含む。砂の混入量は4より少なく、2より多い
6	10YR1.7/1	黒色土	やや砂質	炭化物が非常に多い。砂の混入は、周囲の層に比べて少ない
7	5Y4/2	灰オリーブ土	粘土質	粘土層で、他の混入物は認められない。遺物もあまり認められない
8	5Y3/1	オリーブ黒土	粘土質	7に比し、黒みを帯びている。部分的に2mm大の炭化物を含む
9	10YR2/1	黒色土	やや砂質	砂はあまり混入せず、炭化物が少量含まれる
10	5Y3/1	オリーブ黒土	粘土質	基本層序X層に相当する
11	10YR2/3	黒褐色土	やや砂質	炭化物を多量に含む。遺物を包含する。砂を少々含み、2に類似する
12	10YR2/2	黒褐色土	粘土質	砂は含まず、炭化物を多く含む。小礫も含む
13	10YR2/2	黒褐色土	やや砂質	柱根の跡で腐食のため繊維質が非常に多い。炭化物・砂が少量含まれる
14	10YR1.7/1	黒色土	粘質	大粒の炭化物からなるブロック
15	10YR2/2	黒褐色土	砂質	4に相当。砂が多く含まれるが、3に劣る。また、炭化物も多く含まれる
16	10YR2/2	黒褐色土	粘質	粘質上で、炭化物を多量に含む。砂を少量含む
17	7.5YR3/2	黒褐色土	粘土質	炭化物・風化礫が混入する
18	10YR2/1	黒色土	粘土質	1cm大の炭化物を多く含む
19	10YR3/2	黒褐色土	砂質	砂を多量に含む。黒色土が若干混入する
20	10YR2/1	黒色土	砂質	砂の混入は6より多い。大粒の炭化物が多量に含まれる
21	10YR2/2	黒褐色土	やや砂質	砂の混入は非常に少なくなる。5mm大の炭化物を少量含み、礫を若干含む。柱根跡を含む可能性あり
22	7.5YR3/2	黒褐色土	砂質	周囲に比し、砂の混入が著しく、風化礫もみられる。マウンドの縁辺部か

第43図 26号住居跡(2)断面図

形 状 約4.7m×6.0mのほぼ長方形

マウンドの有無 なし

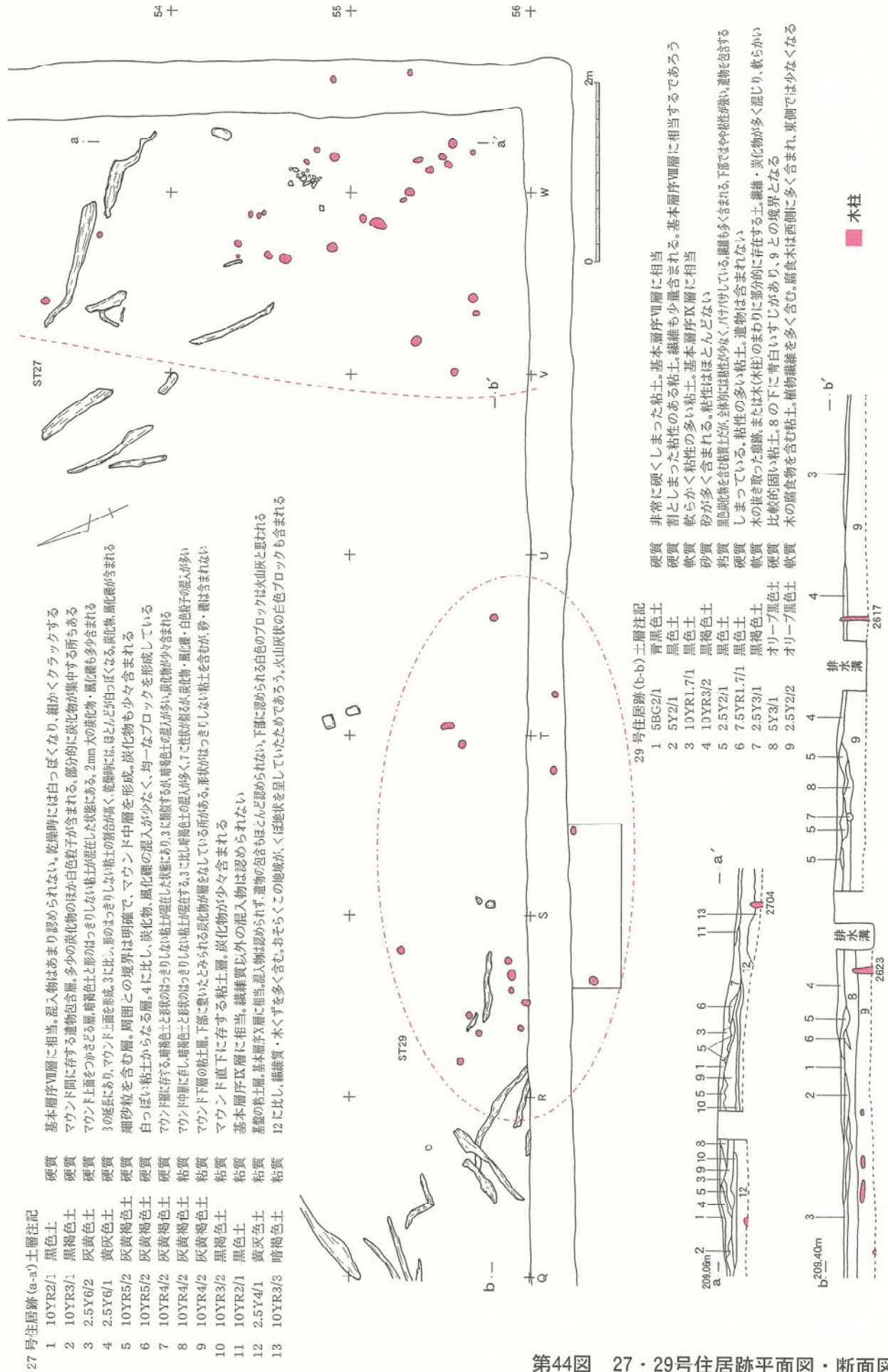
特 記 事 項 平面形はほぼ南北を長辺とする長方形をなし、外周は2重～3重の打ち込み柱から構成されている。直径5～10cmの木柱が一周する。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部には「転ばし根太」が検出された。周囲は全体的に粘土質で植物遺存体を多く含む。

出 土 遺 物 土器は深鉢、小形土器、土器片が出土した。石器は石鏃、三角スクレイパー、スクレイパー、石錐、磨石、凹石、異形石器などが出土した。

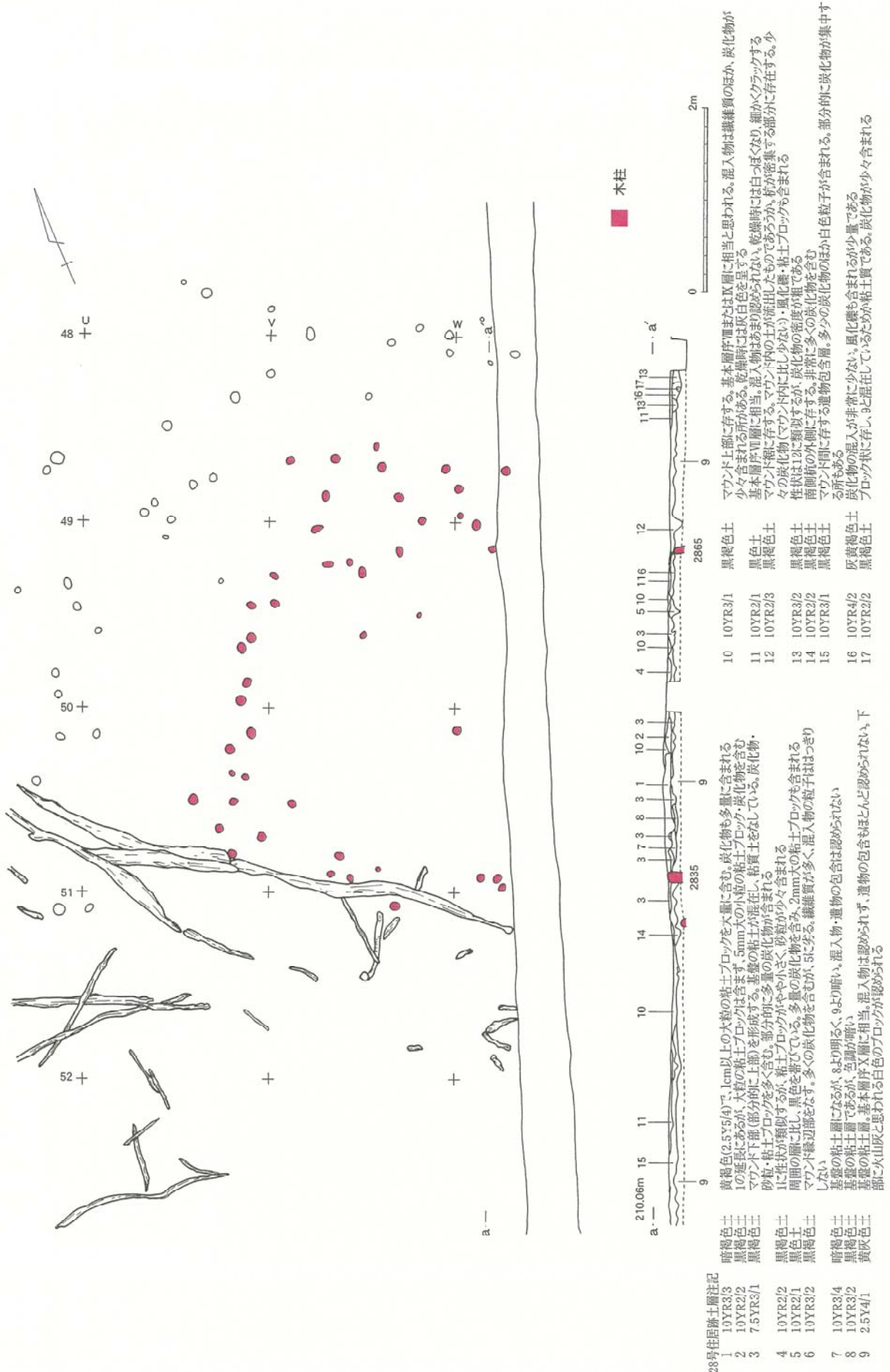
**ST33** (第51・124・131・253図、図版49・85)

調 査 次 数 第3次調査

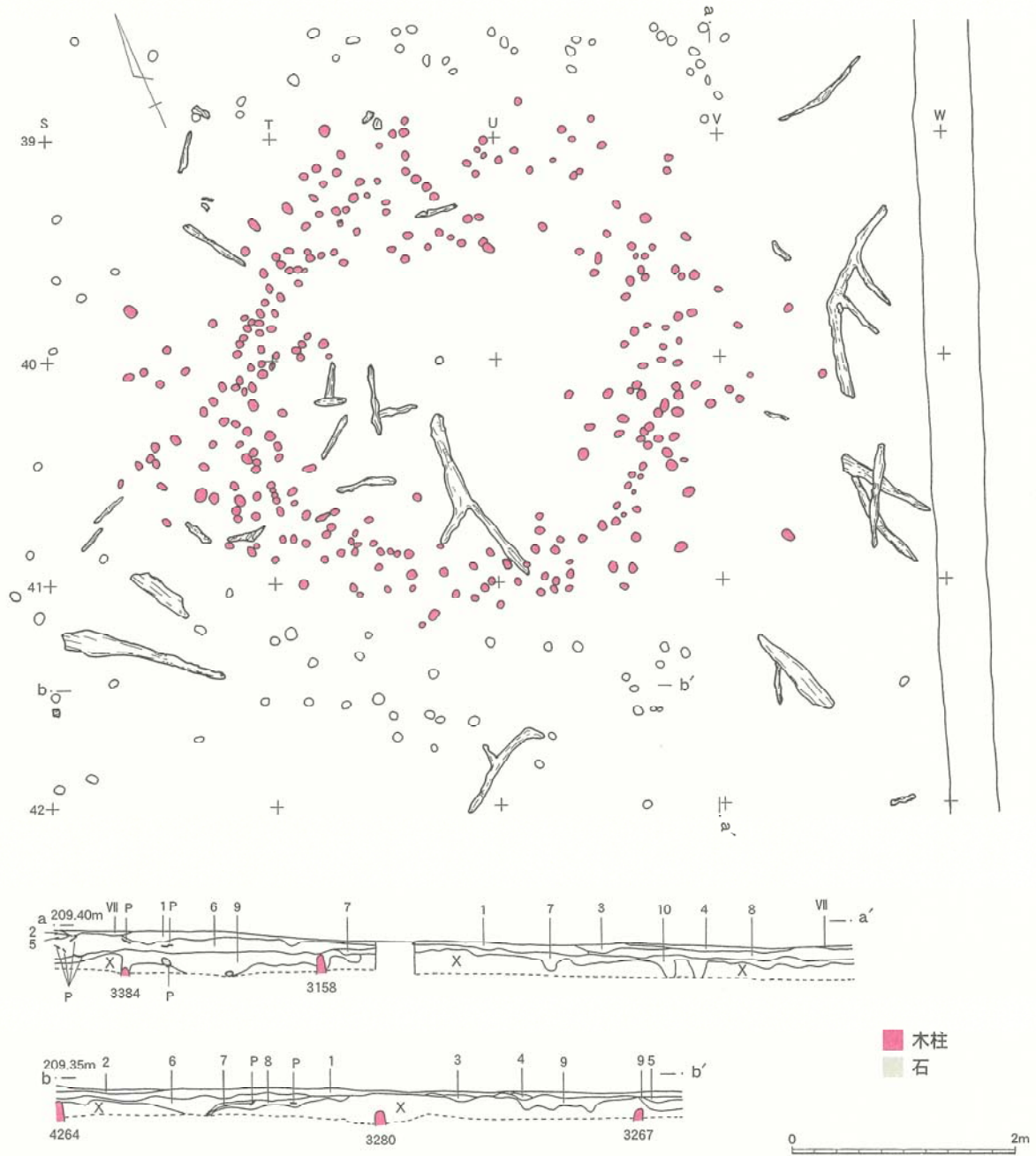
検 出 位 置 調査区中央部やや南東寄り



第44図 27・29号住居跡平面図・断面図



第45図 28号住居跡平面図・断面図



30号住居跡(a-a')土層注記

1	7.5YR2/1	黒色土	粘性強	少々の砂を含む。植物遺存体も多い
2	7.5YR3/2	黒褐色土	やや砂質	植物遺存体を多く含む。炭化物も少量含む
3	7.5YR2/3	極暗褐色土	粘性強	均質で、植物遺存体を多く含む。砂は含まない
4	10YR2/3	黒褐色土	粘性強	植物遺存体をやや多く含む。炭・砂はあまり含まない
5	10YR2/2	黒褐色土	粘性強	全体に砂を含む。5mm大の炭化物を大量に含む。1cm大の粘土ブロックを少量含む
6	7.5YR3/3	暗褐色土	砂質	5mm~1cm大の炭化物・1~2mm大の小礫を大量に含む
7	7.5YR3/1	黒褐色土	砂質	5mm大の炭化物・砂を多く含む。凝灰岩風化粒も多く含む
8	7.5YR3/2	黒褐色土	粘性強	植物遺存体を多く含む。砂は含まない。基本層序VIII層または窪地覆土か
9	7.5YR2/2	黒褐色土	粘性強	砂はあまり含まない。5mm~1cm大の炭化物を多く含む。植物遺存体も多い
10	7.5YR3/3	暗褐色土	粘質あり	大量の砂・炭化物・クルミ等の遺物を含む

30号住居跡(b-b')土層注記

1	10YR2/2	黒褐色土	粘性強	2~3mm大の炭化物・3mm大の凝灰岩風化粒を含む
2	5YR2/1	黒褐色土	粘性強	1~2mm大の炭化物をまばらに含む。砂はほとんど含まない
3	10YR3/3	黒褐色土	砂質	炭化物・凝灰岩風化粒を少量含む
4	10YR2/2	黒褐色土	粘性強	少量の炭化物を含む。比較的均質
5	7.5YR3/2	黒褐色土	粘性強	2mm大の炭化物を少量含む。植物遺存体をやや多く含む
6	7.5YR3/1	黒褐色土	砂質	5mm~1cm大の炭化物・2~3mm大の凝灰岩風化粒を含む。5cm大の粘土ブロックを部分的に含む
7	10YR2/2	黒褐色土	粘性強	砂はほとんど含まない
8	10YR3/2	黒褐色土	やや砂質	1cm大の炭化物を大量に含む。土器等の遺物を多く含む
9	10YR2/2	黒褐色土	砂質	1~2cm大の凝灰岩風化粒・5mm大の炭化物を大量に含む。遺物も多く含まれる

第46図 30号住居跡平面図・断面図

検出グリッド	P-40・41、Q-39~42、R39~41グリッド
形 状	直径約5.0mのほぼ円形
マウンドの有無	なし
特 記 事 項	平面形はほぼ円形をなし、外周は打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5~10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にもまばらではあるが木柱が打ち込まれている。住居跡南部分の3分の2以上がST38と重複している。植物遺存体を多く含む。他の住居跡に比べ炭化物は少ない。
出 土 遺 物	土器は小形土器、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石匙、スクレイパー、筥状石器、石錐、石皿などが出土した。

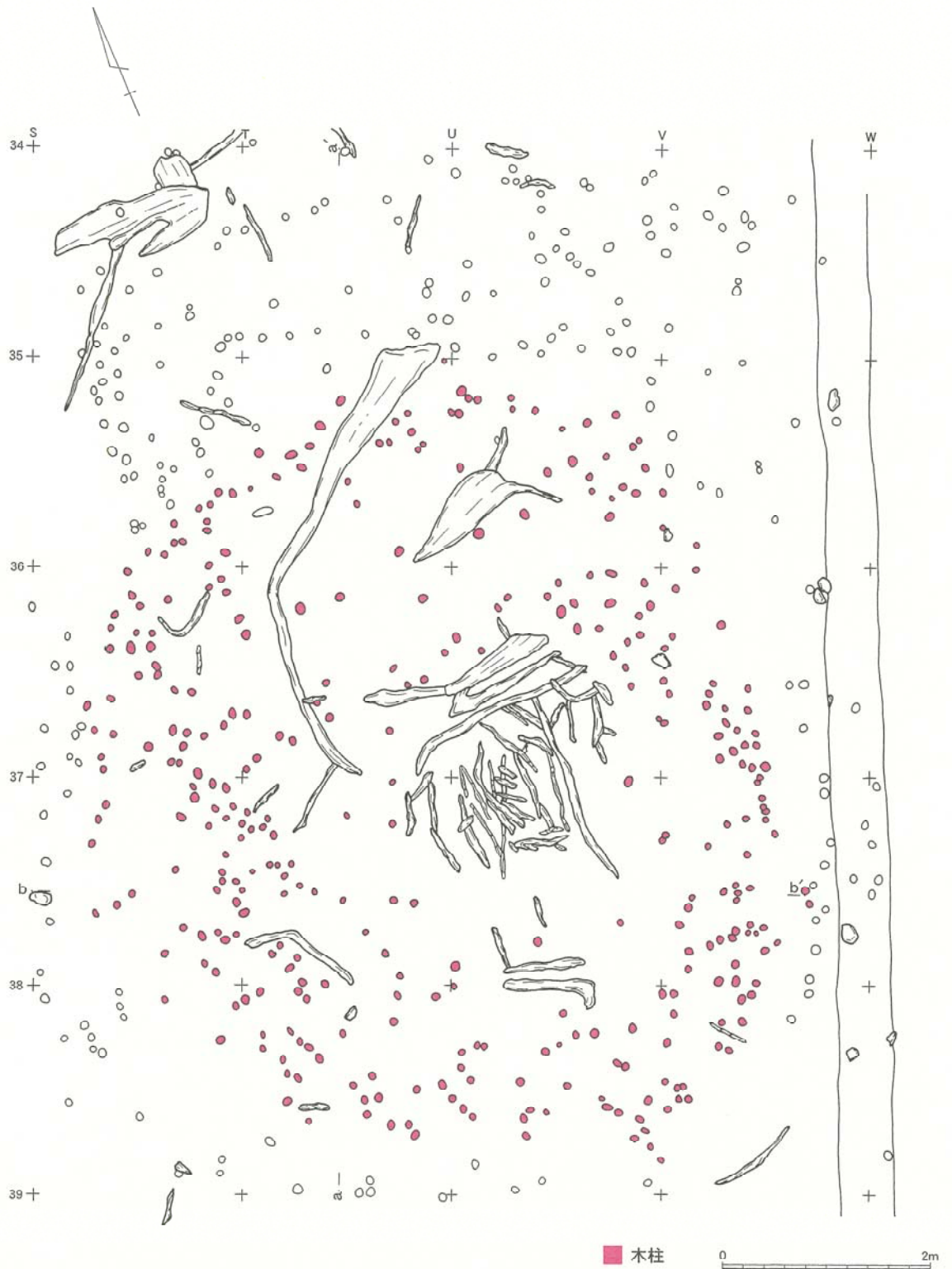
**ST34** (第52・125・129図、図版51~53・85)

調 査 次 数	第3次調査
検 出 位 置	調査区南東部
検出グリッド	P-50、Q-49~51、R-48・51、S-49~52、T-50・51 グリッド
形 状	長軸約6.5m×短軸約5.0mのほぼ楕円形
マウンドの有無	不明
特 記 事 項	平面形は南北を軸とするほぼ楕円形をなし、外周はまばらな打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5~10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にもまばらではあるが木柱が打ち込まれている。このため、いくつかの住居跡が複合している可能性が高い。覆土の上層に植物繊維、炭化物、遺物を含む。下層は硬くしまった粘土となっている。
出 土 遺 物	土器は小形土器、土器片が出土した。石器は三角スクレイパー、石錐、磨石などが出土した。その他、炭化物の編物片が出土した。

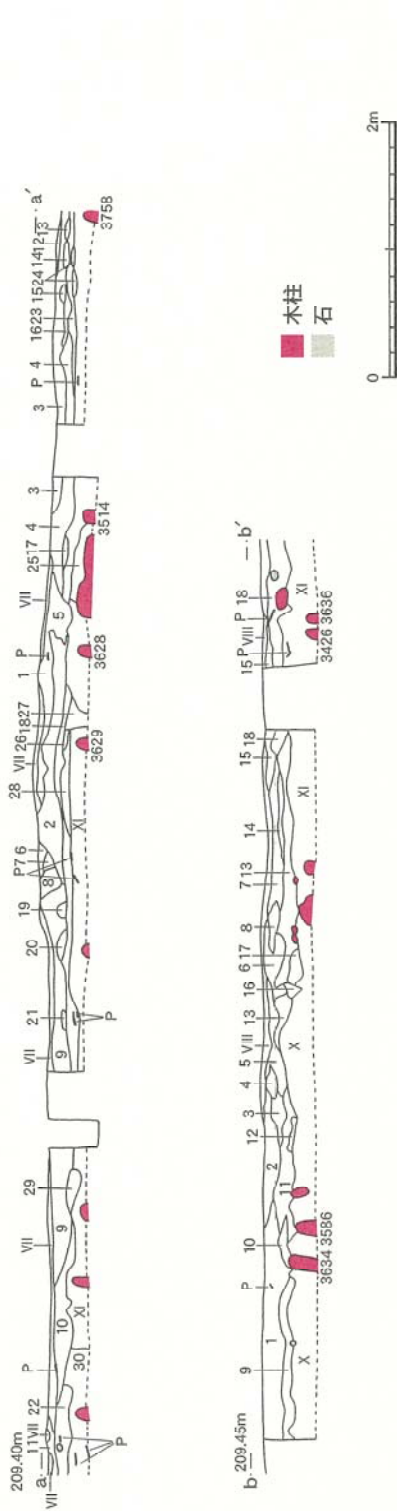
**ST35** (第52・125図、図版51・85)

調 査 次 数	第3次調査
検 出 位 置	調査区南東部
検出グリッド	P-48・49、Q-48~50、R48~50グリッド
形 状	長軸約4.5m×短軸約2.7mの楕円形
マウンドの有無	不明
特 記 事 項	平面形は南北を軸とする楕円形をなし、外周はまばらな打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5~10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にもまばらではあるが木柱が打ち込まれている。このため、いくつかの住居跡が複合している可能性が高い。覆土上層には植物繊維、炭化物、遺物を含み、下層は硬くしまった粘土である。
出 土 遺 物	土器は土器片が出土した。





第47図 31号住居跡(1)平面図

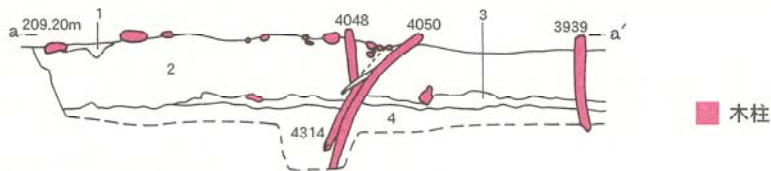


31 号住居跡(a-a')土層注記		31 号住居跡(b-b')土層注記	
1	10YR2/3 黒褐色土	1	5YR2/1 黒褐色土
2	10YR3/3 暗褐色土	2	10YR2/3 黒褐色土
3	10YR4/6 褐色土	3	2.5Y2/1 黒色土
4	7.5YR3/1 黒褐色土	4	2.5Y2/1 黒色土
5	2.5Y3/1 黒褐色土	5	10YR3/2 黒褐色土
6	10YR4/3 黄褐色土	6	10YR2/3 黒褐色土
7	10YR4/3 黄褐色土	7	10YR3/2 黒褐色土
8	2.5Y4/1 黄灰色土	8	10YR4/3 灰黄褐色土
9	10YR2/3 黒褐色土	9	5YR2/1 黒褐色土
10	10YR2/1 黒褐色土	10	7.5YR2/1 黒褐色土
11	10YR3/3 暗褐色土	11	10YR1.7/1 黒褐色土
12	10YR2/1 黒褐色土	12	10YR2/2 黒褐色土
13	2.5Y3/1 黒褐色土	13	10YR2/2 黒褐色土
14	10YR1.7/1 黒褐色土	14	10YR2/2 黒褐色土
15	10YR4/2 灰黄褐色土	15	10YR2/2 黒褐色土
16	10YR3/1 黒褐色土	16	10Y4/1 灰色土
17	10YR3/3 暗褐色土	17	10YR3/3 暗褐色土
18	10YR2/2 黒褐色土	18	10YR3/2 黒褐色土
19	2.5Y4/1 黄灰色土		
20	2.5Y4/3 黄褐色土		
21	10YR5/4 黄褐色土		
22	10YR2/3 黒褐色土		
23	10YR2/1 黒褐色土		
24	10YR3/1 黒褐色土		
25	2.5Y4/2 暗灰黄色土		
26	10YR3/1 黒褐色土		
27	10YR2/2 黒褐色土		
28	2.5Y3/2 黒褐色土		
29	10YR2/3 黒褐色土		
30	10YR3/2 黒褐色土		

全体に砂を含む, 2mm 大の凝灰岩風化粒を含む	粘性あり	植物繊維を少量含む, 1~2cm 大の凝灰岩ブロックを多くまばらに含む。基本層序 XI 層に似る灰色の 5cm 大の粘土ブロックも部分的に含む
5mm 大の炭化物をまばらに含む, 5mm~1cm 大の粘土小ブロックを含む	砂質	5mm 大の凝灰岩風化粒・5mm 大の炭化物を含む。全体的に砂も含む
粘土と思われ, 層の下部に大量の炭化物を含む, 砂も含む	やや砂質	砂を多く含む, 1mm 大の炭化物を含む
砂を比較的多く含む, 5mm 大の凝灰岩風化粒をまばらに含む	やや粘性あり	3 に比し, オリーブ褐色の砂を 2~5cm 大のブロックで含む
1cm 大の炭化物・5mm 大の凝灰岩風化粒を大量に含む, 砂も比較的多く含む	シルト質	オリーブ褐色の砂の量が多い
やや均質	粘性あり	オリーブ褐色の砂を大量に含む, 5mm~1cm 大の炭化物・黒色粘土も 1~2cm 大のブロックで含む
5mm 大の炭化物を含む, しまりあり	粘性強	砂質が中心だが, 上部と下部に部分的に粘土がブロックで入る
全体に砂をまばらに含む, 5mm 大の炭化物を大量に含む, 1mm 大の凝灰岩風化粒を多く含む	やや砂質	ブロックで存在する。砂質土だが, 粘土も含まれる
5mm 大の炭化物・砂を大量に含む, 1~5mm 大の凝灰岩風化粒を含む	粘性強	1~3cm 程の大粒の炭化物を含む
砂の上層に薄く堆積する	粘性あり	5mm~1cm 大の炭化物・砂を含む。有機質の繊維も未分解で含む
1~2mm 大の炭化物を大量に含む	粘性あり	やや多量の砂を含む。黒色粘土のブロックを含む
2mm 大の炭化物を含む, ブロックで入る	粘性強	黒色の炭化物層, 3cm 大の炭化物が薄くブロックで入ったもの
炭化層	粘性強	比較的均質である
1mm 大の炭化物をやや多く含む	粘性強	他の土質をあまり含まず, 粘土質で均質
炭化物を少量含む	粘性あり	1mm 大の炭化物を含む
砂を大量に含む	粘性強	均質, オリーブの砂のグライ化したものが
5mm 大の炭化物を少量含む	粘性強	クルミ・炭化物を大量に含む。全体に植物遺存体を多く含む
炭化物を少量含む, ブロックで入る	砂質	石英砂・砂を大量に含む, 1~5mm の厚さで, 粘土の縦線状の層が部分的に入る
砂・5mm 大の炭化物を少量含む	やや砂質	
砂・炭化物を多く含む	砂質	
砂・5mm 大の炭化物を大量含む	やや粘性あり	
1~2cm 大の炭化物を大量に含む	砂質	
1~3mm 大の炭化物を大量に含む	粘性強	
1~2cm 大の炭化物を含む, 比較的均質	粘性強	
5mm 大の炭化物を大量に含む	砂質	
5mm~2cm 大の炭化物を大量に含む	粘性強	
炭化物を部分的に縮状に含む, 粘土ブロックも少量含む	砂質	
5mm~1cm 大の炭化物・砂を少量含む, 植物遺存体を若干含む	粘性強	
植物遺存体を含む, クルミなどの自然遺物を大量に含む, 所からの落ち込みと考えられる	やや粘性あり	

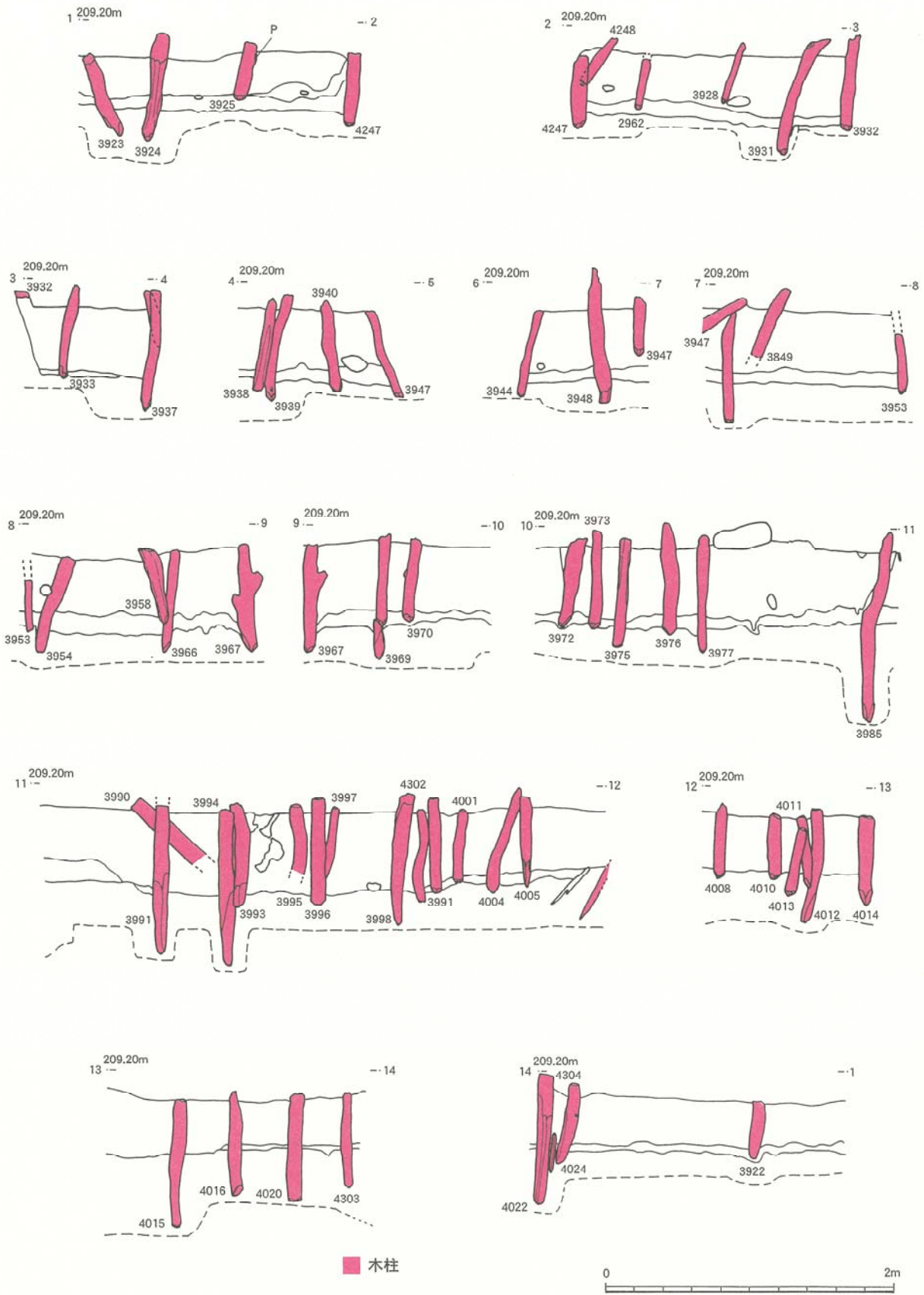
第48図 31号住居跡(2)断面図



32号住居跡土層注記

1	10YR2/1	黒色土	砂質	全体に砂を多く含む。柱の抜き取りあるいは小さい落ち込みと見られる。1mm大の炭化物を多量に含む
2	10YR3/2	黒褐色土	粘土質	粘土・植物遺存体を多く含む。マウンドの基盤層
3	10YR2/1	黒色土	粘土質	粘土層
4	2.5Y4/1	黄灰色土	粘質	粘性を有し、灰色を帯びる

第49図 32号住居跡(1)平面図・断面図



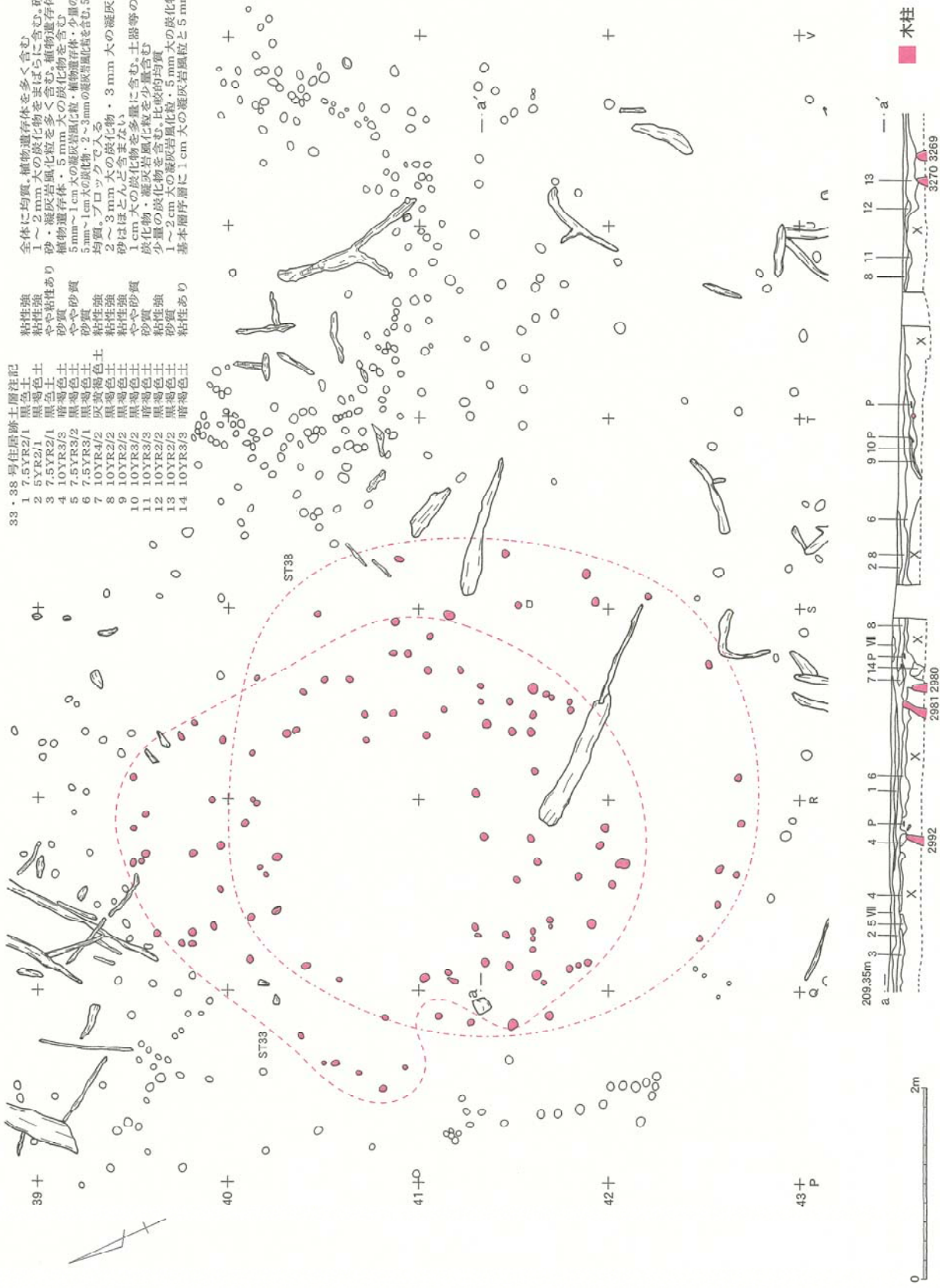
第50図 32号住居跡(2)木柱断面図

V 検出された遺構

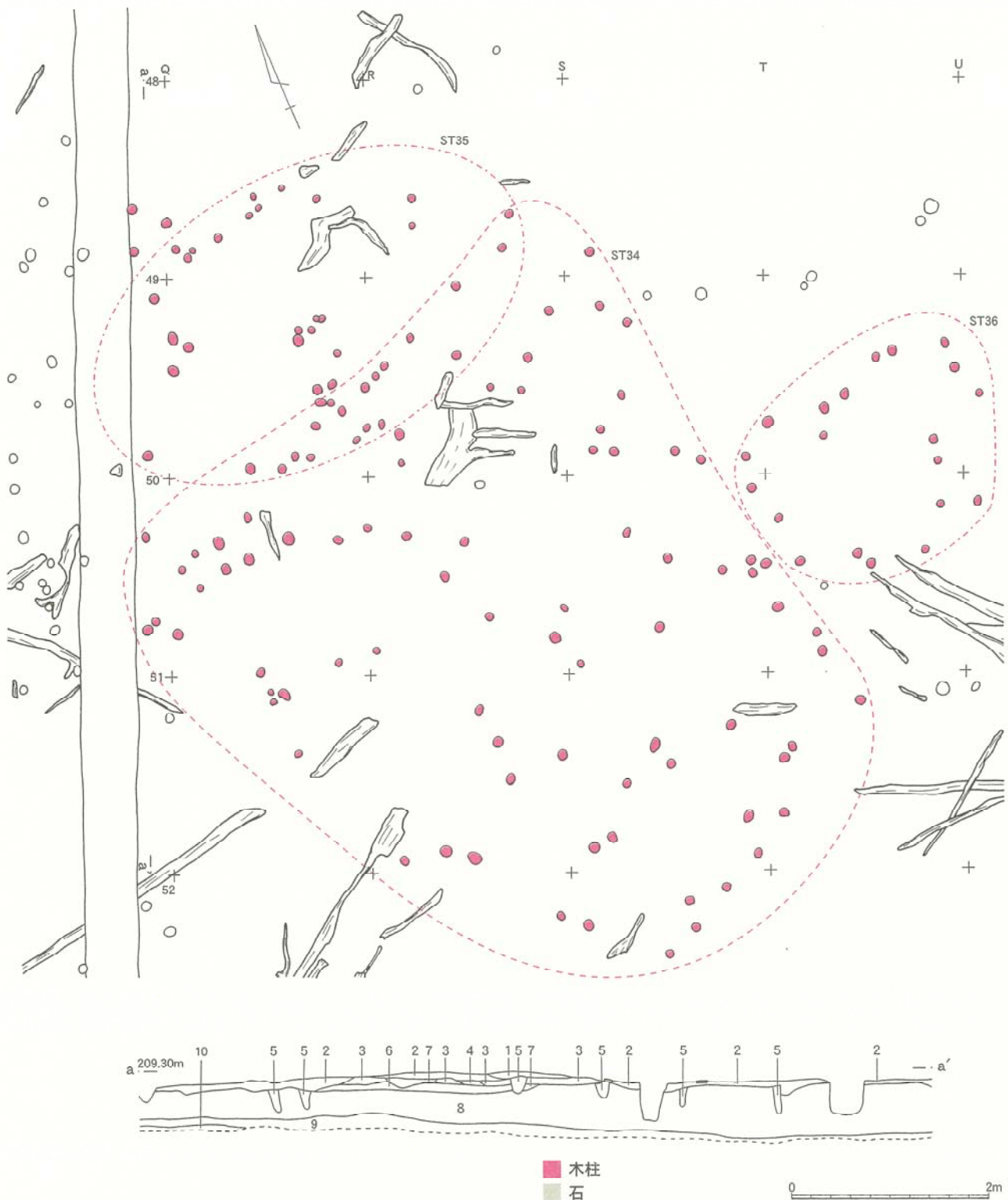
33・38号住居跡土層注記  
 1 7.5YR2/1 黒色土  
 2 5YR2/1 黒褐色土  
 3 7.5YR2/1 黒褐色土  
 4 10YR3/3 暗褐色土  
 5 7.5YR3/2 黒褐色土  
 6 7.5YR3/1 黒褐色土  
 7 10YR4/2 灰黄褐色土  
 8 10YR2/2 黒褐色土  
 9 10YR3/2 黒褐色土  
 10 10YR3/3 暗褐色土  
 11 10YR2/2 黒褐色土  
 12 10YR2/2 黒褐色土  
 13 10YR2/2 黒褐色土  
 14 10YR3/3 暗褐色土

粘性強  
 やや粘性あり  
 砂質  
 砂質  
 粘性強  
 やや粘性あり  
 砂質  
 粘性強  
 やや粘性あり  
 砂質  
 粘性強  
 やや粘性あり

全体に均質。植物遺存体を多く含む。  
 1～2 mm 大の炭化物をまばらに含む。砂はほとんど含まない。  
 砂・凝灰岩風化粒を多く含む。植物遺存体も含む。  
 植物遺存体・5 mm 大の炭化物を含む。  
 5 mm～1 cm 大の凝灰岩風化粒・植物遺存体・少量の炭化物を含む。ブロックで入る均質。ブロックで入る。  
 2～3 mm 大の炭化物・3 mm 大の凝灰岩風化粒を含む。  
 砂はほとんど含まない。  
 1 cm 大の炭化物を多量に含む。土器等の遺物を多く含む。  
 炭化物・凝灰岩風化粒を少量含む。  
 少量の炭化物を含む。比較的均質。  
 1～2 cm 大の凝灰岩風化粒と 5 mm 大の炭化物を大量に含む。遺物も多い。  
 基本層序層に 1 cm 大の凝灰岩風化粒と 5 mm 大の炭化物を少量含む。



第51図 33・38号住居跡平面図・断面図



34・35・36号住居跡土層注記

1	5BG2/1	青黒色土	粘土質
2	2.5Y2/1	黒色土	粘土質
3	10YR3/2	黒褐色土	砂質
4	2.5Y2/1	黒色土	粘土質
5	10YR3/2	黒褐色土	軟質
6	2.5Y3/1	黒褐色土	粘土質
7	2.5Y3/1	黒褐色土	粘土質
8	2.5Y4/1	黄灰色土	粘土質
9	N1.5/0	黒色土	粘土質
10	10GY6/1	緑灰色土	粘土質

非常に硬い緻密な粘土。均質で混入物はほとんどない。基本層序VII層に相当する粘性があまり強くない粘土質で、全体的には軟らかい。1~3cmの黒色炭化物を含む。凝灰岩の小粒・植物繊維も含む。遺物を包含する粘性に乏しく、バリバリしてもろい。砂・多量の植物繊維を含む。小粒の白色礫や炭化物も含む。住居跡の覆土と同質である。遺物を包含する2に類似。炭化物が著しく、密に含まれる

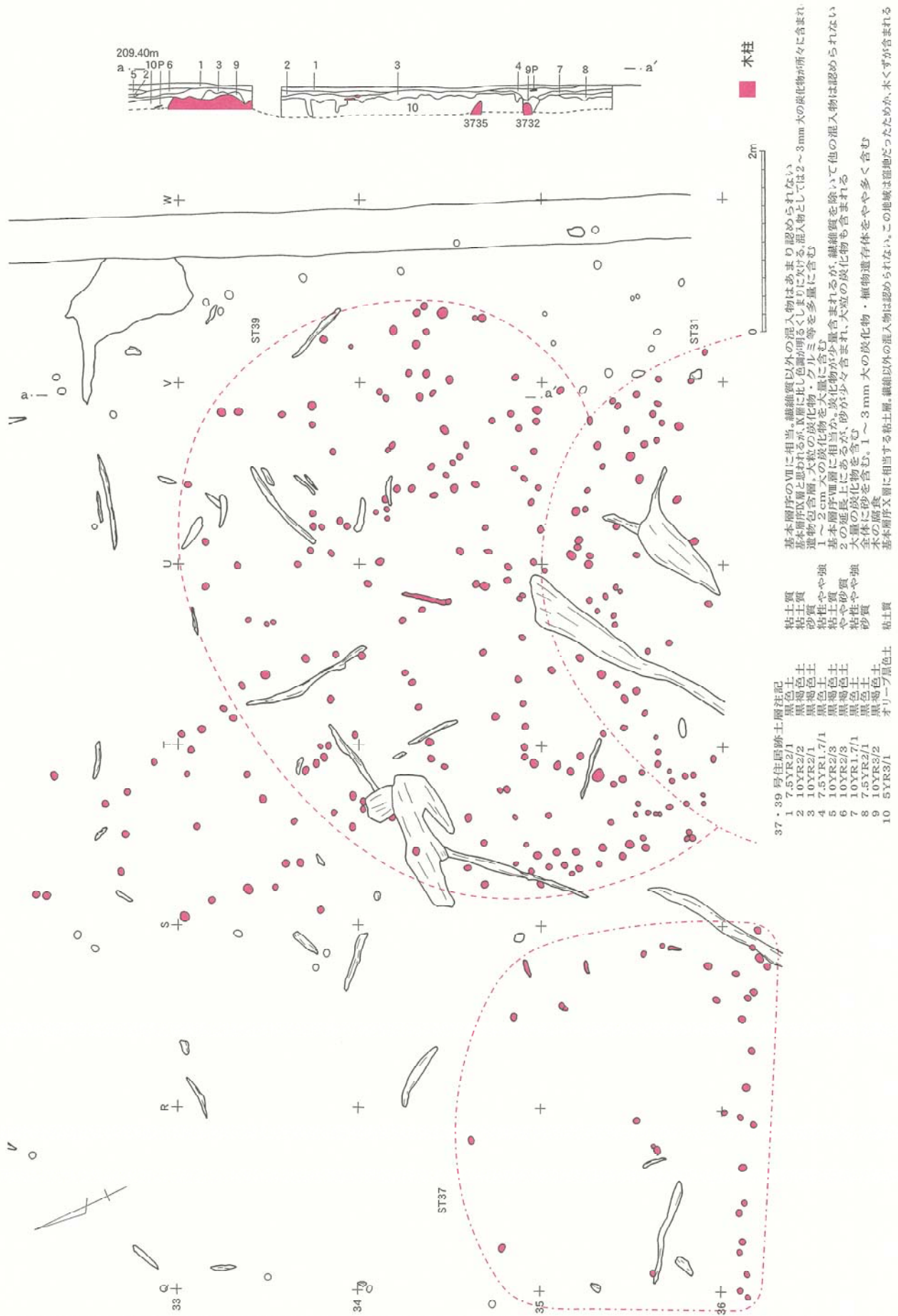
3に類似。小ピットもしくは柱の抜き取りか腐食した痕跡に入った土であるため、腐食した木片や植物繊維を非常に多く含む均質で、硬くしまった粘土。遺物を含まない。混入物は少なく、わずかに植物繊維が入っているのみである

6に類似する粘土。炭化物が集中して見られる

硬くしまった粘土。植物繊維を混入する。遺物はまったく含まない。下部にいくほど青みを帯びる傾向がある粘性に富む粘土。基本層序XII層に相当する

粘性が非常に強い粘土。粒子が細かくクレンザーのような独特の手触りがある。基本層序XIII層に相当か

第52図 34・35・36号住居跡平面図・断面図



第53図 37・39号住居跡平面図・断面図

**S T 36** (第52・130図、図版51)

調査次数	第3次調査
検出位置	調査区南東部
検出グリッド	S-49・50、T-49・50、U-49・50グリッド
形状	長軸約2.3m×短軸約1.7mの楕円形
マウンドの有無	不明
特記事項	平面形は東西を軸とする楕円形をなし、外周は打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5～10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にもまばらではあるが木柱が打ち込まれている。
出土遺物	土器は土器片が出土した。

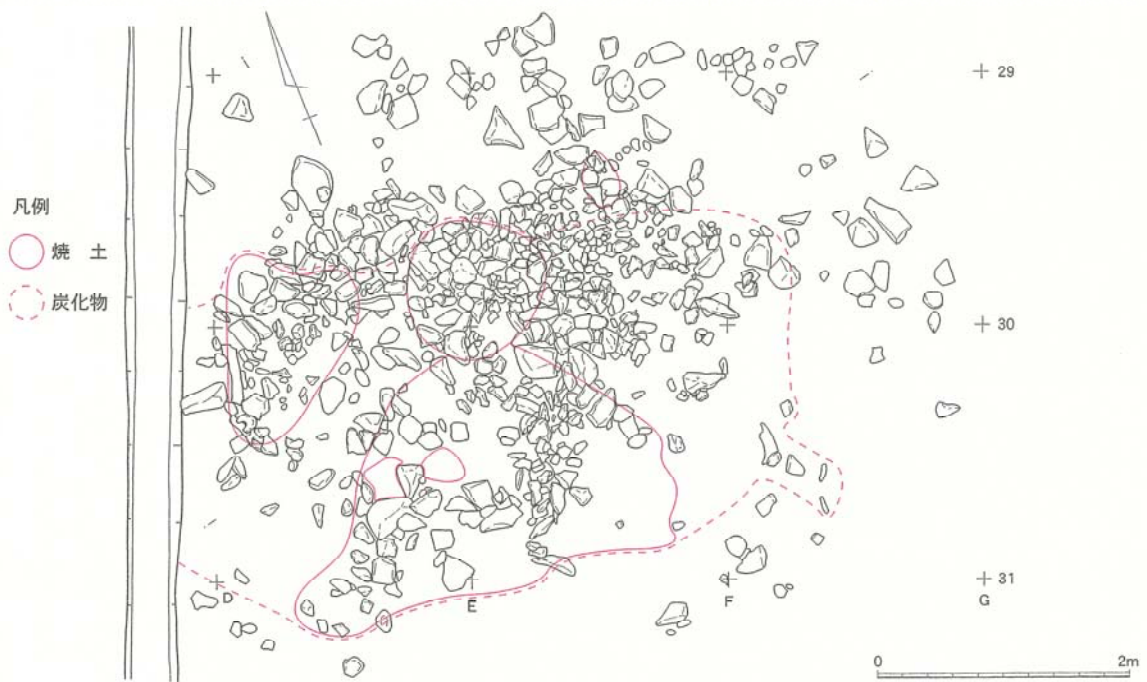
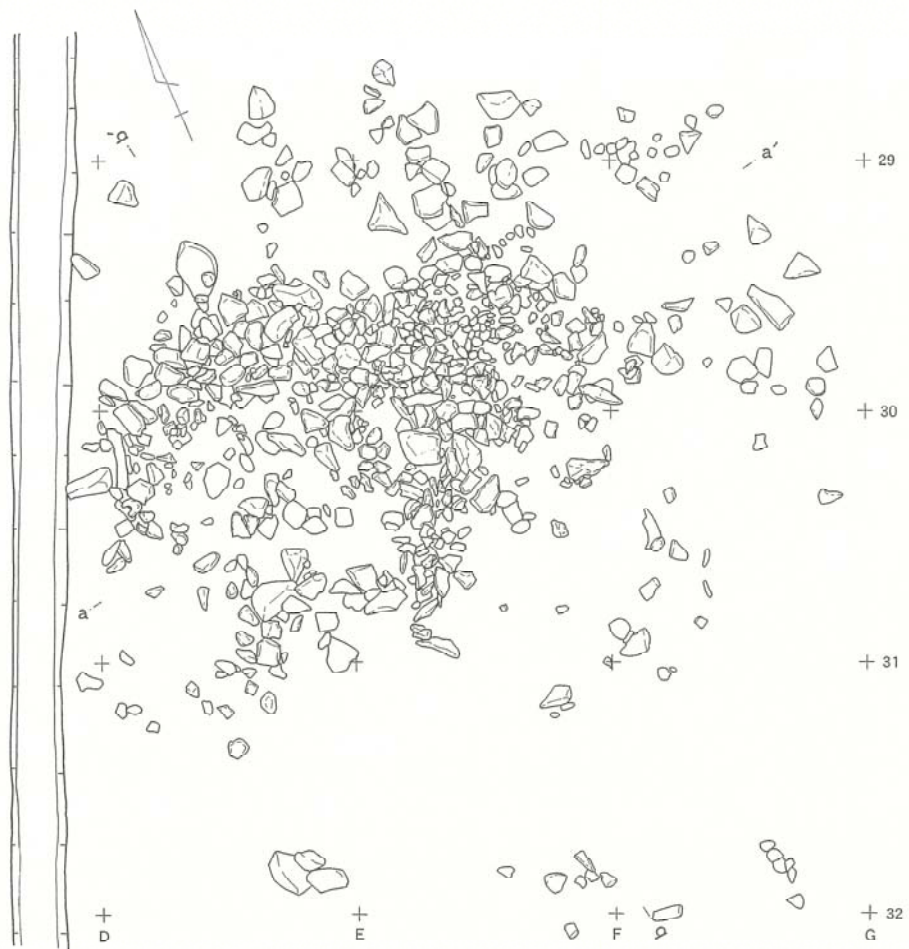
**S T 37** (第53・126・131・132図、図版54・85)

調査次数	第3次調査
検出位置	調査区ほぼ中央部
検出グリッド	P-36、Q-34～36、R-34～36グリッド
形状	長軸約3.7m×短軸約3.0mの楕円形、またはほぼ長方形を呈する
マウンドの有無	不明
特記事項	平面形は南北を軸とする楕円形あるいは長方形をなし、外周はまばらな打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5～10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にもまばらではあるが木柱が打ち込まれている。
出土遺物	土器は深鉢、土器片が出土した。石器は石鏃、三角スクレイパー、スクレイパー、石錐、磨製石斧などが出土した。木製品は大杯が出土した。

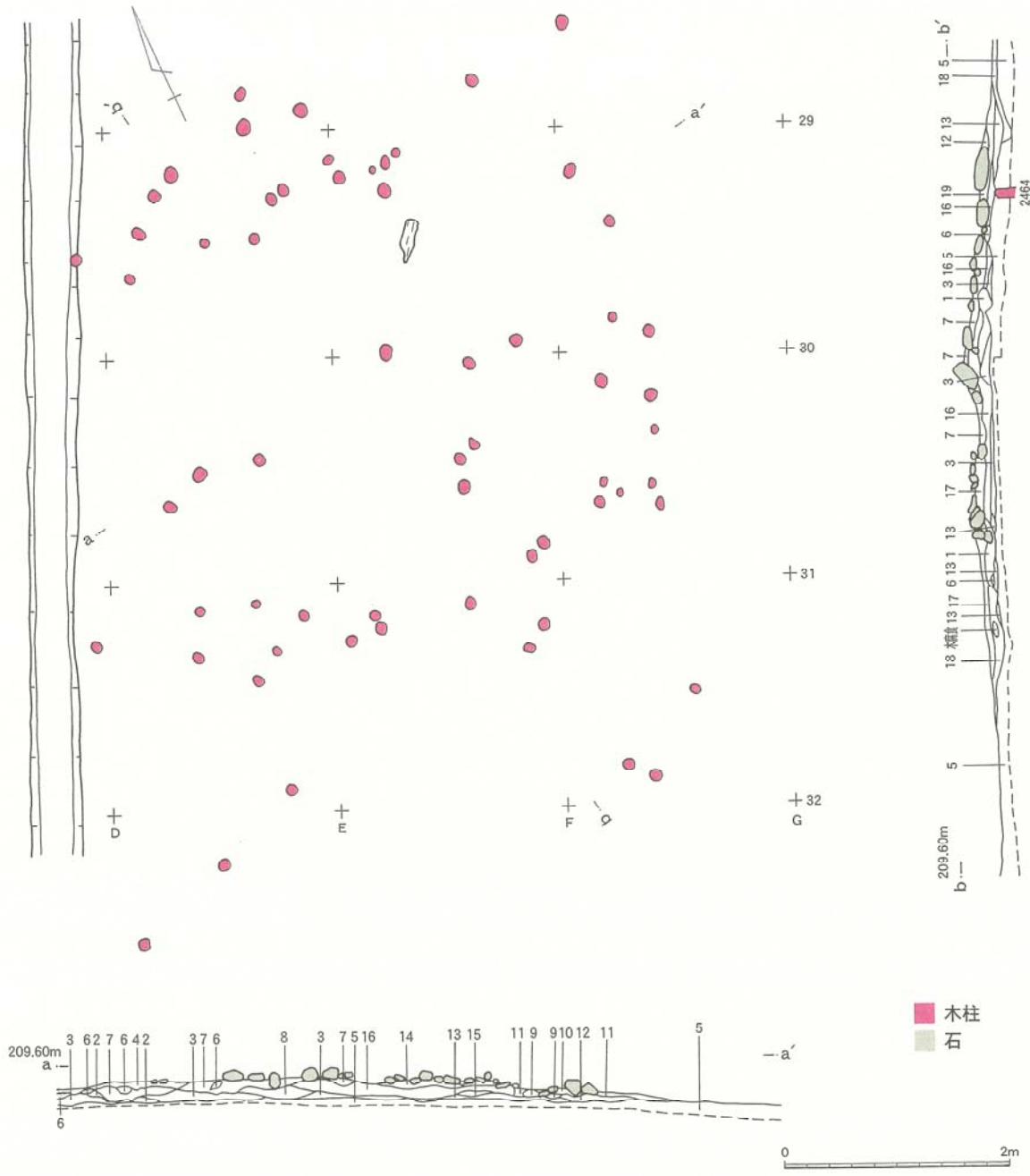
**S T 38** (第51・124・253図、図版85)

調査次数	第3次調査
検出位置	調査区中央部やや南東寄り
検出グリッド	P-40～42、Q-40～42、R-40～42、S-40～42グリッド
形状	直径約5.0mの円形
マウンドの有無	なし
特記事項	平面形は円形をなし、外周は打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5～10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にもまばらではあるが木柱が打ち込まれている。これはST33と複合しているため攪乱されている可能性が高い。住居跡北部分の3分の2以上がST33と重複している。周囲には植物遺存体を多く含む。他の住居跡に比べ炭化物は少ない傾向がある。
出土遺物	土器は土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、石匙、スクレイパー、筥状石器、石錐、石皿などが出土した。





第54図 1号集石(1)平面図



1号集石遺構土層注記

1	5YR4/8	赤褐色土	微砂質	焼土と考えられる。繊維質を多く含む。粘性はない
2	2.5YR5/4	黄褐色土	微砂質	焼土の周辺に存し、黄褐色のブロックを多く含む
3	10YR1.7/1	黒色土	微砂質	炭化物からなる層で、繊維質を多く含む
4	2.5YR3/1	黒褐色土	砂質	砂を多く含む層で、風化礫の混入も著しい。炭化物を少々を含み、遺物の混入も認められる
5	2.5Y5/1	黄灰色土	粘土質	集石遺構の基盤層。繊維質を多く含む、所々に炭化物を含む
6	10YR4/6	褐色土	微砂質	赤褐色と黄褐色の焼土と考えられる小ブロックを含む。下部に炭化物を多量に含む
7	10YR4/1	褐灰色土	粘土質	少量の炭化物・風化礫を含む。所々に黄褐色土ブロックが混じる
8	5Y4/2	灰オリーブ土	粘土質	少量の炭化物を含み、暗褐色土が混じる
9	2.5Y5/2	黄褐色土	粘土質	均質で粘性が強い。微量の炭化物を含む
10	10YR3/1	黒褐色土	微砂質	均質で繊維質を多量に含む、炭化物を少量含む
11	10YR2/1	黒色土	微砂質	少量の炭化物を含む。10に似るが、色調はやや暗い
12	10YR3/1	黒褐色土	粘土質	少量の砂・炭化物を含む
13	10YR3/1	黒褐色土	粘土質	微量の炭化物を含む
14	5Y3/2	オリーブ黒土	粘土質	礫直下の層位。粘性が強い。微砂を少量含む
15	5Y3/1	オリーブ黒土	微砂質	黒色土に灰色の粘土質が小ブロックで混入する。繊維質で均質
16	2.5Y5/4	黄褐色土	粘土質	粘性が強い。繊維質を多く含む、均質。微量の炭化物を含む
17	5Y3/1	オリーブ黒土	微砂質	2~3mm 大の炭化物を多少含む、風化礫を少量含む
18	10Y R2/2	黒褐色土	微砂質	繊維質と大粒の炭化物を多量に含む
19	5Y3/2	オリーブ黒土	砂質	砂を多量に含む。炭化物・風化礫が所々に混じる

第55図 1号集石(2)断面図・木柱跡平面図

**ST39** (第53・127・132図、図版54・86)

調査回数	第3次調査
検出位置	調査区中央部東壁付近
検出グリッド	S-32~35、T-33~35、U-33~35、V-33・34グリッド
形状	長軸約6.5m×短軸約5.0mの楕円形を呈するとみられる
マウンドの有無	なし
特記事項	平面形は東西を軸とする楕円形をなし、外周はまばらな打ち込み柱から構成されている。木柱の直径は5~10cmである。この木柱の範囲内部を住居跡として把握した。内部にも木柱が打ち込まれている。このため、いくつかの住居跡が複合している可能性が高い。ST31と一部切り合いの関係にある。覆土の中間層に大粒の炭化物・クルミを大量に含む部分がある。
出土遺物	土器は深鉢、土器片が出土した。石器は石鏃、押出型ポイント、三角スクレイパー、スクレイパー、石錐、凹石などが出土した。

**SM1** (第54・55・128・130・239・253図、図版55・86)

調査回数	第2次調査
検出位置	調査区中央部西壁付近
検出グリッド	C-29~31、D-28~31、E-28~31、F-28~31グリッド
形状	約6.0m四方の範囲内に不整形形をなす
マウンドの有無	あり
特記事項	平面形は不整形形をなし、外周は集石から構成されているため、住居跡とは区別した。集石の範囲内部を集石遺構として把握した。内部には密集して集石がある。その下部には、木柱が打ち込まれている。5~10cmのマウンド上面に礫が規則的に配置されている。礫の大きさは、外周で人頭大の大形のものが巡り、中心部では拳大のものが配置されている。マウンドは黒色土が中心となり、砂粒、風化礫、炭化粒子を多く含む。焼けた石が多くみられ、周辺部や集石の下部には焼土や炭化層が検出された。焼けた骨片もこの部分から出土している。出土遺物は、礫の上面よりも周辺ならびに礫間から出土する傾向があった。住居跡とは異なり、祭祀的な要素を含む集石である遺構の可能性はある。
出土遺物	土器は土器片が出土した。石器は押出型ポイント、石槍、石匙、三角スクレイパー、篋状石器、石錐、磨製石斧、磨石、凹石、砥石、玦状耳飾(未製品)などが出土した。また、骨角器として鹿角製ヤスが出土した。

## VI 遺物の分布

本遺跡から出土した遺物の内訳は概算で土器400箱・石器200箱・木製品10箱・自然遺物20箱程である。この他、土層サンプル200箱・木柱250本を採集している。総数について、表2として表わした。数量は整理途上のものであり、他の表記とは合対しないところがあるが、全体の傾向性を示す資料として理解されたい。

出土遺物のうち、土器片・彩文土器・石器類・クルミ・クリについて、グリッド毎にその出土量を示したのが第56～77図である。土器片については口縁部・体部・底部に分類のうえ集計している(第56図)。ここでは出土状況の傾向を得るため口縁部・体部・底部の各点数を示すとともに、グリッド毎の総数を示している(完形土器は数値に含まない)。石器剥片分布図は、フレイク・チップの数量と重量のデータを得ているがここでは重量のデータを示す(第58図)。クルミは、半截品がほとんどを占めるが、完形品に換算し概算の個体数を示した(第77図)。クリはすべて炭化しており、欠損品が多いため重量で提示している(出土後水洗い乾燥し、1年以上経過した段階での作業であり、常温では安定したものとしてデータをとった。)(第76図)。

大まかに分布の傾向性の特徴を把握すれば、以下のようになる。

土器は、概算で約132,000点を数える。窪地の一部を除きほぼ調査全域で出土している。本遺跡の場合、住居跡はその構造が不明確な点が多いため、ひとつの住居跡域とそのエリア内出土遺物との関連は、層位的な問題も含め慎重に取り扱う必要がある。

石器の分布は、ここでは、打製石器のフレイク・チップを取り扱った。トウールや礫石器他の分布の概要は各論で述べるが、ひとつの傾向として住居跡内出土が多い。特に、ST10のフレイク・チップの集中区域や、ST11の配置された状態で出土した石器群(第215図)は、その製作・使用を考えるうえで興味深い。

自然遺物のうち、最も顕著に出土したクリ・クルミの分布状況は、両者に大きな差違が認められる。すなわち、クルミは、調査区ほぼ全域で出土しているが、特に住居跡から窪地にかかる傾斜面から窪地にかけて大量に出土している。これに対し、クリは、特定の住居跡(ST13)域に集中している。分布の違いには注意する必要があるだろう。興味深いことに、ここ(ST13)にはクッキー状炭化物も存在する。

土器の外面に漆が添付された浅鉢、漆を下地としさらに漆で文様を描出した浅鉢が出土した。一括して「彩文土器」と呼称することとする。彩文土器の出土状況を平面的にプロットしたのが第57図である。住居跡の存在に沿って出土する傾向がみられる。

礫の出土も顕著である。特に、中型の住居跡域(木柱列)の外縁部に多く、内部では少ない。各住居跡の北東縁に集中する傾向がある。

以下、各遺物の分布図(第56～77図)に基づいて、その傾向性を示す。なお、分布図に併せて右側に標高分布図と遺構分布図を載せている。標高分布図は濃い部分が窪地を表わし、薄い部分が高地を表わしている。地形の高低に従って、遺構が分布していることがわかる。

## 1 土器の分布 (第56図)

### (1) 分布の濃い場所

住居跡からの出土が多い。出土数がかなり多いと判断できる住居跡は、ST 8・10～16・18～20・25・30～35・37～39である。特に、出土数が他の住居跡に比べて著しく多いのは、ST30・31であり、住居跡全体からまんべんなく出土している。集石遺構であるSM 1からも出土数は多い。

### (2) 分布傾向

住居跡からの出土数が多いが、住居跡の中心部にはそれほど多くはなく、遺構範囲の境界付近に出土数が集中する傾向がある。出土数が少ない地点は、標高が低く、窪地になっている場所である。窪地は各分布に記した低位を示す箇所、調査区の北部・中央部・南部にある。

## 2 彩文土器の分布 (第57図)

### (1) 分布の濃い場所

住居跡からの出土が多い。出土した遺構は、ST 3～5・9・11・13・15～17・19・20・25・27～31・39である。ST 9とST11の遺構は隣接しているため、出土した破片が接合し1個体をなしている(第145図1)。ST20からは完形の赤漆塗彩文土器(第147図4)が出土しており、また破片数も多い。

### (2) 分布傾向

彩文土器についても、土器の分布と同様に住居跡から出土する傾向がある。

## 3 石器剥片の分布 (第58図)

### (1) 分布の濃い場所

住居跡・集石といった遺構からの出土量が多い。特に出土量が多い遺構としては、ST11・30～32があげられる。

### (2) 分布傾向

標高の低い窪地からの出土は少ない傾向にある。住居跡でもST 1・2・4・21・22のように出土していないか、または出土量が非常に少ない遺構もある。

## 4 石鏃の分布 (第59図)

### (1) 分布の濃い場所

住居跡・集石といった遺構からの出土量が多い。特に出土量が多い遺構としては、ST11・13・19・30～32があげられる。

### (2) 分布傾向

標高の低い窪地からの出土は少ない傾向にあり、また、住居跡でもST 1・3・21・22・27のように出土していないか、または出土量が非常に少ない遺構がある。

## 5 石槍の分布 (第60図)

### (1) 分布の濃い場所

出土総数はあまり多くはないが、ほとんどは住居跡からの出土である。このうち、2点以上出土している住居跡は、ST11・13・18・30である。

### (2) 分布傾向

ほとんどは住居跡からの出土であるが、調査区南部の窪地からも数点出土している。

## 6 押出型ポイントの分布 (第61図)

### (1) 分布の濃い場所

出土数が多い住居跡は、ST11・13・15・16・19・20・24・30～33・38があげられる。集石遺構であるSM1周辺からの出土もみられる。

### (2) 分布傾向

他の遺物と同様に住居跡を中心として出土している。調査区中央部と南部の窪地からもまばらに出土している。

## 7 石匙の分布 (第62図)

### (1) 分布の濃い場所

出土数が多い住居跡としては、ST11・15・31があげられる。

### (2) 分布傾向

総数はあまり多くはないものの、調査区中央部付近の住居跡からの出土が目立つ。調査区中央部の窪地からも数点の出土がみられる。

## 8 三角スクレイパーの分布 (第63図)

### (1) 分布の濃い場所

住居跡・集石といった遺構からの出土が顕著にみられる。出土数が多い住居跡としては、ST11・13・15・16・19・20・24・30～32・34があげられる。

### (2) 分布傾向

住居跡・集石といった遺構からの出土が顕著にみられ、中でも調査区中央部付近は住居跡が密集しているため、出土数もかなり多い傾向がある。調査区中央部と南部の窪地からもまばらに出土している。一方、ST1・3・4・27のように1点も出土していない住居跡もある。

## 9 スクレイパーの分布 (第64図)

### (1) 分布の濃い場所

比較的出土数の多い遺構としては、ST11・13・15・16・18・19・20・25・30、SM1があげられる。

(2) 分布傾向

住居跡や集石遺構からの出土のほか、調査区南部の窪地からもまとまった出土がみられる。一方、ST1・3・21・22・36からの出土はない。

10 石錐の分布 (第65図)

(1) 分布の濃い場所

出土数が極めて多い遺構はST31であり、その他多いと判断できる遺構は、ST11・13・15・19・30・32である。

(2) 分布傾向

出土地点のほとんどは住居跡や集石遺構であるが、調査区中央部と南部の窪地からもまばらに数点が出土している。一方、ST1・3・21・22・27・36からの出土はない。

11 篋状石器の分布 (第66図)

(1) 分布の濃い場所

ST11からの出土が最も多く8点を数え、その他分布の認められる住居跡や集石遺構からの出土数は1点もしくは2点である。

(2) 分布傾向

総数はあまり多くはないが、ほとんどは住居跡や集石遺構からの出土である。調査区中央部と南部の窪地からも、まばらに数点の出土がみられる。

12 打製石斧の分布 (第67図)

(1) 分布の濃い場所

出土地点は、ST11・19・20などである。

(2) 分布傾向

総数は非常に少なく、調査区全体でも数点を数える程度である。

13 磨製石斧の分布 (第68図)

(1) 分布の濃い場所

出土数の多い住居跡としてはST11・15・20があげられる。

(2) 分布傾向

ほぼ住居跡を中心とした出土傾向にあるが、調査区南部の窪地でも数点の出土がみられる。

14 凹石の分布 (第69図)

(1) 分布の濃い場所

出土している住居跡はST11が最も多く、その他ST7・14などがあげられる。

## (2) 分布傾向

出土総数は30点程であり多くはない。出土地点はほぼ住居跡からであるが、窪地からの出土も若干ある。

## 15 磨石の分布 (第70図)

### (1) 分布の濃い場所

出土数が多い遺構としてはST11・31・32などがあげられる。

### (2) 分布傾向

住居跡や集石遺構からの出土が中心だが、調査地区北部・中央部・南部にある窪地や遺構外からの出土もみられる。

## 16 磨凹石の分布 (第71図)

### (1) 分布の濃い場所

出土数が多い住居跡はST11・31・39などである。

### (2) 分布傾向

住居跡からの出土が中心だが、調査区北部・中央部・南部の窪地からも若干出土している。

## 17 砥石の分布 (第72図)

### (1) 分布の濃い場所

出土している主な住居跡はST11・19・31などである。

### (2) 分布傾向

ほとんどが住居跡からの出土だが調査区中央部の窪地からも数点出土している。出土総数は30点程であり多くはない。

## 18 石皿の分布 (第73図)

### (1) 分布の濃い場所

出土している主な住居跡はST11・31などである。

### (2) 分布傾向

出土総数が20点と比較的少ない。ほとんどが住居跡からの出土だが、遺構外からの出土も若干みられる。調査区南部の窪地以南からの出土はない。

## 19 異形石器の分布 (第74図)

### (1) 分布の濃い場所

出土している主な住居跡はST11・13・31などである。調査区中央部窪地のR-30グリッドからは数点のまとまりが認められる。



## (2) 分布傾向

住居跡と窪地からの出土がみられる。

## 20 石製品の分布 (第75図)

## (1) 分布の濃い場所

出土総数は20数点とあまり多くはないが、出土している主な住居跡としてはST11・31などがあげられる。

## (2) 分布傾向

主に住居跡から出土しているが、調査区中央部の窪地や遺構外また、集石遺構(SM1)付近からの出土も数点認められる。

## 21 クリの分布 (第76図)

## (1) 分布の濃い場所

出土地点はST13とその周辺に集中している。大量に出土しているST13に比べ、他の住居跡からの出土は非常に少ないが、ST10・15・17・32などにも若干分布している。また、調査地区南部の窪地にも若干の分布が認められる。

## (2) 分布傾向

ST13とその周辺から大量に出土している。流れ込みのためかST13に隣接する調査区中央部の窪地にも若干の分布がみられる。

## 22 クルミの分布 (第77図)

## (1) 分布の濃い場所

調査区中央部と南部にある標高の低い窪地の範囲から大量に出土している。

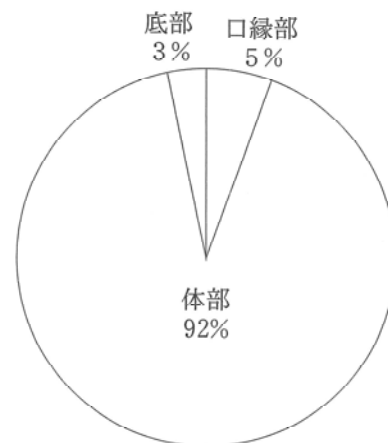
## (2) 分布傾向

調査区中央部と南部にある窪地から大量に出土している一方、住居跡のある比較的標高が高い場所からの出土は少ない傾向にある。

土器破片部位内訳

部 位	破 片 数
口 縁 部	6,756
体 部	112,308
底 部	4,053
計	123,117

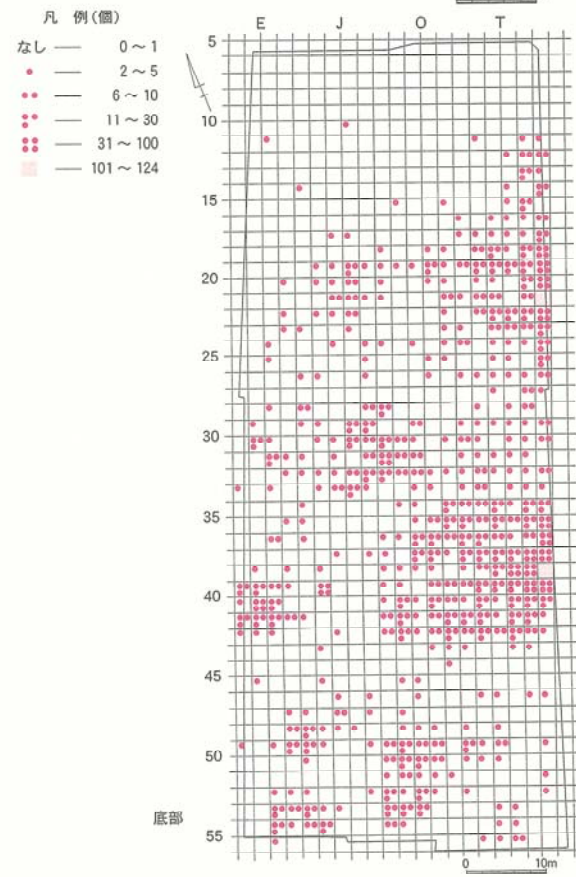
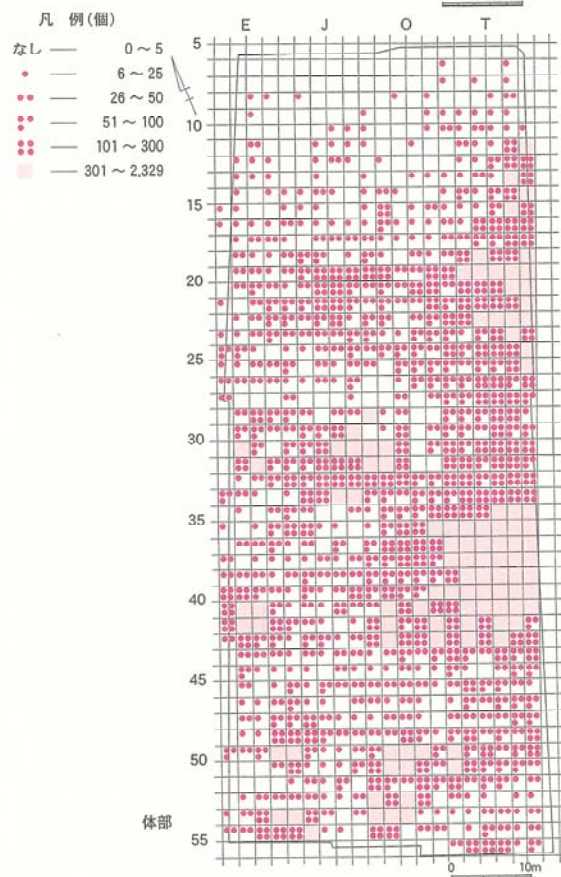
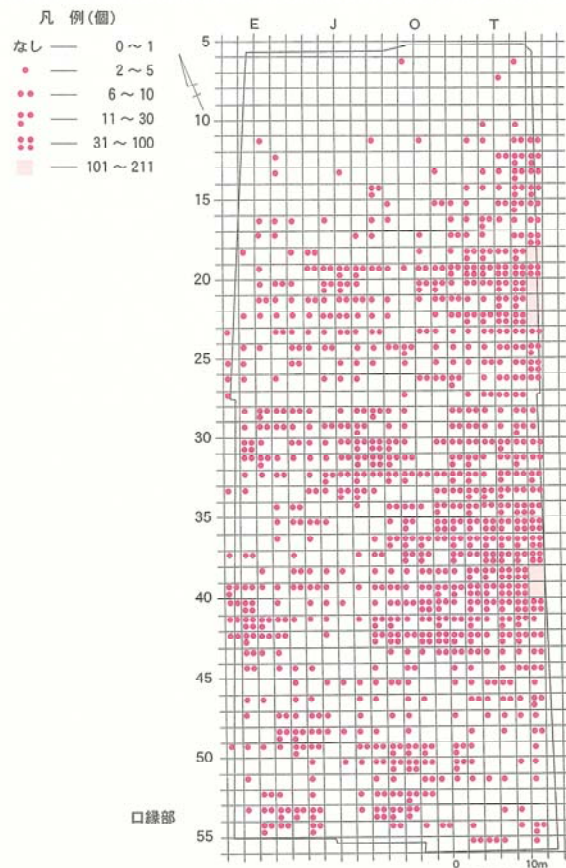
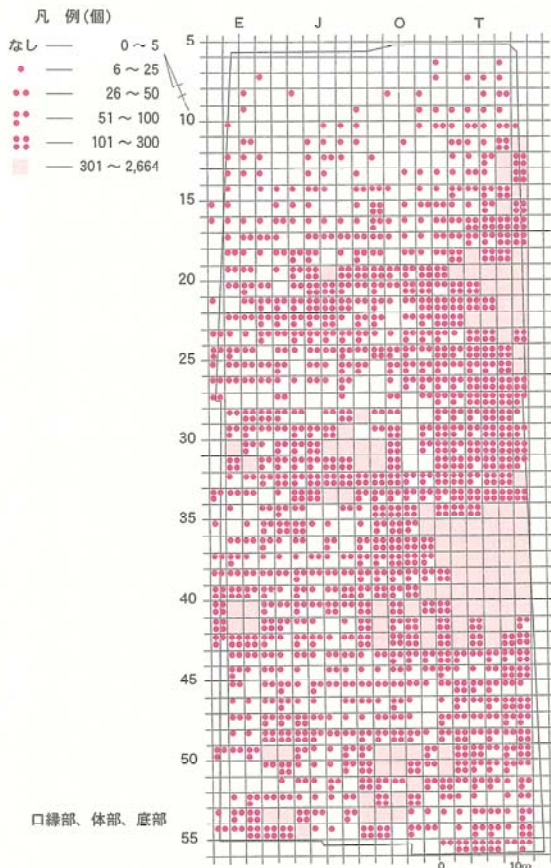
土器破片部位別割合



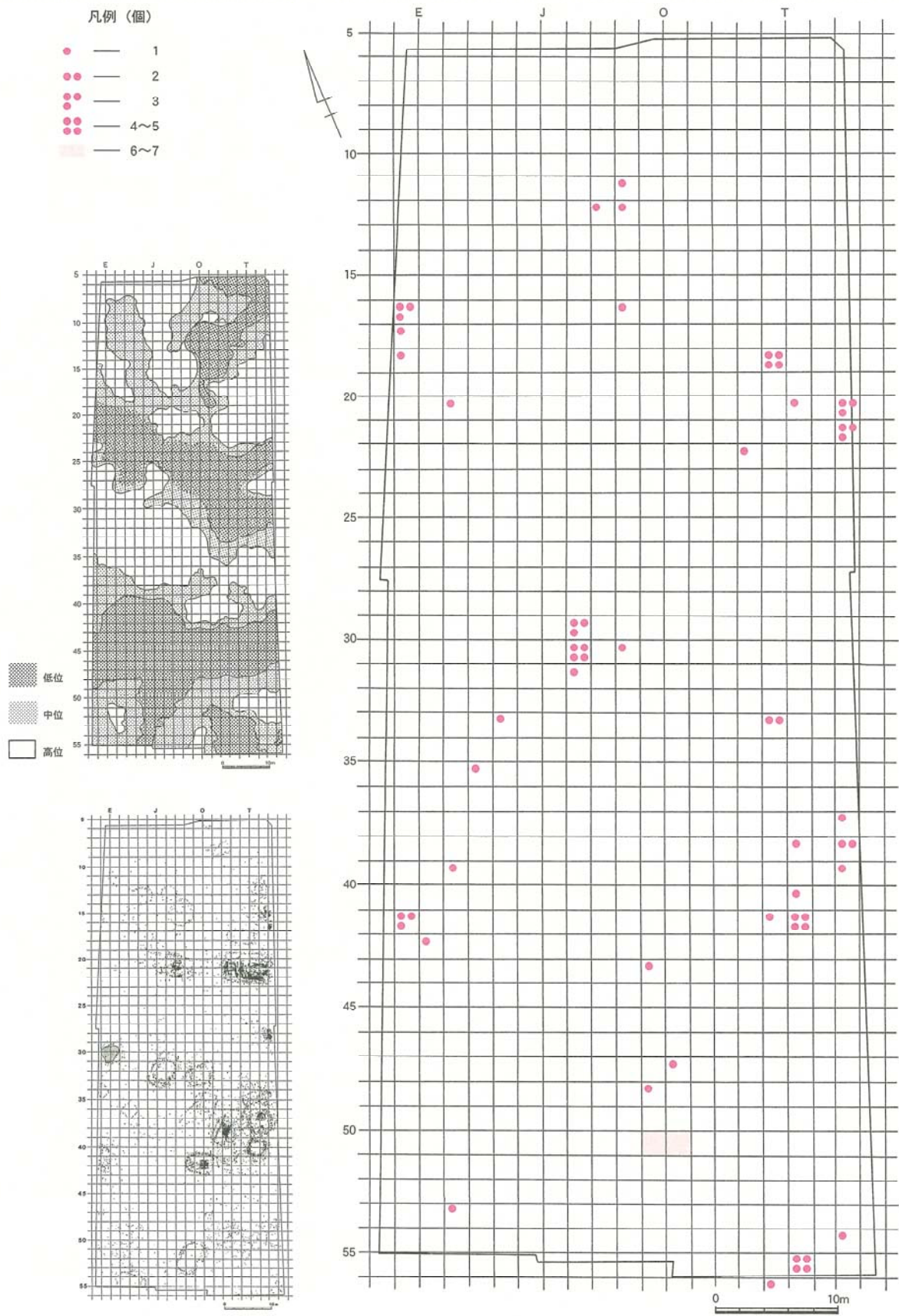
自然遺物 (クリ・クルミ)

種 別	個 数	乾燥重量(g)
ク リ	—	9,945
ク ル ミ	70,275	—

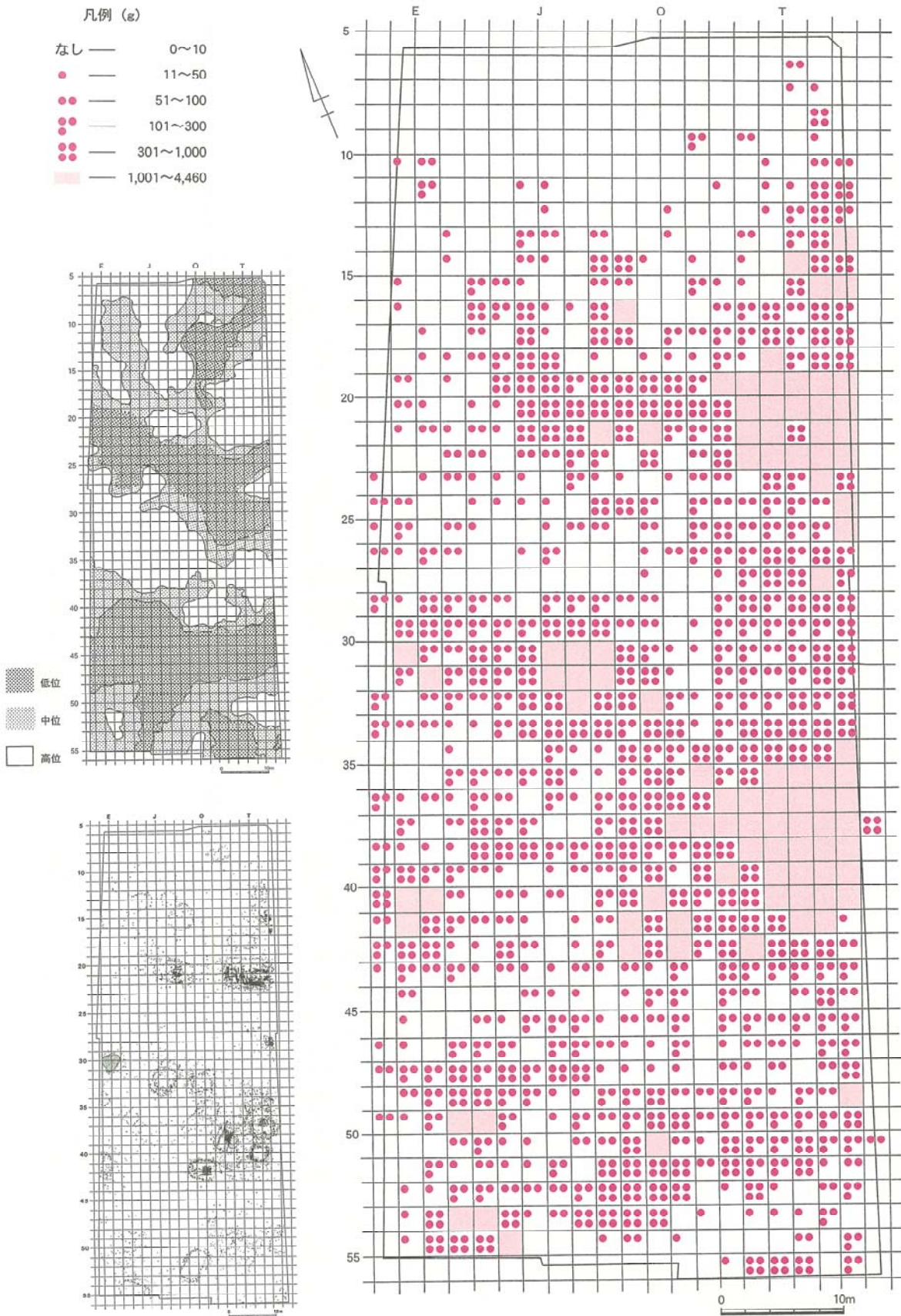
表2 土器・自然遺物集計表



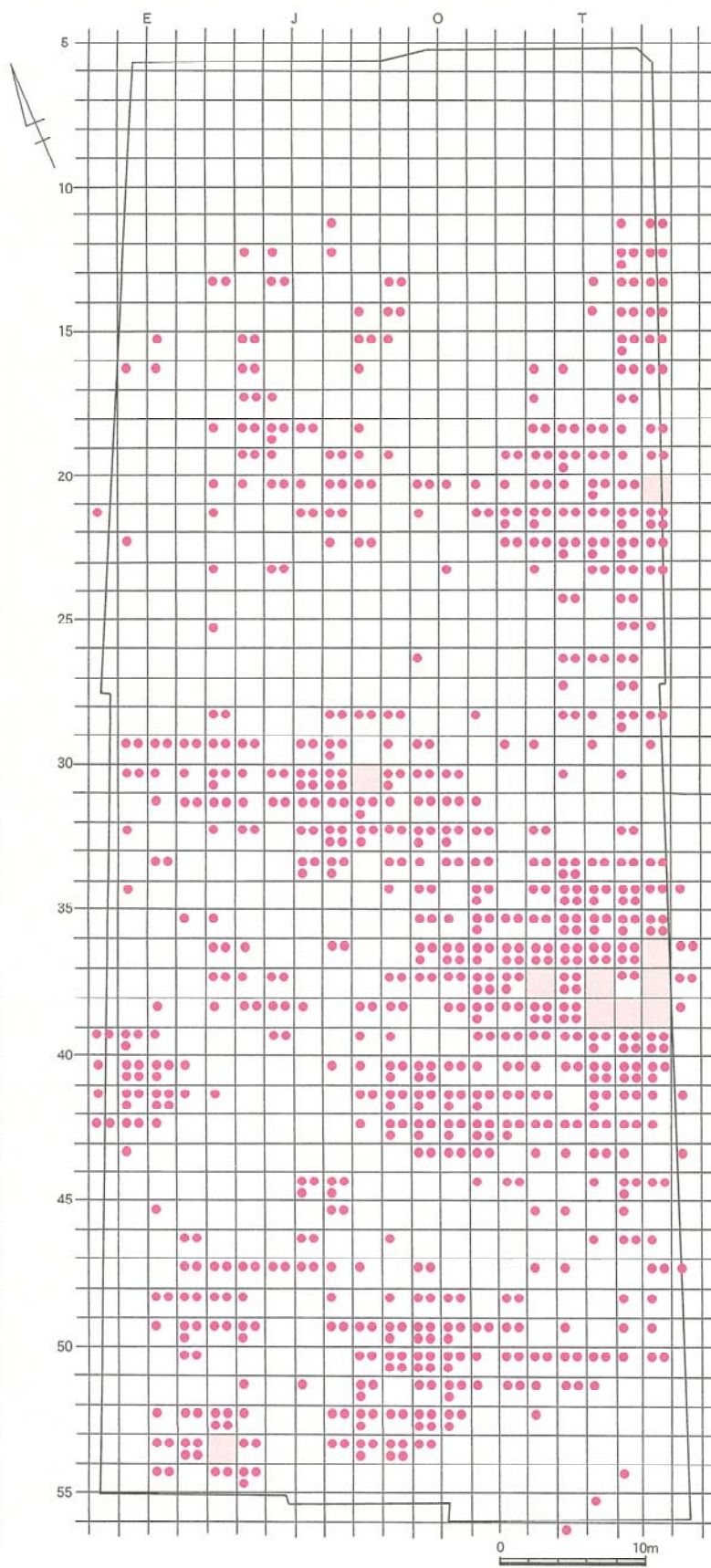
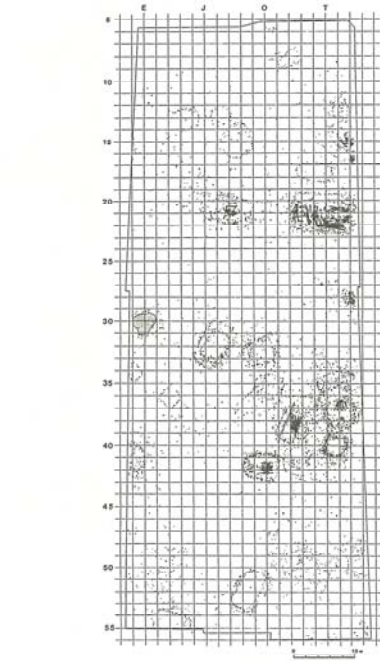
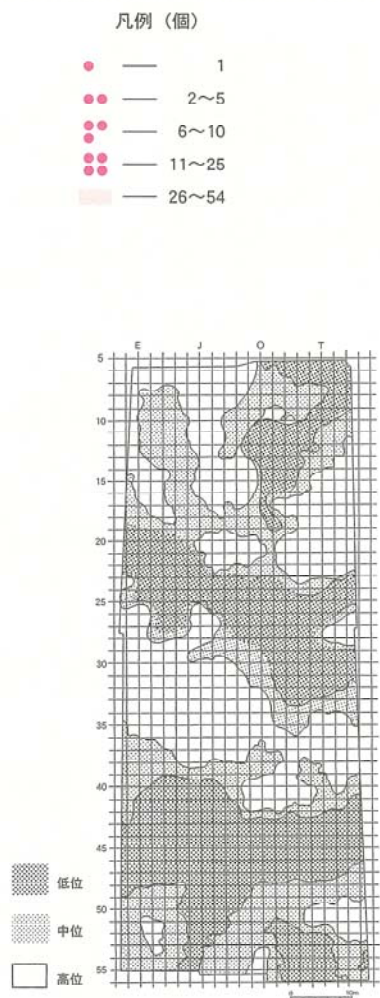
第56図 遺物分布図(1) 土器片分布図



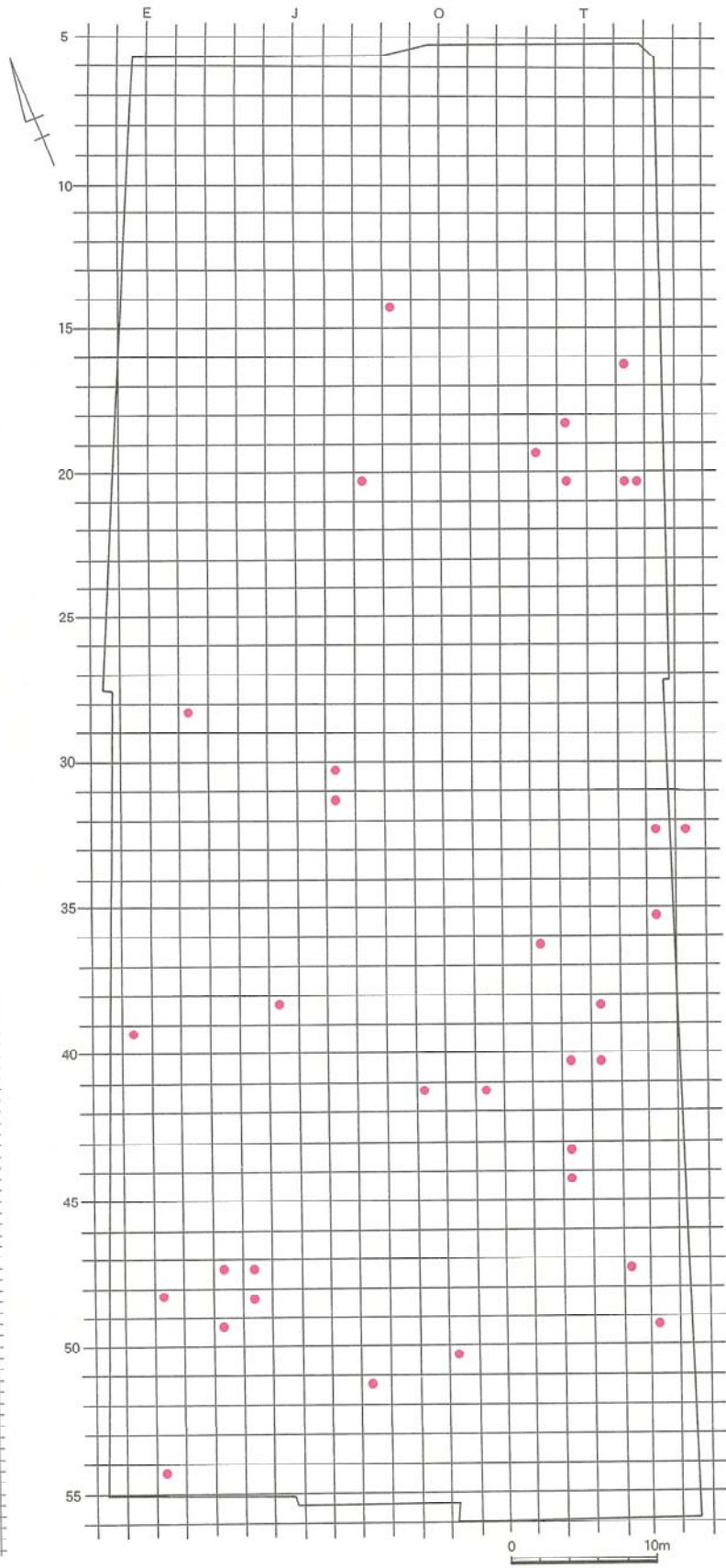
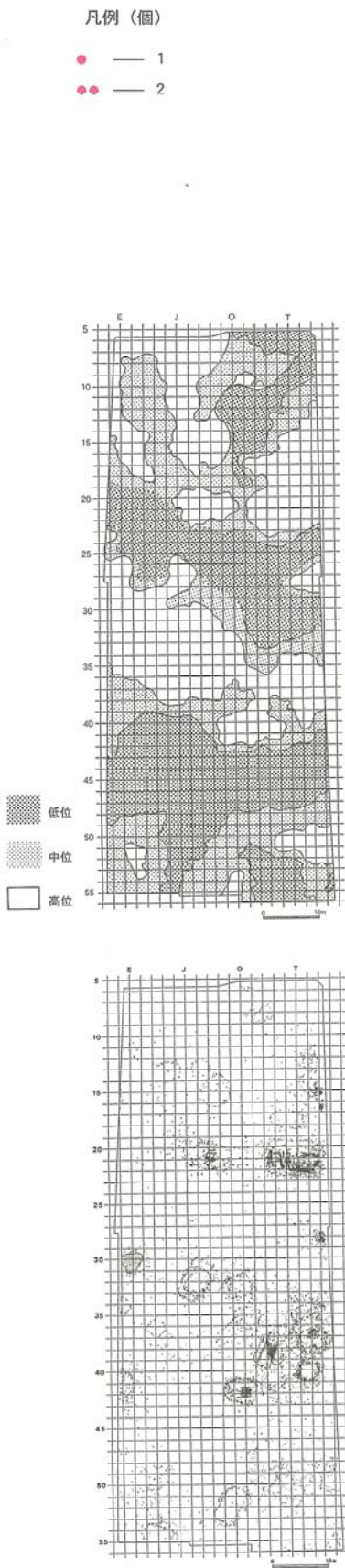
第57図 遺物分布図(2) 彩文土器分布図



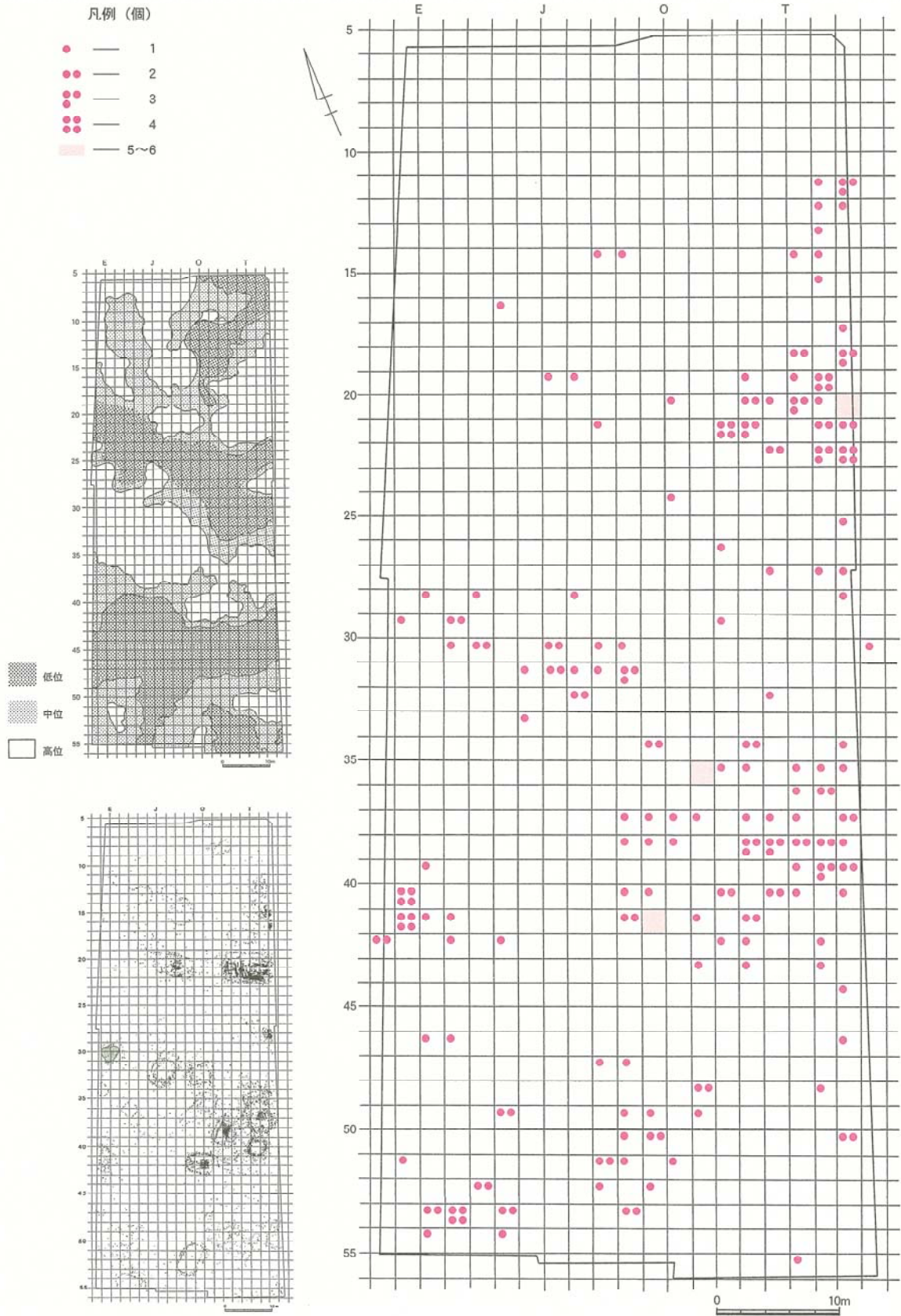
第58図 遺物分布図(3) 石器剥片分布図



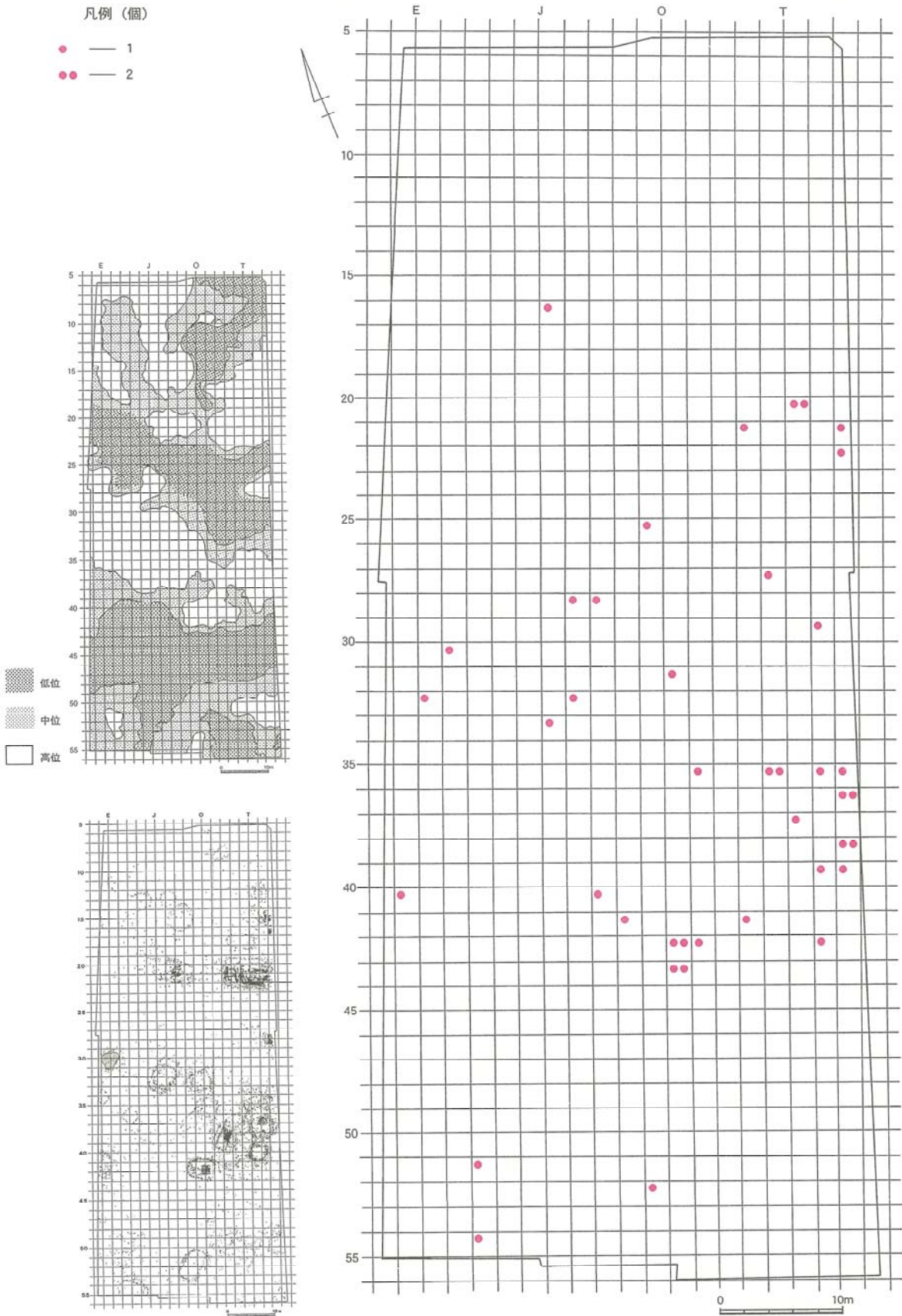
第59図 遺物分布図(4) 石鏃分布図



第60図 遺物分布図(5) 石槍分布図

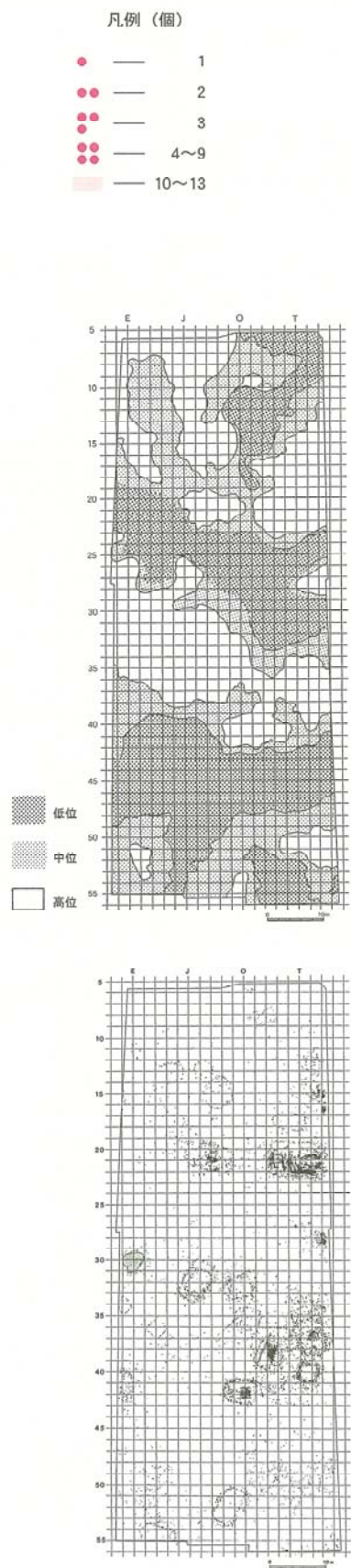


第61図 遺物分布図(6) 押出型ポイント分布図

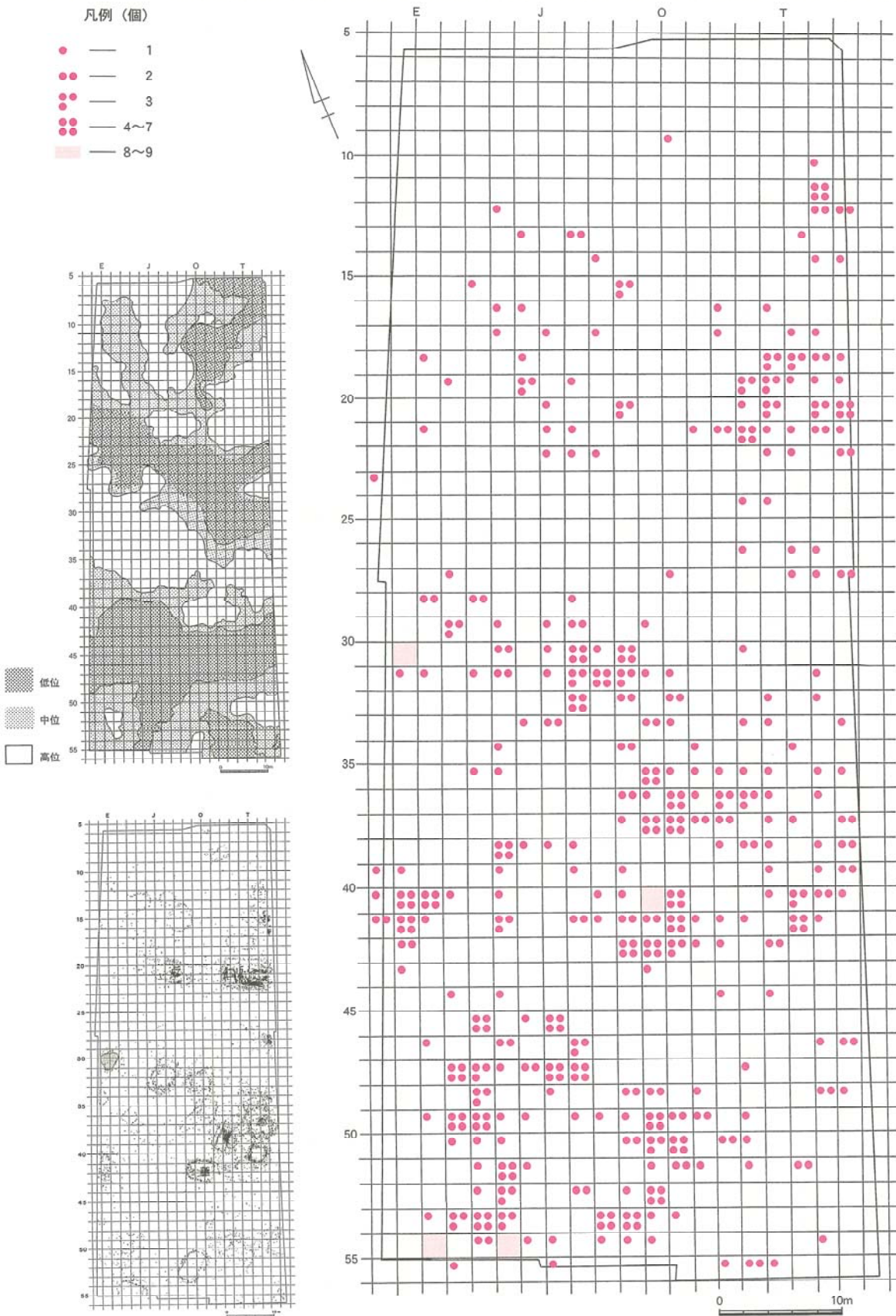


第62図 遺物分布図(7) 石匙分布図

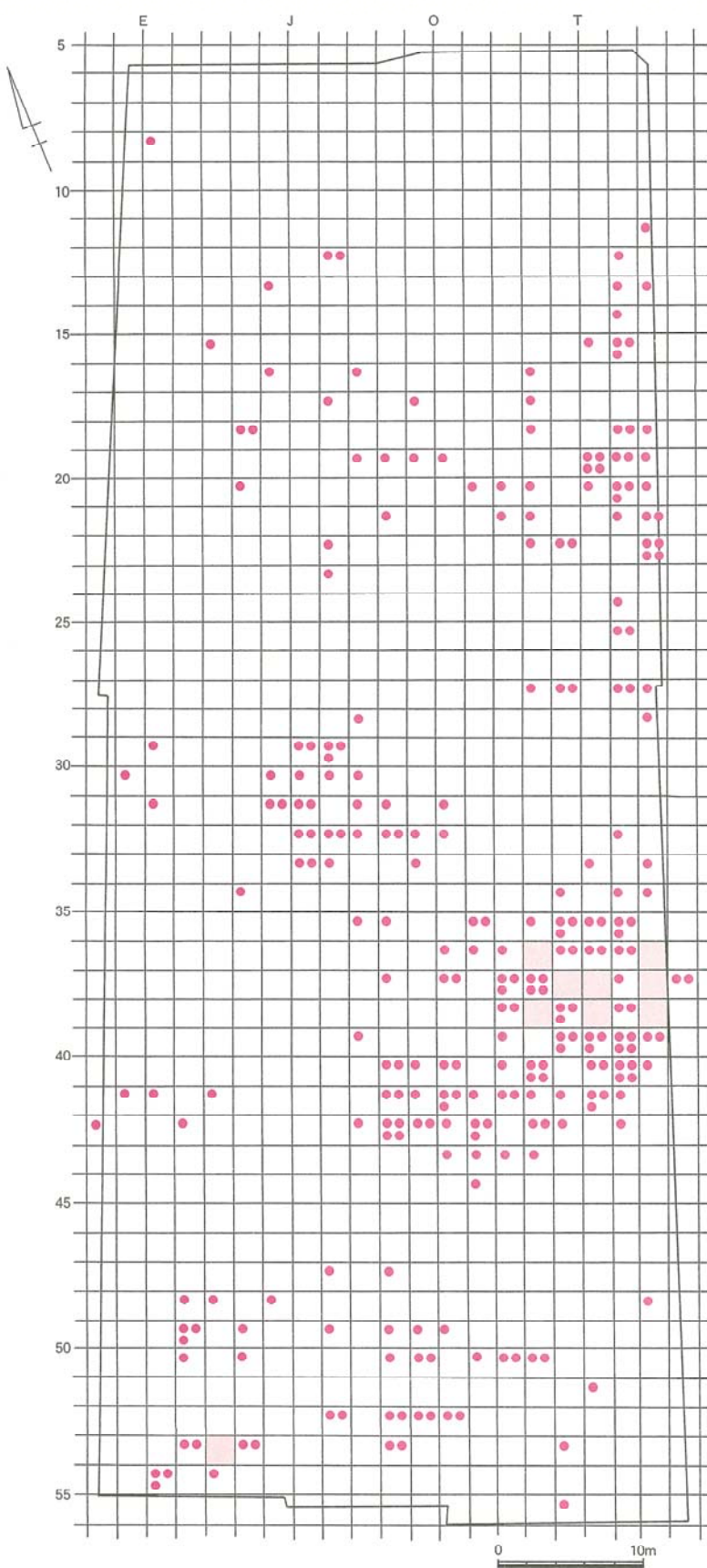
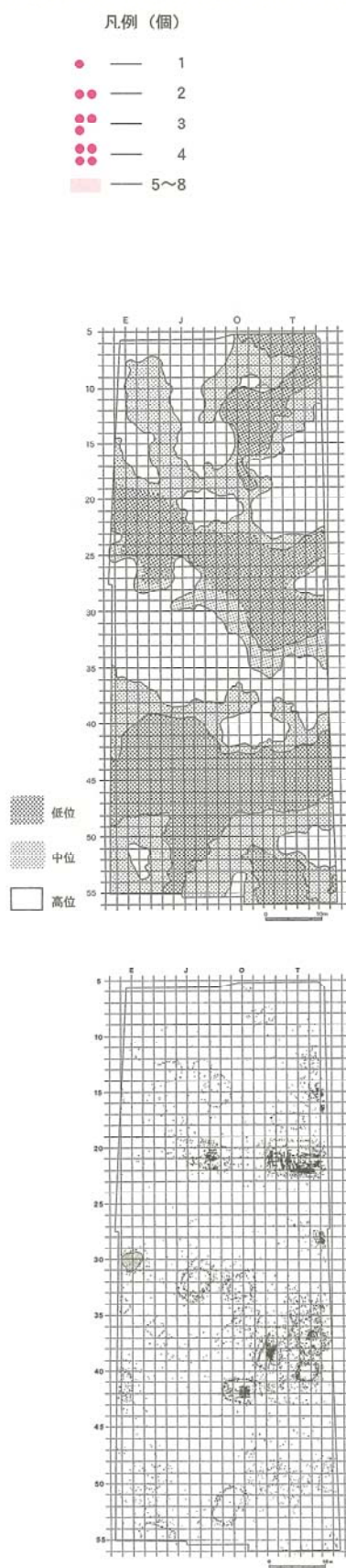




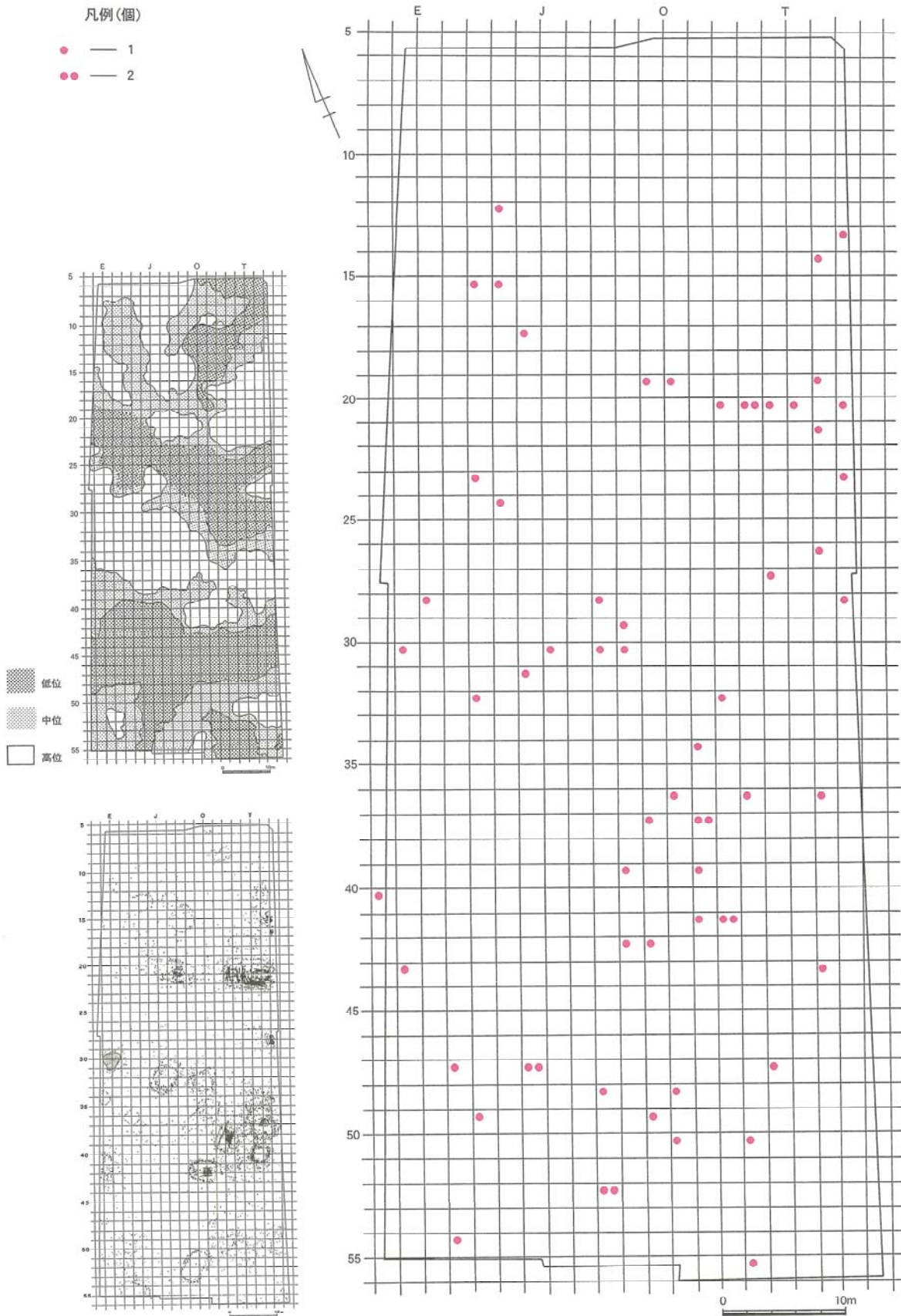
第63図 遺物分布図(8) 三角スクレイパー分布図



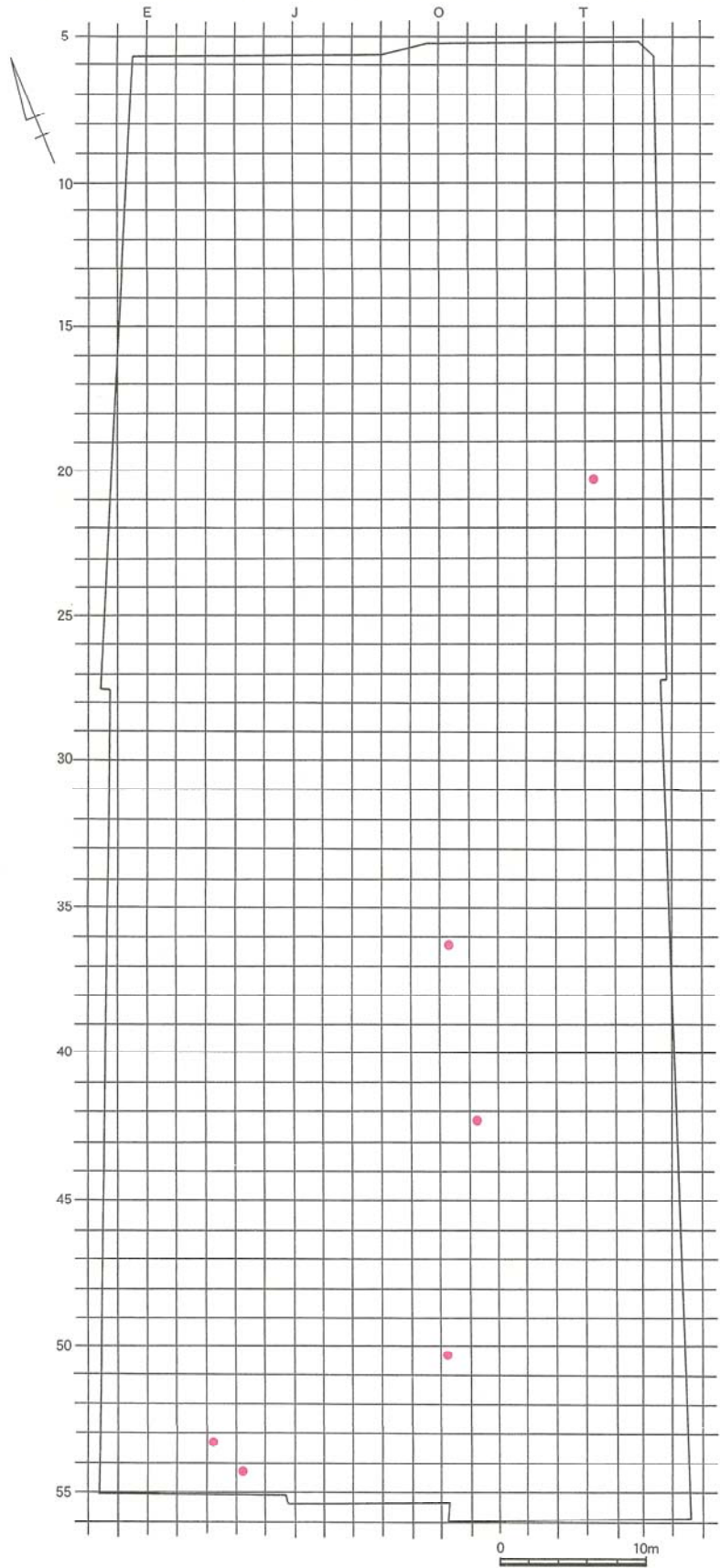
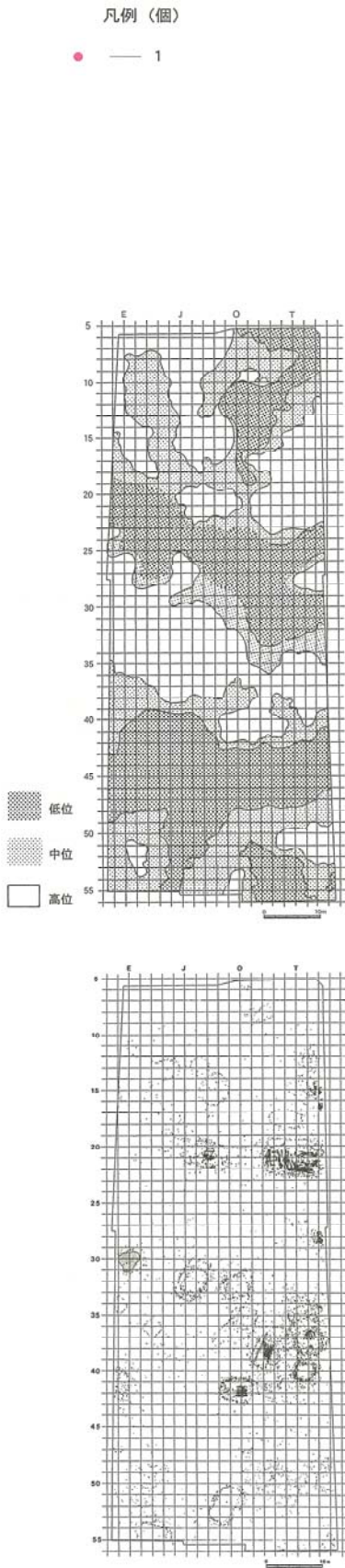
第64図 遺物分布図(9) スクレイパー分布図



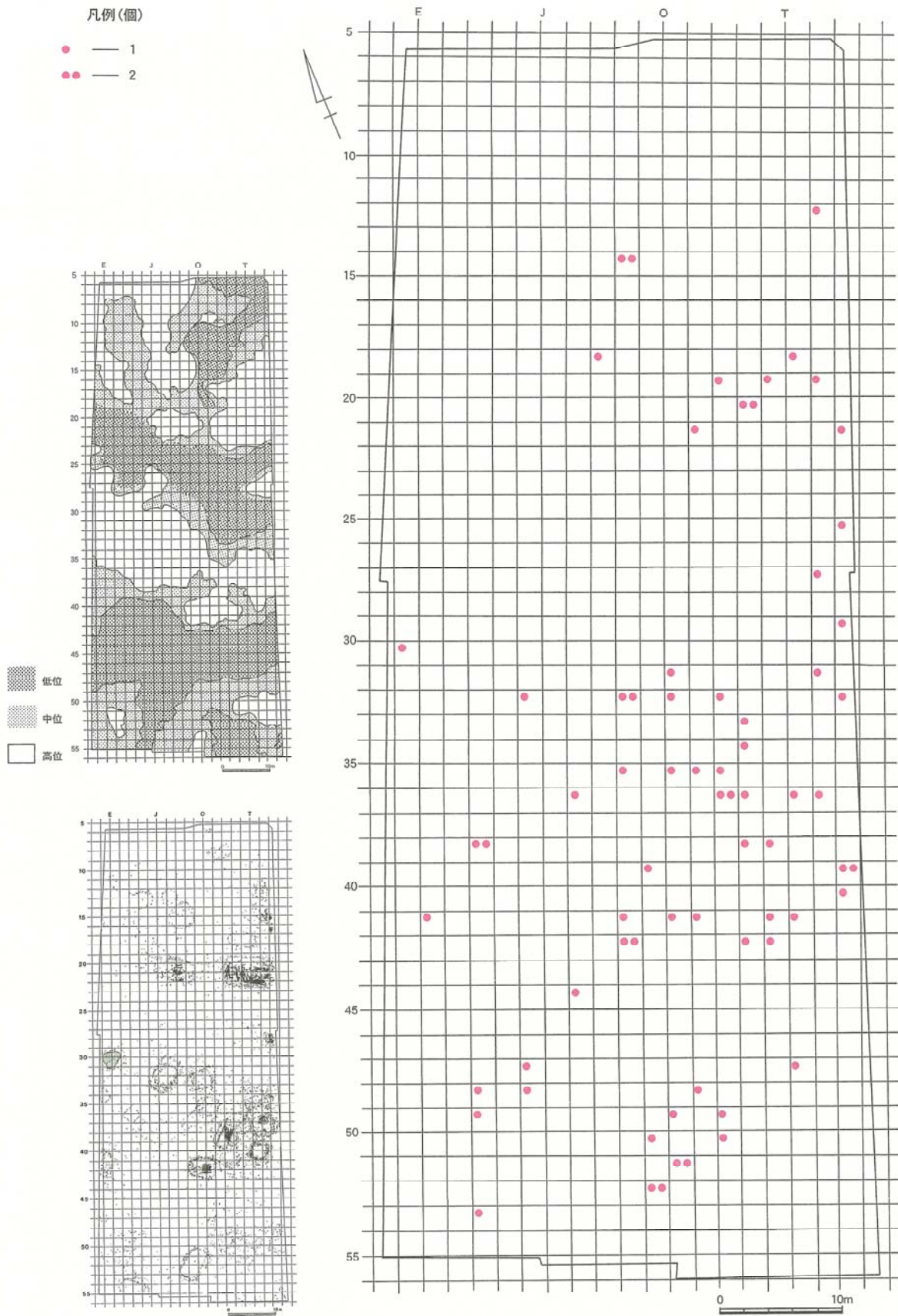
第65図 遺物分布図(10) 石錐分布図



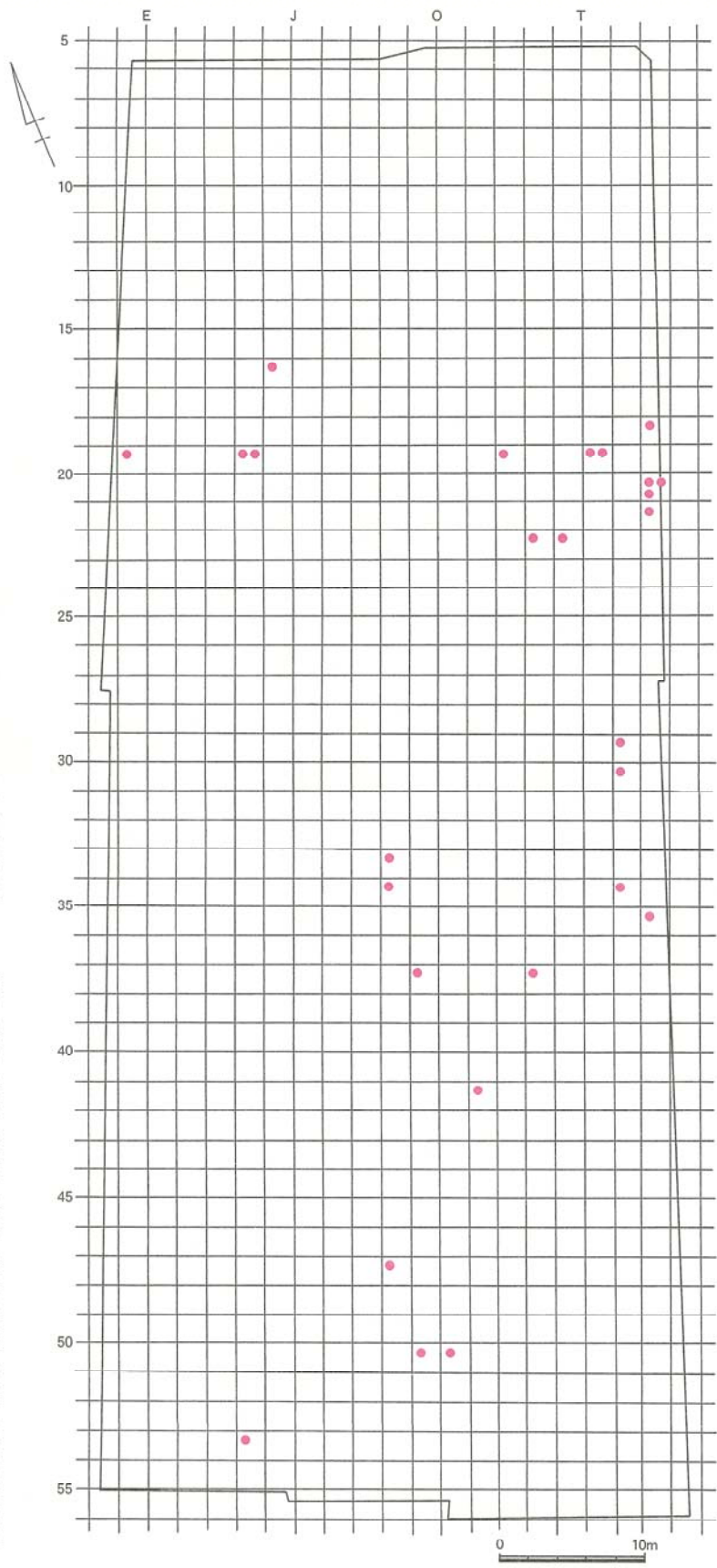
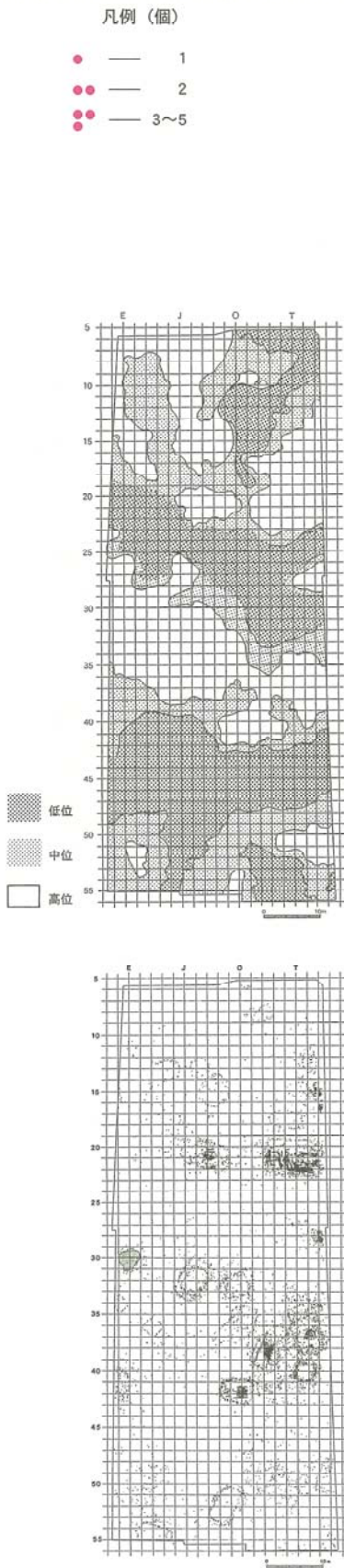
第66図 遺物分布図(11) 籠状石器分布図



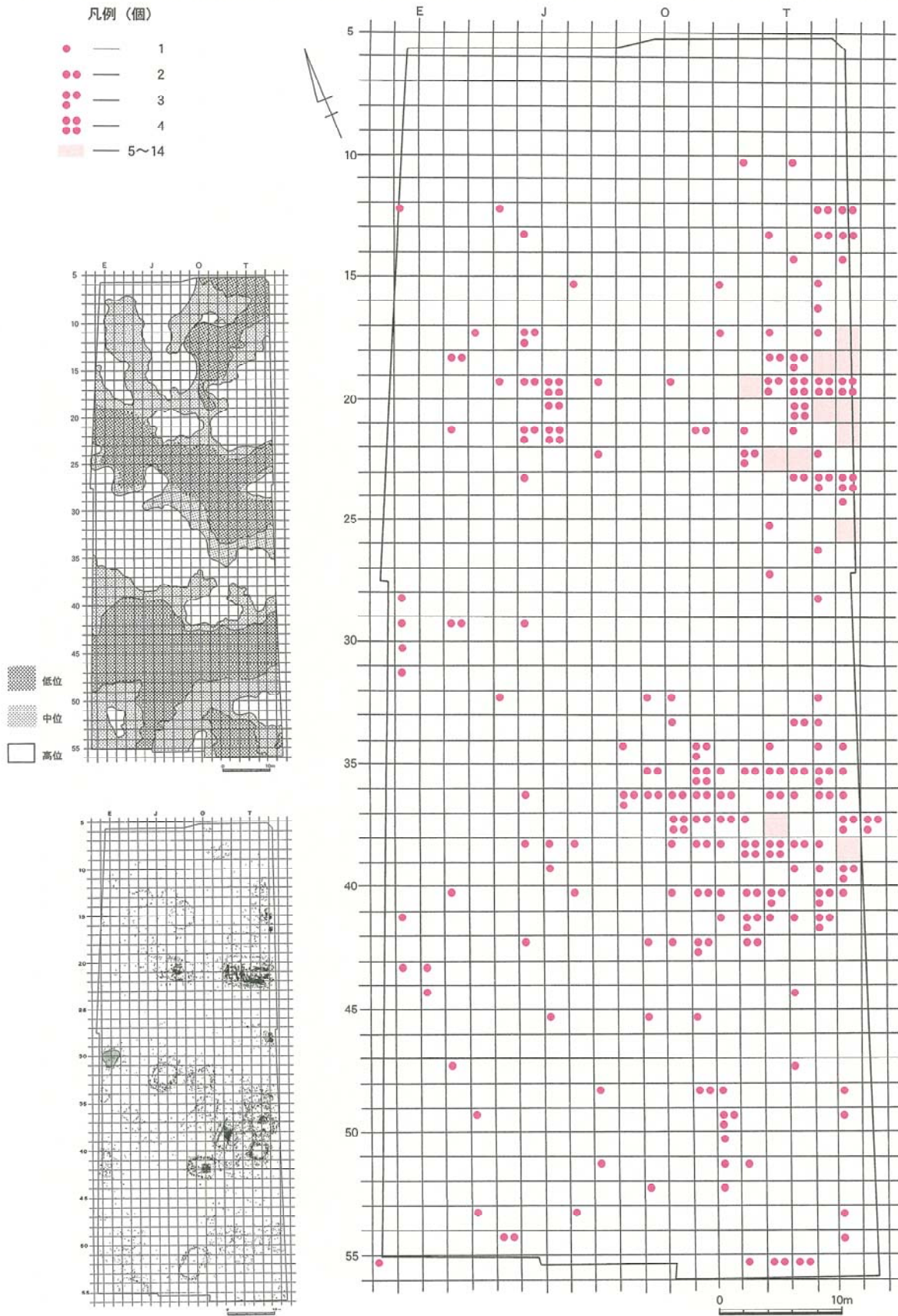
第67図 遺物分布図(12) 打製石斧分布図



第68図 遺物分布図(13) 磨製石斧分布図

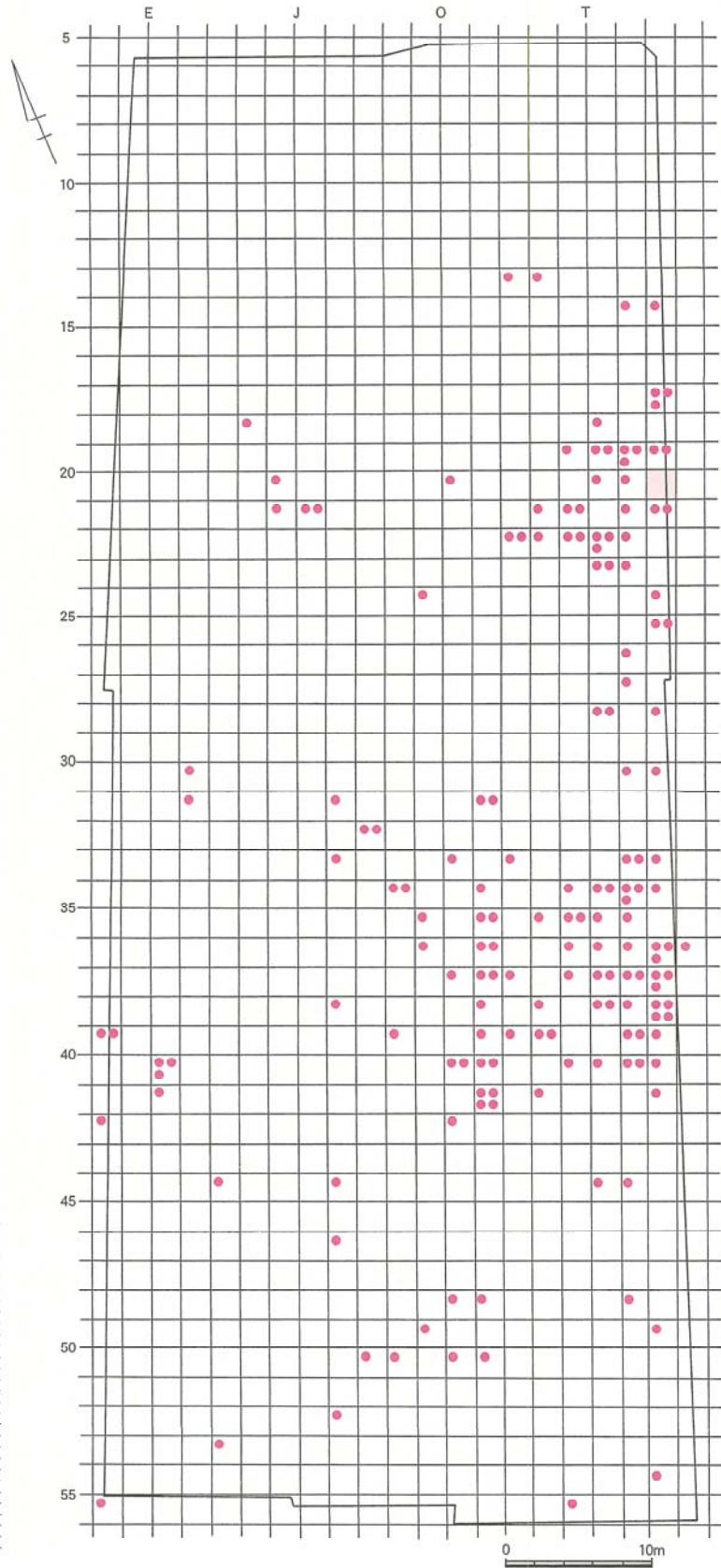
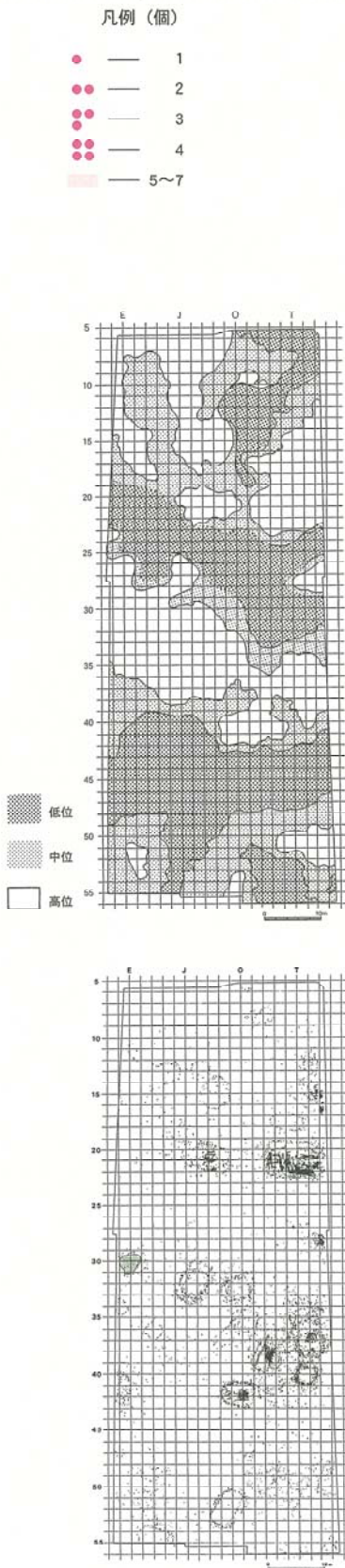


第69図 遺物分布図(14) 凹石分布図

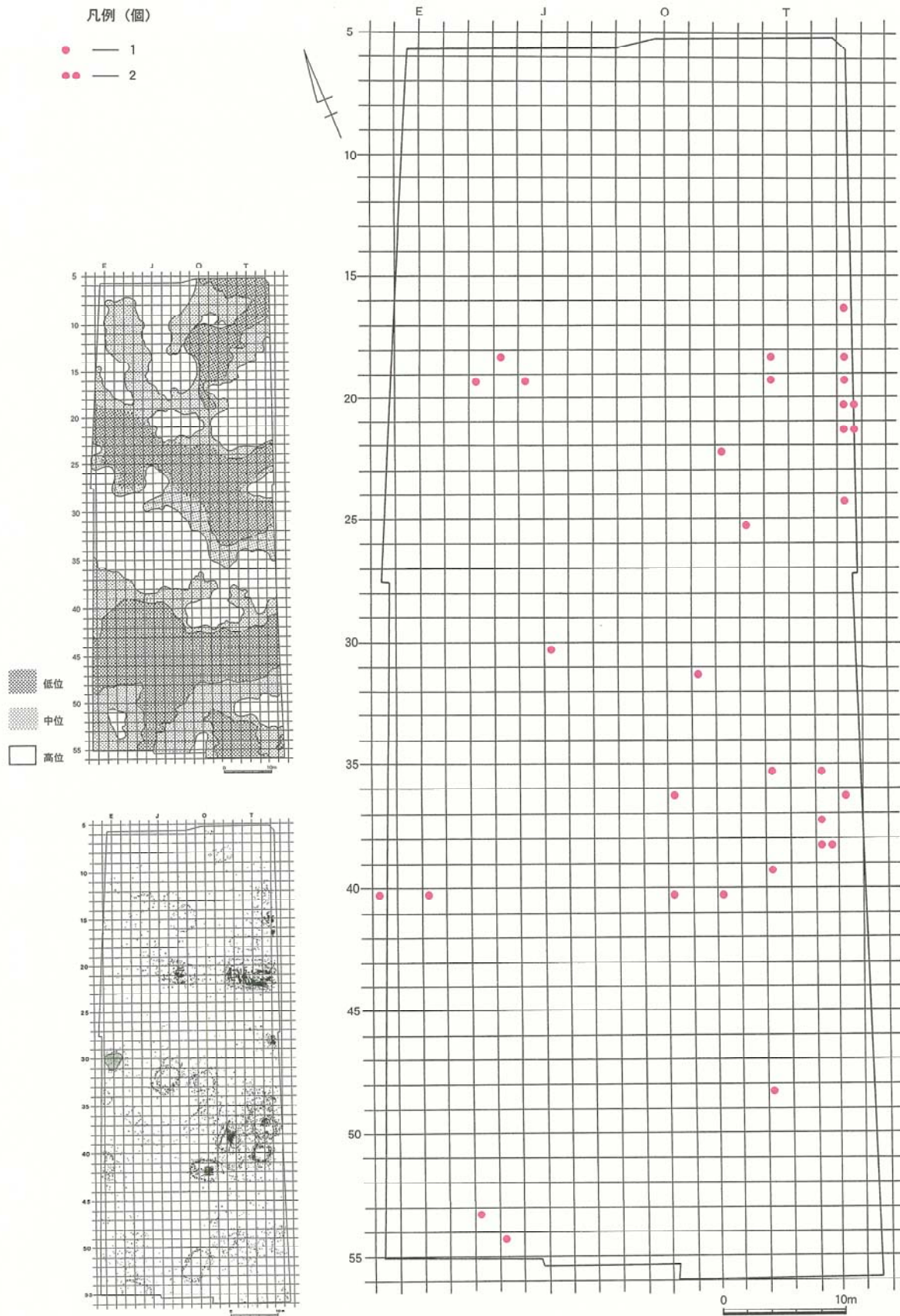


第70図 遺物分布図(15) 磨石分布図

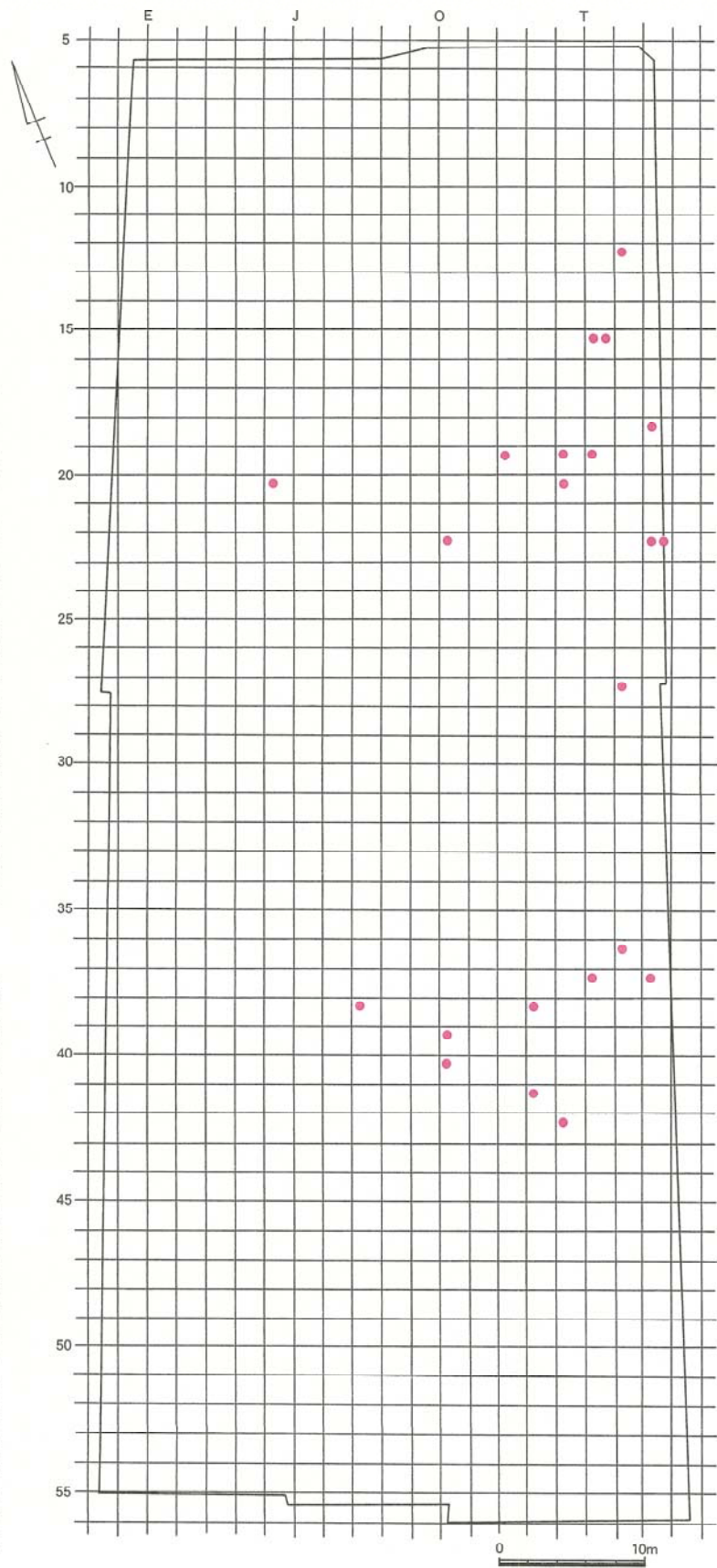
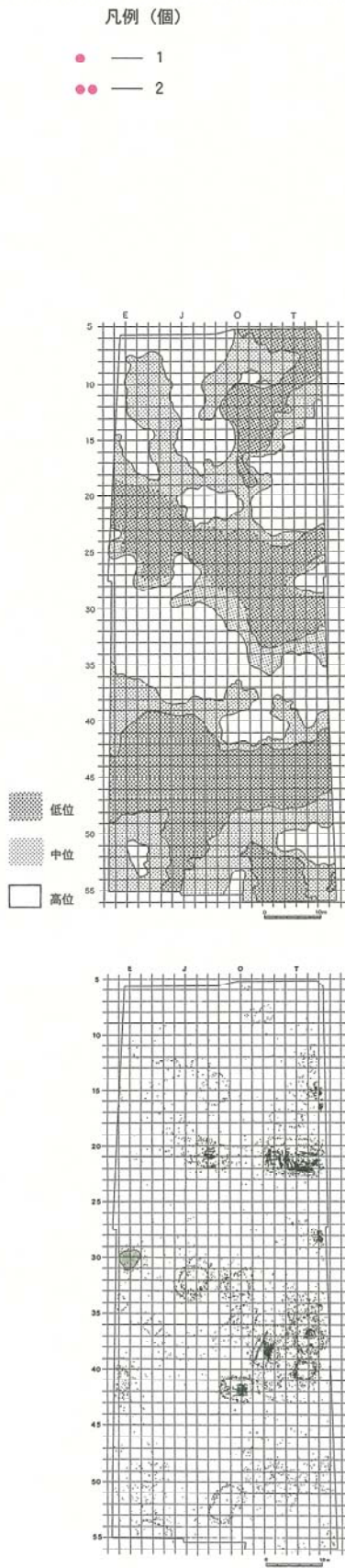




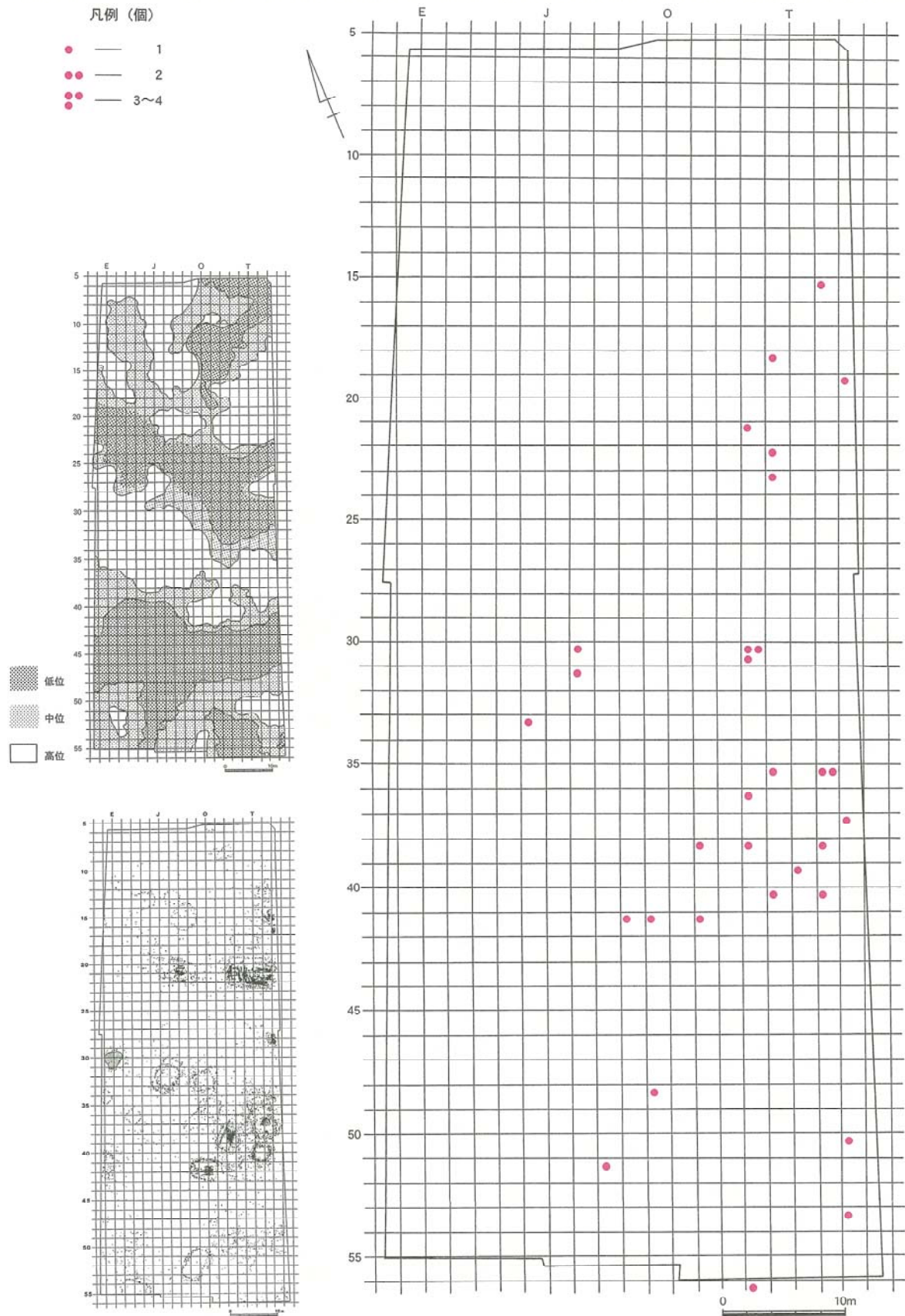
第71図 遺物分布図(16) 磨凹石分布図



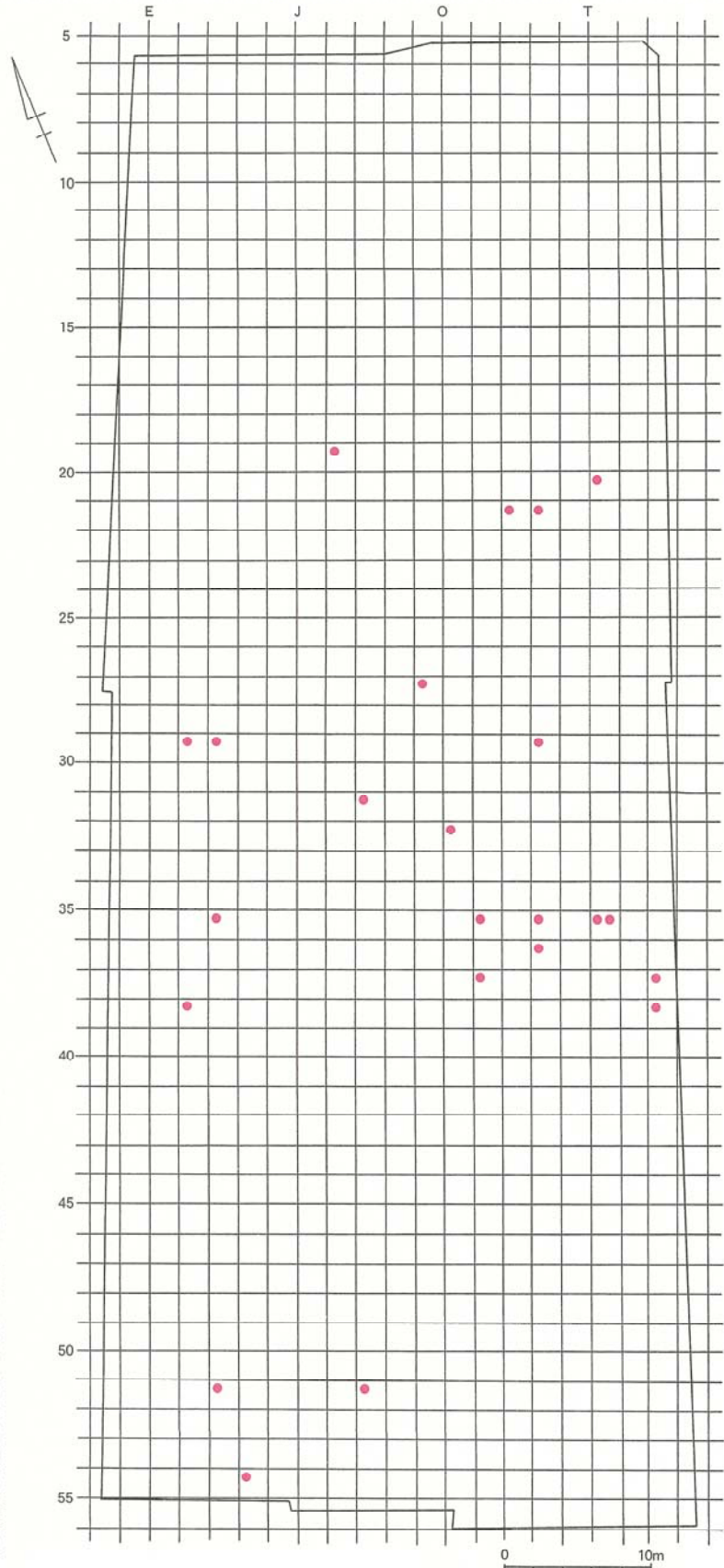
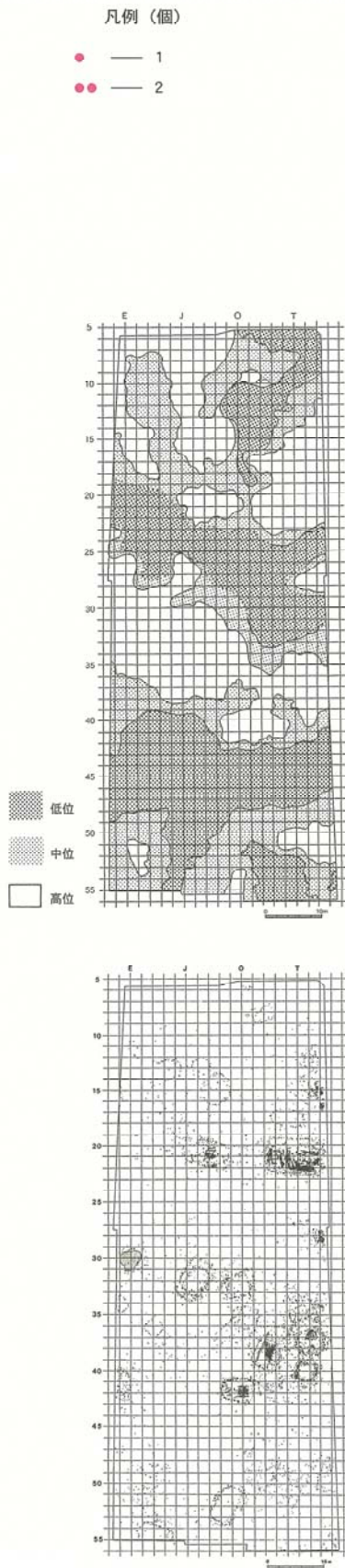
第72図 遺物分布図(17) 砥石分布図



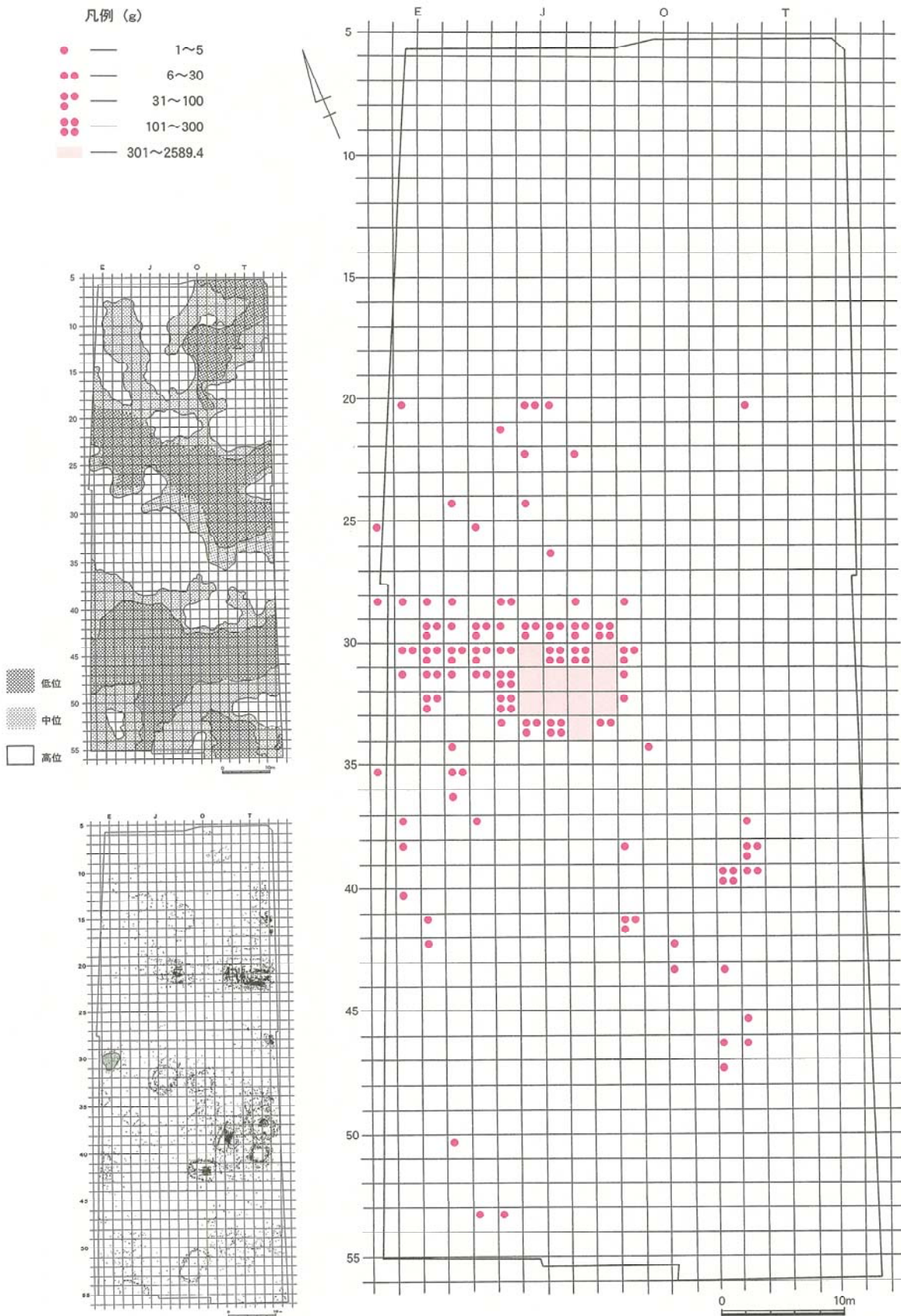
第73図 遺物分布図(18) 石皿分布図



第74図 遺物分布図(19) 異形石器分布図



第75図 遺物分布図(20) 石製品分布図



第76図 遺物分布図(21) クリ分布図



第77図 遺物分布図(22) クルミ分布図